2010年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス英語　＜通期＞	
森　岡　裕　一	4単位

【講義概要】
英語テキストの読解を通じてビジネス用語の基本に親しみ、経済の視点から社会の動きを概観する。

【学習目標】
英語読解力の養成とビジネス用語の基礎知識を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、授業計画についての詳細説明等を行う。
第２回　Unit 1
第３回　Unit 1 & 2
第４回　Unit 2
第５回　Unit 3
第６回　Unit 3 & 4
第７回　Unit 4
第８回　BUSINESS WEEK 抜粋　①
第９回　BUSINESS WEEK 抜粋　①
第10回　Unit 5
第11回　Unit 5 & 6
第12回　Unit 6
第13回　BUSINESS WEEK 抜粋　②
第14回　BUSINESS WEEK 抜粋　②
第15回　Unit 7
第16回　Unit 8
第17回　Unit 9
第18回　BUSINESS WEEK 抜粋　③
第19回　BUSINESS WEEK 抜粋　③
第20回　Unit 10
第21回　Unit 11
第22回　BUSINESS WEEK 抜粋　④
第23回　BUSINESS WEEK 抜粋　④
第24回　Unit 12
　　Unit 12
　　Unit 12
第25回　Unit 13
第26回　BUSINESS WEEK 抜粋　⑤
第27回　UNit 14
第28回　Unit 15
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　40%　出席　20%
試験は主として授業時間内に小テストの形式で行う。必要があれば、期末試験を実施することもありうる。

【教科書】
ジョゼフ・ピアス スモール・イズ・スティル・ビューティフル 英宝社

【備考】
【準備学習の指示】普段から新聞の社会・経済面になじんでおくこと。
BUSINESS WEEKの抜粋記事についてはなじみのない語彙が頻出すると思われるが、こまめに辞書にあたって予習する態度を続けてほしい。そうすれば語彙力も身に付き、ビジネスの場で情報の発信・受信に役立つことは間違いない。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス情報利用　01＜春＞ ビジネス情報利用　02＜春＞	
榎　本　光　世	2単位

【講義概要】
表計算ソフトのMicrosoft Excelを用いて中級程度の利用が可能なスキルを得る。また、実用レベルではないが、ビジネスで行われる計算を例題に用いる。

【学習目標】
Excelのシミュレーション機能、テーブル、マクロを利用可能なスキルを得る。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明
第２回　パソコンの仕組みとWindowsの使い方
第３回　インターネットの利用
第４回　Wordの基本（その１）
第５回　Wordの基本（その２）
第６回　Excelの基本（その１）
第７回　Excelの基本（その２）
第８回　PowerPointの基本
第９回　Excelの中級１（セルの選択、シート、グラフ）
第10回　Excelの中級２（グラフ、書式、スタイル）
第11回　Excelの中級３（印刷、データフォーム、転記、集計 ）
第12回　Excelの中級４（シミュレーション）
第13回　Excelの中級５（マクロとVBA　その１）
第14回　Excelの中級６（マクロとVBA　その２）
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更されることがある）

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　30%　出席　70%
試験の代わりにレポートの提出を課す予定。
出席率を重視する。

【参考文献】
実習中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
ビジネス情報利用　03＜春＞ ビジネス情報利用　04＜春＞	
大　嶋　耕　一	２単位

【講義概要】

コンピュータは今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になっている。この授業では、これらの局面でコンピュータを道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

なお、この授業では、基本的なデータ処理を演習形式で学ぶ中で、コンピュータの仕組みやデータ処理の理論的な事柄を学べるよう工夫している。

【学習目標】

コンピュータの初心者を対象に、データ入力、ファイル管理、E-mailの活用、ワープロ、表計算、異なるアプリケーション間のデータの互換について、基本的な事柄を学習する。

進度の速い学生や、すでに基本を習得している学生に対しては、学生個々の学習履歴に応じて、内容の深度についてアレンジができるように配慮し、学生それぞれのニーズに応じてより深く学べるようにし、最終的にはデータを自在に扱うことができることを目標とする。

【講義計画】

第１回　ガイダンス、コンピュータのハードウェア、Windowsの基本操作（その１）
第２回　Windowsの基本操作（その２）、キーボードの操作（英字・数字・記号）
第３回　キーボードの操作（英字・数字・記号）、クリップボードを利用したコピー・貼り付け
第４回　ワープロによる文書作成（その１）：文書作成の基礎知識
第５回　ワープロによる文書作成（その２）：文書編集の基礎知識
第６回　ネットワークの利用(１)(LANとインターネット)
第７回　進度調整、総合演習
第８回　ネットワークの利用(２)(WWWとE-mail)
第９回　表計算ソフトの活用(１)
第10回　表計算ソフトの活用(２)
第11回　クリップボードとデータ形式（クリップボードの活用）
第12回　インターネット情報の扱い方
第13回　総合演習
第14回　総合演習

【成績評価の方法】

レポート　70%　出席　30%
毎回複数の提出物（レポート）を課します（試験は実施しません）。

【教科書】

テキストは使用せず、毎回必要なプリントを配布します。

【参考文献】

市販の入門書等を参照してください。その他参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

【備考】

【準備学習の指示】
毎回、初心者用課題から上級者用課題まで用意し、提示しているので、授業中にこなしきれなかった課題は、可能な限り次回の授業までにやっておくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
福祉科教育法　＜通期＞	
新　崎　国　広	４単位

【講義概要】

この科目は、高等学校福祉科教育免許取得に関する福祉科教職課程の教科教育法として設置されている。この講義では、まず社会福祉の基本理念について学習する。次に、福祉科の教育目標･教育内容・教育指導法について系統的に理解する。最後に、実際の授業に必要な指導計画･教材研究・授業設計・評価・等について理論と技法を取得する。　授業方法は､講義・演習・模擬授業等を組み合わせ展開する。

【学習目標】

教科「福祉」は,「社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的，体験的に習得させ，社会福祉の理念と意義を理解させるとともに，社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し，社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことを目標にしている。高等学校の福祉科または普通科総合選択科における福祉科目の授業を担当しうるための基本的な理論と技法を習得することをめざす。主体的な授業参加を望む。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
　　：教師･受講生の自己紹介、学習目標･授業内容･評価についての説明等
第２回　福祉科教育とはなにか１　「人間の尊厳･ノーマライゼーション理念等」
第３回　福祉科教育とはなにか２　「福祉を主体的に考えられる人間の形成」
第４回　福祉科教育とはなにか３　「教科の枠を超えた福祉科教育」
第５回　福祉科教育の意義
第６回　福祉科教育の成立
第７回　福祉教育としての福祉科教育の意義
第８回　福祉科の教育課程の編成１－専門教育としての福祉科－
第９回　福祉科の教育課程の編成１－職業教育としての福祉科－
第10回　福祉科の教育課程の編成１－総合的な学習の時間と福祉科の関連－
第11回　福祉科の科目構成１－福祉科７科目の概要－
第12回　福祉科の科目構成２－福祉科７科目の概要－
第13回　教育計画の作成１－授業計画案の作成－
第14回　教育計画の作成２－授業計画案の作成－
第15回　前期のふりかえり＆夏期休業期間のレポート出題
第16回　後期オリエンテーション：今後の授業のすすめ方
第17回　福祉科教師の養成－福祉科教師の役割･資質－
第18回　福祉科教師の職業倫理
第19回　福祉科の教育実習
第20回　福祉科授業の実際１－アイスブレークやアクティビティー
第21回　福祉科授業の実際２
第22回　福祉科授業の実際３
第23回　学習教材研究１
第24回　学習教材研究２
第25回　福祉科学習指導法１－各教科の学習指導案の作成と模擬授業
第26回　福祉科学習指導法２－各教科の学習指導案の作成と模擬授業
第27回　福祉科学習指導法３－各教科の学習指導案の作成と模擬授業
第28回　福祉科学習指導法４－各教科の学習指導案の作成と模擬授業
第29回　福祉科学習指導法５－各教科の学習指導案の作成と模擬授業
第30回　一年間のふりかえり

【成績評価の方法】

試験　30%　レポート　30%　出席　40%
①平常点（出席日数・参加態度・授業後の小レポート等）40%
②夏期休業期間中に作成するレポート（授業計画案の作成30%）
③年度末の最終レポート試験の評価30%
学校見学や模擬授業の実施等、できるだけ参加型の授業を考えているので積極的で参加意欲のある学生の受講を期待する。

【教科書】

近藤久史・二文字理明他編著 福祉科教育学 明石書店
このテキストを基本に学習を進めるので、購入のこと
新崎国広・立石宏昭編著 福祉教育のすすめ ミネルヴァ書房

【参考文献】

矢幅清司・細江容子『改訂高等学校学習指導要領の展開』明治図書
ISBN: ４-18-200913-４

科目名　クラス　講義区分	
福祉職入門　＜秋＞	
福　田　公　教	２単位

【講義概要】
就職先としての福祉の職場や、そこで働く人々、働く喜びや辛さなどを知り、大学で福祉を学ぶ目標づくりをします。実際に現場で働く人に交代で出講してもらい、実際に現場での話を聞き、その話を元に、受講生で議論します。

【学習目標】
自分の将来の就職先を決め、そのために学生時代に何を学んでおかなければならないかを考え、目標を定めます。福祉現場は多様にあり、その仕事の内容も多様です。したがって、その仕事を通しての喜びや辛さも多様です。どうして現場で働く人がこの仕事に魅力を感じているのかを知ることからはじめます。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　福祉の仕事
第２回　福祉の職場と就職状況
第３回　高齢者の入所施設
第４回　高齢者の地域生活
第５回　障害者の入所施設
第６回　障害者の地域生活
第７回　児童養護施設
第８回　社会福祉協議会
第９回　NPO/NGO
第10回　精神保健分野の病院、施設
第11回　医療福祉
第12回　障害者自立生活センター
第13回　公務員
第14回　その他の仕事、その他の進路

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%

【教科書】
毎回講師から資料配布

【備考】
インテグレーション科目です。外部からの講師に対して学生らしい対応を求めます。
準備学習の指示：自分の将来の職業について、よく考えておくこと。また、実習、フィールドワークなど、現場体験を整理しておくこと
・インテグレーション科目
・08～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
福祉レクリエーション援助技術　＜秋集＞	
弘　中　陽　子	２単位

【講義概要】
社会福祉や医療・保健領域におけるレクリエーション援助は、さまざまな場に広がってきています。こうした広がりを踏まえた上で、さまざまな対象者の状況、そしてニーズや要望に応じたレクリエーション財を媒介にした福祉レクリエーション援助の技術を学びます。
多種多様なレクリエーション財の体験学習や事例をもとにした、援助過程の実際を実践的に演習形式で学びます。また、福祉レクリエーション援助専門職（福祉レクリエーション・ワーカー）としての役割、可能性を学びます。

【学習目標】
福祉レクリエーション援助の意義、方法を理解し、さまざまな対象者に応じた援助計画の立案から展開、評価までの一連の援助技術を修得する。
また、福祉レクリエーション援助者として求められる「対人援助技術」も修得する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業内容、展開及び、評価方法等についてガイダンス）
　　福祉レクリエーション援助の意義・目的（再確認）
第２回　レクリエーション財の考え方
第３回　レクリエーション財の活動分析・楽しみの分析
第４回　対象者に応じたレクリエーション財のアレンジ１
第５回　対象者に応じたレクリエーション財のアレンジ２
第６回　対象者に応じたレクリエーション財のアレンジ３
第７回　楽しみを基調としたさまざまな療法１
第８回　楽しみを基調としたさまざまな療法２
第９回　楽しみを基調としたさまざまな療法３（アロマセラピーの体験学習）
第10回　援助者のためのコミュニケーション技法１
第11回　援助者のためのコミュニケーション技法２
第12回　援助者のためのコミュニケーション技法３
第13回　個別レクリエーション援助について考える１
第14回　個別レクリエーション援助について考える２
第15回　まとめ（小テスト）
第16回　個別レクリエーション援助を計画する１
第17回　個別レクリエーション援助を計画する２
第18回　個別レクリエーション援助計画を実施する１
第19回　個別レクリエーション援助計画を実施する２
第20回　グループを介したレクリエーション援助について考える
第21回　グループを介したレクリエーション援助を計画する１
第22回　グループを介したレクリエーション援助を計画する２
第23回　グループを介したレクリエーション援助の実際１
第24回　グループを介したレクリエーション援助の実際２
第25回　高齢者におけるレクリエーション援助の実際
第26回　障害者におけるレクリエーション援助の実際
第27回　児童におけるレクリエーション援助の実際
第28回　援助者の人間的資質
第29回　福祉レクリエーション援助者としての役割
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
レポートには、授業内で指示をした課題、プリントの提出等も含みます。
また、この授業は、具体的な事例を用いて実践的な演習を中心に行います。
何事にも主体的に、積極的に、また協調性ももって取り組むことを望みます。

【教科書】
日本レクリエーション協会監修　福祉レクリエーション援助の実際
中央法規出版
日本レクリエーション協会監修　福祉レクリエーション援助の方法
中央法規出版

【備考】
【準備学習の指示】
レクリエーション援助において、「楽しさ」や「心地よさ」「遊び」がキーワードです。授業だけに限らず、自分の普段の生活の中の楽しさや心地よさ、または生活の遊び、さまざまなレクリエーション活動について、しっかり意識をし、自分の感性を磨き育てましょう。
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分	
福祉レクリエーション援助論　＜春＞	
弘　中　陽　子	２単位

【講義概要】
福祉が人々の幸福に繋がるものだとすれば、人々はいきいきと生きるすべを提供するレクリエーションとは、その本質を同じくするという見方ができるはずです。そうした生活とレクリエーションの結びつきを理解した上で、福祉レクリエーションを福祉現場で展開していくための考え方や方法論を学びます。また、阻止区の理念やサービスの目的を理解し、それを具体的に援助計画の中に反映させるための過程を学びます。
尚、この科目は、福祉レクリエーション・ワーカー資格を取得するための必修科目です。

【学習目標】
福祉レクリエーション援助方法、援助過程（援助プロセス）を理解し、対象者に応じた援助過程が実践できる援助技術を習得する。
特に、具体的な実践を交えた演習を通して、グループを介したレクリエーション援助の意義と方法を理解する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業内容、展開及び評価方法等についてガイダンス）
　　福祉レクリエーションの理解（再確認）
第２回　福祉レクリエーション援助の基本的考え方
第３回　福祉レクリエーション援助の目的（最終到達目標）
第４回　福祉レクリエーション援助プロセス１（A-PIEプロセス）
第５回　福祉レクリエーション援助プロセス２
第６回　福祉レクリエーション援助の３体系
第７回　個別レクリエーション援助の方法
第８回　個別レクリエーション援助計画の実際
第９回　グループを介したレクリエーション援助の意義と効果
第10回　グループダイナミクスと社会的相互作用
第11回　グループの成長過程
第12回　グループを介したレクリエーション援助計画の実際１
第13回　グループを介したレクリエーション援助計画の実際２
第14回　社会資源の発掘・活用
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
レポートには、授業内での課題やプリント提出等の提出物も含みます。

【教科書】
日本レクリエーション協会監修　福祉レクリエーション援助の実際　中央法規出版

【備考】
【準備学習の指示】
レクリエーション援助において、「楽しさ」や「心地よさ」「遊び」がキーワードです。授業だけに限らず、自分の普段の生活の中の楽しさや心地よさ、または生活の遊び、さまざまなレクリエーション活動について、しっかり意識をし、自分の感性を磨き育てましょう。
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分	
福祉レクリエーション論　＜春＞	
石　田　易　司	２単位

【講義概要】
様々な福祉対象者のQOLの向上を目指し、介護などの日常生活支援を超えて、より豊かな暮らしをどう支援するかを考えます。施設で、在宅で、また個人で、集団で、地域ぐるみでいろんな活動が可能であることや、レクリエーション活動を通じて、個人の発達を保障したり、地域づくりを推進するなど、具体的な事例を通して学びます。

【学習目標】
様々な事例を通して、福祉レクリエーションがこれからの福祉にとってなくてはならないものであることを理解します。あわせて、そのためにどういう視点や技術、能力が必要かを学び、福祉レクリエーション援助論や援助技術の授業との連携を図ります。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション、評価、授業の概要や福祉レクリエーションのイメージ作り
第２回　福祉レクリエーションの考え方
第３回　福祉レクリエーション支援者
第４回　福祉レクリエーションのあゆみ
第５回　福祉レクリエーションに関わる法体系と行政施策
第６回　福祉レクリエーション分野
第７回　福祉レクリエーションと個人の発達や生活の質の向上
第８回　福祉レクリエーションとグループ活動
第９回　福祉レクリエーションと地域づくり
第10回　福祉レクリエーション支援
第11回　福祉レクリエーション支援者
第12回　外国における福祉レクリエーション
第13回　福祉レクリエーション研究
第14回　授業のまとめと福祉レクリエーションワーカー

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%

【教科書】
日本福祉文化学会 QOLの向上と福祉文化 明石書店

【参考文献】
長尾正子の介護レクリエーション（エルピス社）
認知症キャンプマニュアル（明石書店）
福祉レクリエーション総論（中央法規）

【備考】
準備学習の指示：実際の事例の見学と支援体験。自分で見つけられない人には、教員から助言します。
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分		
フランス語Ｉａ		
横　道　朝　子 Annie　Yamasaki	01＜春＞ 02＜春＞	１単位

【講義概要】
会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。
さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

【学習目標】
会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生の方からも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

【講義計画】
第１回　plan de classe
　　présentation du cours
第２回　texte １ "A Cannes１"
　　現在形肯定形と否定形 être s'appeler
　　発音
第３回　texte ２ "A Cannes２"
　　現在形肯定形と否定形 être avoir parler manger
　　冠詞をとらない名詞
第４回　texte ３ "Au Salon de l'Auto"
　　現在形 aimer apporter aller venir
　　定冠詞　代名詞
第５回　texte ４ "Au bar"
　　現在形 habiter voyager se coucher s'intéresser
　　不定冠詞　代名詞
第６回　texte ５ "j'ai rendez-vous"
　　現 在 形 arriver téléphoner utiliser　finir choisir réussir
　　部分冠詞　代名詞
第７回　texte ６ "On visite l'appartement"
　　現 在 形 entrer rentrer rester présenter regarder travailler
　　名詞と形容詞の複数
第８回　texte ７ "Les hommes sont difficiles"
　　現在形 écouter choisir boire savoir
　　複合過去(avoir) écouter choisir
　　基数un deux trois
第９回　texte ８ "Deux chambres pour une personne"
　　現在形 faire prendre attendre répondre
　　複合過去(être) aller se coucher
　　時間の表現
第10回　texte ９ "Une cliente difficile"
　　現在形と複合過去 demander acheter payer se lever
　　曜日 月 日付け
　　お金
第11回　révision １ ２ ３
第12回　révision ４ ５ ６
第13回　révision ７ ８ ９
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Vies Paralleles（１～９）
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ｉｂ　01＜春＞	
Eddy Louis　Van Drom	１単位

【講義概要】
最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をすることです。たくさんの異なる相手と共同作業をすることのよって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。
ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。
これから、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につきやすいものです。気楽に、愉快にやってください。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第１回　Leçon １ 道で
第２回　Leçon １ 道で (suite et fin)
第３回　Leçon ２ カフェで
第４回　Leçon ２ カフェで　(suite et fin)
第５回　Leçon ３ 駅で
第６回　Leçon ３ 駅で　(suite et fin)
第７回　Leçon ４ 映画で
第８回　Leçon ４ 映画で　(suite et fin)
第９回　Leçon ５ 大学の食堂で
第10回　Leçon ５ 大学の食堂で　(suite et fin)
第11回　Leçon ６ カフェテリアで
第12回　Leçon ６ カフェテリアで　(suite et fin)
第13回　Leçon ７ 夕食
第14回　Leçon ７ 夕食　(suite et fin)
第15回　Leçon ８ 地下鉄で

【成績評価の方法】
１．　評価方法は、試験（１／３）及び　出席／平常点　（１／３）の総合評価とする
２．　小テストの成績を総合的に評価する（１／３）

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien ASAHI　(2009)

【参考文献】
例えば
１．　Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
２．　Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
　　など

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅰb　02<春>	
横　道　朝　子	1単位

【講義概要】
はじめてフランス語を習得する受講者を対象に、フランス語の基礎を学びます。授業では、フランス語の文法事項を着実に習得すると同時に、発音練習やリスニング練習を通して、コミュニケーション能力を養います。さらに、映像資料を用いて、フランスやその文化に触れる機会も多く設けたいと考えています。

【学習目標】
フランス語初級文法の知識とフランス語の運用能力（「読む・書く・話す・聞く」）の基礎を身につける。

【講義計画】
第１回　Initiation：　フランス語であいさつしよう／アルファベ／発音の規則
第２回　Leçon １：パリへの出発
　　名詞／不定冠詞／定冠詞／部分冠詞
第３回　Leçon ２：出会い
　　主語人称代名詞とetre動詞の活用
第４回　フランス語を使おう(１)
　　自己紹介／ホテルのチェックイン／数字
第５回　Leçon ３：旅行に関するアドバイス
　　avoirの直説法現在形／否定文／指示形容詞
第６回　Leçon ４：夜のクルージング
　　第一群規則動詞／疑問形
第７回　フランス語を使おう(２)
　　曜日／月／時刻／前置詞
第８回　Leçon １～４までの総復習
第９回　中間テスト
第10回　Leçon ５：旅の計画
　　allerとvenirの現在形／近接未来／近接過去
第11回　Leçon ６：買い物をする
　　所有形容詞／疑問代名詞／疑問形容詞
第12回　フランス語を使おう(３)
　　家族を紹介する／履歴書を書く
第13回　Leçon ５～６ の総復習／確認テスト
第14回　春学期の総復習
第15回　春学期最終試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%

【教科書】
明石伸子他 アメリとケンゾー 朝日出版社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
フランス語Ⅱa		
横　道　朝　子 Annie　Yamasaki	01<秋> 02<秋>	1単位

【講義概要】
会話的スケッチを読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた正しい口語表現を学習します。
さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を積極的に行います。

【学習目標】
会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストはスケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生の方からも用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語でこたえる、という相互形式で授業をすすめます。

【講義計画】
第１回　présentation du cours
　　plan de classe
第２回　texte10　"Vive la liberté"
　　現在形vouloir pouvoir voir
　　複合過去の不規則過去分詞
　　過去分詞の一致
　　複合過去を用いる表現
　　時間に関する質問と表現
第３回　texte11　"l'heure, c'est l'heure"
　　現在形chercher finir savoir partir
　　近接未来
　　その用法
　　指示形容詞
　　序列数形容詞とその用現
第４回　texte12　"Deux allers"
　　現在形prendre sortir obtenir
　　近接過去　その用法
　　所有形容
　　êtreとavoirを用いる表現
第５回　texte13　"C'est un voyage d'affaires?"
　　現在形 apprendre comprendre suivre vivre
　　使役　その用法
　　疑問詞　その用法
第６回　texte14　"C'est pour une enquête"
　　現在形inviter dire lire connaître
　　受け身　その用法
　　前置詞＋名詞
第７回　texte15　"Mettez-vous d'accord!"
　　現在形se dépêcher se préparer　pouvoir devoir
　　進行形　その用法
　　前置詞＋不定詞
第８回　texte16　"J'ai une bonne nouvelle!"
　　現在形se marier　se rappeler mettre transmettre
　　現在分詞
　　人称代名 詞主語と直接補語
第９回　texte17　"Voilà votre clé"
　　現在形donner réserver remplir servir
　　命令法
　　人称代名詞　間接補語
第10回　texte18　"je cherche un logement"
　　現在形復習proposer oublier trouver
　　複合過去の不規則過去分詞復習
　　人称代名詞　強調　属詞　前置詞のあと　命令法のあと
第11回　révision 10-11-12
第12回　révision 13-14-15
第13回　révision 16-17-18
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Vies Paralleles (10～18)
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅱb　01<秋>	
Eddy Louis　Van Drom	1単位

【講義概要】
最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をすることです。たくさんの異なる相手と共同作業をすることのよって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。
ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。
これから、フランス語に時間とエネルギーを投入する以上は、使えるフランス語を身につけようではありませんか。積極的に参加して、授業時間を最大限に活用しましょう。自分から進んで、楽しんですることほど、身につきやすいものです。気楽に、愉快にやってください。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第1回　Leçon 8 地下鉄で　(suite et fin)
第2回　Leçon 9 キャンパスで
第3回　Leçon 9 キャンパスで(suite et fin)
第4回　Leçon 10 授業の間で
第5回　Leçon 10 授業の間で(suite et fin)
第6回　Leçon 11 道で
第7回　Leçon 11 道で(suite et fin)
第8回　Leçon 12 電話で
第9回　Leçon 12 電話で(suite et fin)
第10回　Leçon 13 旅行代理で
第11回　Leçon 13 旅行代理で(suite et fin)
第12回　Leçon 14 ローランの場所で
第13回　Leçon 14 ローランの場所で(suite et fin)
第14回　復習
第15回　復習

【成績評価の方法】
1．評価方法は、試験(1/3) 及び　出席／平常点　(1/3)の総合評価とする
2．小テストの成績を総合的に評価する(1/3)

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien ASAHI　(2009)

【参考文献】
例えば
1．Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
2．Le Dico 現代フランス語辞典 (白水社)
など

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

は行

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅱb　02<秋>	
横　道　朝　子	1単位

【講義概要】
フランス語Ⅰbに引き続き、フランス語の基礎を学びます。授業では、フランス語の文法事項を着実に習得すると同時に、発音練習やリスニング練習を通して、コミュニケーション能力を養います。さらに、映像資料を用いて、フランスやその文化に触れる機会も多く設けたいと考えています。

【学習目標】
フランス語初級文法の知識とフランス語の運用能力（「読む・書く・話す・聞く」）の基礎を身につける。

【講義計画】
第１回　春学期の総復習
第２回　Leçon ７：レストランで
　　命令形／非人称表現
第３回　Leçon ８：絵葉書
　　代名動詞／中性代名詞
第４回　フランス語を使おう（４）
　　市場で買い物をする／天気予報
第５回　Leçon ９：観光地を訪ねる
　　比較級／最上級
第６回　Leçon 10：電話
　　直接目的語／間接目的語／受動態
第７回　フランス語を使おう（５）
　　郵便／パソコン／道案内
第８回　Leçon ７～10の総復習
第９回　中間テスト
第10回　Leçon 11：電子メール（１）
　　複合過去形
第11回　Leçon 11:電子メール（２）
　　関係代名詞
第12回　Leçon 12：留守録
　　現在分詞／ジェロンディフ
第13回　Leçon 11～12の総復習
第14回　秋学期の総復習
第15回　最終試験（筆記）

【成績評価の方法】
平常点（出席状況／小テスト）50%、定期試験50%

【教科書】
明石伸子他 アメリとケンゾー 朝日出版社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
フランス語Ⅲa		
横　道　朝　子 Annie　Yamasaki	01<春> 02<春>	1単位

【講義概要】
勉強の仕方はフランス語I-IIと同じですが、普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【学習目標】
現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるために、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法を復習し、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲をひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

【講義計画】
第１回　plan de classe
　　présentation du cours
第２回　texte１ "L'alimentation"
　　直接法現在形　固定形と否定形（復習）être avoir penser obéir
　　命令法現在形（復習）
　　定冠詞　代名詞（復習）
第３回　texte２ "Les proches"
　　直接法現在形　固定形と否定形（復習）se coucher aller venir faire
　　命令法現在形（復習）
　　不定冠詞　代名詞（復習）
第４回　texte３ "La vie domestique"
　　複合過去　固定形と否定形（復習）penser obéir avoir être faire se coucher aller venir
　　部分冠詞　代名詞（復習）
第５回　texte４ "Les loisirs"
　　近接過去（復習）arriver
　　近接未来（復習）téléphoner
　　進行形（復習）travailler
　　受け身（復習）connaître
　　使役（復習）chercher
　　冠詞をとらない名詞（復習）
　　指示形容詞（復習）指示代名詞
第６回　texte５ "le travail"
　　現在形（復習）préparer savoir
　　現在分詞（復習）
　　現在分詞の複合形
　　所有形容詞（復習）所有代名詞
第７回　texte６ "la santé"
　　現在形（復習）pouvoir vouloir devoir savoir
　　不定詞の用法
　　不定詞の複合系屠蘇の用法
第８回　texte７ "Les transports"
　　現　在　形 préférer prendre pleuvoir neiger falloir paraître
　　半過去とその用法
　　人称代名詞（復習）
　　中性代名詞　主語 il　直接補語 le
第９回　texte８ "La mode"
　　現在形　passer se promener recevoir
　　大過去とその用法
　　福祉的代名詞 en y
第10回　texte９ "Le corps"
　　現在形　changer réfléchir courir acquérir
　　未来形　habiter vérifier se reposer finir
　　比較級と最上級
第11回　révision １　２　３
第12回　révision ４　５　６
第13回　révision ７　８　９
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Statistiques sur themes varies（1～9）
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅲｂ　01<春>	
Eddy Louis　Van Drom	1単位

【講義概要】
映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。
やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第1回　復習
第2回　授業の紹介
第3回　大学で（複合過去）
第4回　大学で（複合過去）（suite et fin）
第5回　カフェで（代名動詞）
第6回　カフェで（代名動詞）（suite et fin）
第7回　ホテルで（中性代名詞）
第8回　ホテルで（中性代名詞）（suite et fin）
第9回　招待された席で（単純未来）
第10回　招待された席で（単純未来）（suite et fin）
第11回　駅で（半過去）
第12回　駅で（半過去）（suite et fin）
第13回　はがき（関係代名詞）
第14回　はがき（関係代名詞）（suite et fin）
第15回　復習

【成績評価の方法】
1．評価方法は、試験（1/3）及び　出席／平常点　（1/3）の総合評価とする
2．小テストの成績を総合的に評価する（1/3）

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien 2 ASAHI (2006)

【参考文献】
例えば
1．Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
2．Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
など

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅲｂ　02＜春＞	
横　道　朝　子	１単位

【講義概要】
１年次に習得したフランス語の基礎知識を定着・発展させ，「話す／聞く／書く／読む」の実用的なコミュニケーション能力を養成する．

【学習目標】
春学期の授業では，1年次に習った文法知識の総復習を中心に進めます．具体的には，基本動詞の現在形／複合過去形／未来形を自由に駆使し，一日のスケジュール，過去の思い出，未来の計画などについて，「話す・たずねる」ことができるようになることを目指します．また，授業では，パリ旅行を題材とした教科書を用いますので，旅行に不可欠な表現を習得すると同時に，フランス文化にも触れる機会を多く設けたいと思います．

【講義計画】
第１回　復習：アルファベ，発音の規則，つづり字
　　Unité １：パリ到着
　　主語人称代名詞／国籍＆職業をあらわす表現
第２回　Unité ２：ホテルで
　　名詞と冠詞／中性指示代名詞
第３回　Unité ３：ランデヴー
　　基本動詞の総復習／所有形容詞／疑問文の作り方
第４回　Unité ４：カフェで
　　形容詞の位置／否定文
第５回　Unité ５：電話をかける
　　指示形容詞／定冠詞の縮約
第６回　Unité ６：道をたずねる
　　疑問代名詞／疑問副詞／中性代名詞y
第７回　オーラル試験（Unité １～６）
第８回　Unité ７：市場で買い物をする
　　部分冠詞／数量の表現／中性代名詞en
第９回　Unité ８：サッカーを観戦に行く
　　疑問形容詞／命令形／非人称構文
第10回　Unité ９：デパートで
　　指示形容詞／比較級と最上級
第11回　Unité 10：紹介する
　　補語人称代名詞／代名動詞
第12回　Unité 11：旅の話をする
　　複合過去／過去をあらわす状況補語
第13回　Unité 12：別れを言う
　　単純未来形／未来をあらわす状況補語
第14回　オーラル試験（Unité ７～12）
第15回　最終筆記試験（春学期の全学習範囲）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　０%　出席　50%

【教科書】
藤田裕二 新・彼女は食いしん坊１　朝日出版社
フランス語Ⅲb，フランス語Ⅳbは，それぞれ違う教科書を使いますので注意してください．

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
フランス語Ⅳａ		
横　道　朝　子 Annie　Yamasaki	01＜秋＞ 02＜秋＞	１単位

【講義概要】
勉強の仕方はフランス語IIIと同じです。普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【学習目標】
現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるために、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

【講義計画】
第１回　présentation du cours
　　plan de classe
第２回　texte10 "le sport"
　　現在形　vérifier se reposer éteindre craindre
　　前未来とその用法　finir rentrer sereposer
　　否定
　　間接疑問文
第３回　texte11 "Les étrangers"
　　直接法現在形　aider mentir dormir vivre
　　条件法現在形　penser aller devoir
　　条件法の例外
　　条件法の用法
第４回　texte12 "L'ordre"
　　直接法現在形　s'inquiéter mourir entendre rendre
　　条件法過去形　entendre aller se rappeler
　　条件法の用法
　　等位接続詞とその用法
第５回　texte13 "L'argent"
　　現在形　se marier voir conduire réduire
　　関係代名詞
　　関係節
第６回　texte14 "Les médias"
　　直接法現在形　envoyer essayer permettre écrire
　　接続法現在形　téléphoner envoyer écrire
　　名詞節　法の使い方　役割
第７回　texte15 "La politique"
　　直接法現在形　lire dire croire suivre
　　接続法現在形　lire dire croire suivre
　　接続法の例外
　　状況節
第８回　texte16 "Les sentiments"
　　直接法現在形　trouver perdre résoudre　s'asseoir
　　接続法現在形　trouver perdre résoudre s'asseoir
　　接続法現在形の用法
第９回　texte17 "La foi"
　　直接法現在形　ouvrir découvrir devenir tenir
　　接続法過去系　vérifier rentrer se lever
　　接続法過去形の用法
第10回　texte18 "Le savoir"
第11回　révision 10 11 12
第12回　révision 13 14 15
第13回　révision 16 17 18
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Statistiques sur themes varies (10～18)
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅳb　01<秋>	
Eddy Louis　Van Drom	1単位

【講義概要】
映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。
やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第1回　キャンパスで（直接話法と間接話法）
第2回　キャンパスで（直接話法と間接話法）
第3回　友達の家で（接続詞）
第4回　友達の家で（接続詞）
第5回　カフェテリアで（条件法）
第6回　カフェテリアで（条件法）
第7回　診療所で（接続法）
第8回　診療所で（接続法）
第9回　電話で（現在分詞と過去分詞）
第10回　電話で（現在分詞と過去分詞）
第11回　オルセー美術館で（単純過去）
第12回　オルセー美術館で（単純過去）
第13回　パリのカフェ(lecture)
第14回　復習
第15回　復習

【成績評価の方法】
1．評価方法は、試験(1/3) 及び　出席／平常点　(1/3)の総合評価とする
2．小テストの成績を総合的に評価する(1/3)

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien 2 ASAHI (2006)

【参考文献】
例えば
1．Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
2．Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
など

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅳb　02<秋>	
横　道　朝　子	1単位

【講義概要】
フランス語Ⅲbに引き続き，フランス語の基礎知識を定着・発展させ，「話す／聞く／書く／読む」の実用的なコミュニケーション能力を養成する．

【学習目標】
フランス語Ⅲbの授業では，これまでに習ったフランス語の文法知識を定着させるとともに，さらに広範な知識の習得を目指します．具体的には，条件法／接続法といった時制，関係代名詞，直接／間接話法などを自由に駆使し，より複雑な事情を説明／理解できるようになることを目標とします．授業では，フランスの地方を題材とした教科書を用います．地方ならではの料理や風習など，フランスの魅力を発見してください．

【講義計画】
第1回　Unité 1：アルザス地方1
　　複合過去／代名動詞の複合過去／過去分詞の一致
第2回　Unité 2：アルザス地方2
　　半過去／大過去／複合過去と半過去
第3回　Unité 3：ブルゴーニュ地方1
　　関係代名詞／命令形と補語人称代名詞
第4回　Unité 4：ブルゴーニュ地方2
　　現在分詞／ジェロンディフ／疑問代名詞
第5回　まとめテスト（Unité1～4）
第6回　Unité 5：ローヌ・アルプ地方1
　　受動態／最上級／副詞
第7回　Unité 6：ローヌ・アルプ地方2
　　強調構文／中性代名詞
第8回　Unité 7：プロヴァンス地方1
　　条件法現在／条件過去
　　Unité
第9回　Unité 8：プロヴァンス地方2
　　接続法現在／接続法過去
第10回　まとめテスト（Unité5～8）
第11回　Unité 9：ブルターニュ地方1
　　間接話法／時制の一致
第12回　Unité 10：ブルターニュ地方2
　　前置詞と接続詞
第13回　総まとめ(1)
第14回　総まとめ(2)
第15回　最終試験（筆記）

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%

【教科書】
藤田裕二 彼女は食いしん坊2 朝日出版社
フランス語Ⅲb，フランス語Ⅳbは，それぞれ違う教科書を使いますので注意してください．

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
プレゼンテーション入門		
岩　男　久仁子 横　山　恵　理 取　屋　淳　子 大　野　順　子 深　見　純　生 Gonzales Dario 村　中　淑　子 大　野　順　子 取　屋　淳　子 横　山　恵　理 大　野　　啓 蓮　田　隆　志 岩　男　久仁子	01＜秋＞ 02＜秋＞ 03＜秋＞ 04＜秋＞ 05＜秋＞ 06＜秋＞ 07＜秋＞ 08＜秋＞ 09＜秋＞ 10＜秋＞ 11＜秋＞ 12＜秋＞ 13＜秋＞	２単位

【講義概要】
具体的なテーマについてレポートを作成し、その内容を、コンピュータ（パワーポイント）を使って報告・発表できるようにします。
学期の前半においては具体的なテーマによるレポートを従来形式の紙版で作成しながら、コンピュータの利用に習熟するよう指導します。後半ではレポートの内容をわかりやすく要約したうえで、パワーポイントを使って、写真や図版、表、グラフを取り入れた報告ができるように指導します。

【学習目標】
この授業では自分の考えを有効に相手に伝えることを学びます。そのためには、整然とした表現力に富む文章を書くこととともに、その表現方法を身につけることが大切なことです。昨今では、ごく当たり前になったワープロソフトによる文書作成に加えて、発表方法についてはプレゼンテーション・ソフトがよく利用されつつあります。発表内容が大切なのは当然のことですが、その方法によっても受け取り側の印象は大きく異なってきます。この授業は、大学に入学してきたばかりの皆さんが「書く」力を磨き、最終的にはそれをパワーポイントなどで発表できるようになることを目標としています。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション

第２回　ワード文書作成講習（ガイダンス）
第３回　ワード文書作成講習（社説などの要約など）
第４回　ワード文書作成講習（任意のテーマ設定）
第５回　発表と講評
第６回　発表と講評
第７回　パワーポイント講習
第８回　スライド作成①
第９回　スライド作成②
第10回　スライド作成③
第11回　プレゼンテーション①
第12回　プレゼンテーション②
第13回　プレゼンテーション③
第14回　予備日
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
出席50%、課題報告２回50%を目安とします。

【教科書】
特に使用しません。

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

科目名　クラス　講義区分	
プログラミング　01＜秋＞ プログラミング　02＜秋＞	
榎　本　光　世	２単位

【講義概要】
プログラミングとはプログラムを作成することであり、本講ではMicrosoft Visual Basicを使って初歩的なプログラムを作成する。
プロフェッショナルの、あるいはアマチュアのプログラマーでない限り、プログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどない。しかし、プログラミングの体験は、ソフトウェア開発者の気持ちやその業務を知るために有意義である。つまりソフトウェアに不具合（いわゆるバグ）が頻出する原因が何か、また、要求された要件を満たすだけでは何故不十分なのかを初歩的なプログラムであっても、それを作成することで十分に実感することができるだろう。
そして、プログラミングは無味乾燥な作業ではなく、パズルを解いたり、それを作り出したりするのに似た楽しさがあり、ほとんどの人は時間の経過を忘れてプログラミングという行為に没頭する。

【学習目標】
本講の学習目標は、プログラミングを体験し、試行錯誤しながら学習し、初歩的なプログラミングの作成ができるようになることである。成績評価用の課題(レポート)として、学生は、自由課題プログラムの提出と動作確認デモを本講の最終日にしなくてはならない。

【講義計画】
第１回　講義概要と受講上の注意とVB事始め（その１）
第２回　VB事始め（その２）
第３回　ボタンとMsgBox
第４回　算術演算
第５回　キーボードからのデータの受け取り
第６回　判断分岐（その１）
第７回　判断分岐（その２）
第８回　繰り返し処理（その１）
第９回　繰り返し処理（その２）
第10回　変数の配列
第11回　自由課題プログラムの設計
第12回　自由課題プログラムの作成
第13回　自由課題プログラムの作成フォロー
第14回　VBA入門
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更される場合もある）

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　60%　出席　40%
・成績評価レポートとして、自由課題プログラムの提出と動作デモを本講最終日に行わなければならない。
・第２回目以降毎回宿題が課され、その提出は出席点として扱われる。

【参考文献】
テキストとして配布物を用いる。受講者はこの配布物や自身の宿題をいつでも容易に参照できるようにするためにアルバム状のファイルにストックしておくことが望ましい。参考文献は開講後に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
プログラミング　03＜秋＞ プログラミング　04＜秋＞	
大　嶋　耕　一	２単位

【講義概要】
プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。
パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。
授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

【学習目標】
① コンピュータ（特にWindows環境）のプログラムとは何かを知る
② Visual Basicのもっとも基本的な文法と、プログラムの作成手順を学ぶ
③ 基本的なアルゴリズムを学ぶ
④ プログラムの開発サイクルをとおして、普段の社会生活における一般的な問題解決の手法を学ぶ

【講義計画】
第１回　ガイダンス、BASIC言語とは、Visual Basicによるプログラミングの実例
以下は、もっとも進度が速い理想的な授業計画を示す。実際には、各自の能力に合わせて進むため、学生によって異なる。
第２回　フォームとプログラムを編集する、演習問題
第３回　ユーザーインターフェース、Visual Basic 言語の書式
第４回　変数と代入ステートメント、オブジェクトのプロパティ
第５回　文字列（String)、式の表現
第６回　ステートメントの実行順序、演習問題
第７回　コンパイルと実行可能プログラム、演習問題
第８回　選択構造
第９回　演習問題
第10回　反復構造
第11回　演習問題
第12回　問題解決のためのアルゴリズム、演習問題
第13回　金種計算プログラム：配列変数、グローバル変数、
第14回　ファイルのコピープログラム:ファイルの入出力、ユーザー定義関数とプロシージャの活用

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
テキストの中で「必ずチェックを受けてください」、「必ず提出してください」、「任意提出してください」の指示がありますで、それにしたがってチェックを受け、課題を提出します。以上がレポート70%の内容です。

【教科書】
自作のテキストを無償で配布する。

【参考文献】
ステップバイステップで学ぶには、
薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」,日経BPソフトプレス,2003
参照用には、
山田　健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET 機能引きハンドブック 」,ナツメ社,2003

【備考】
【準備学習の指示】
進度は各自のペースによるので、まず、前回進んだテキストの箇所にもう一度目を通して復習し、さらに次に進む予定のテキストの箇所にあらかじめ目を通しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
文学－西洋Ⅰ　＜春集＞	
国　松　夏　紀	４単位

【講義概要】
ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与え返していますし、そういった事情はロシアに限らないからです。

【学習目標】
ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊穣なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

【講義計画】
第１回　便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。
Ⅰ．ヨーロッパ文学の源泉
講義概要オリエンテーション／文学とは何か？
第２回　文学のジャンル／ヨーロッパの特徴
第３回　ヨーロッパ文学のアウトライン
第４回　ヨーロッパ文学の諸源泉
第５回　Ⅱ．ルネッサンス（14、15、16世紀）
中世からルネサンスへ／ダンテとボッカチオ
第６回　ルネサンスとは何か？／イタリアル・ネサンスの精華
第７回　イタリア･ルネサンスの波及
第８回　シェイクスピアとセルバンテス／『ハムレット』と『ドン・キホーテ』
第９回　Ⅲ．古典主義（17～18世紀）
古典主義の定義と時代区分
第10回　フランス古典主義演劇／コルネイユ『ル･シッド』
第11回　ラシーヌ『アンドロマック』、『フェードル』
第12回　モリエール『タルチュフ』、『ミザントロープ』
第13回　イギリスの古典主義／反シェイクスピア
第14回　ドイツ、ロシアの古典主義
第15回　Ⅳ．啓蒙主義（18世紀）
英仏関係を中心に／モンテスキュー、ヴォルテール
第16回　ディドロと『百科全書』及びリチャードソンの書簡体小説
第17回　ジャン･ジャック･ルソーの仕事
第18回　Ⅴ．ロマン主義（18～19世紀）
ロマン主義の源泉／イギリスの詩･散文･『オシアン』
第19回　イギリスからドイツへ／ハーマン･ヘルダー･ゲーテ･シラー
第20回　ドイツからフランスへ／スタール夫人『ドイツ論』
第21回　独仏からロシアへ／プーシキン『スペードの女王』
第22回　Ⅵ．リアリズム（19～20世紀）
小説の時代　フランス／バルザック、スタンダール、フローベール
第23回　イギリス／オースティン、ディケンズ、ブロンテ姉妹
第24回　ロシア／ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ
第25回　Ⅶ．象徴主義と《世紀末》
新ロマン主義／散文リアリズムから詩の時代へ
第26回　「後進」ロシア文化（文学）の「逆襲」／ラテンアメリカ文学の「逆襲」
第27回　Ⅷ．《両大戦間》・20世紀
散文リアリズムの最終実験／プルースト、ジョイス、ムジールその他
第28回　21世紀文学の可能性へ向けて

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　20%　出席　30%
春学期末レポートにより評価します（上記の試験50%とは、この課題レポートのことを指します)。１回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出（上記のレポート20%は、この教場ミニ・レポートのことです)。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

【教科書】
特に定めない。講義資料は、授業時間中配布します。

【参考文献】
ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることにします。

科目名　クラス　講義区分	
文学－西洋Ⅲ　＜春集＞	
高　田　里惠子	４単位

【講義概要】
ドイツ文学の作品を中心として、文学を分析するさまざまな切り口を紹介する。17世紀のバロック時代の文学、19世紀初めのロマン主義文学、百年前の世紀末文学、そしてナチスを描いた戦後の文学作品を扱う予定である。

【学習目標】
文学作品を鑑賞するための基礎知識を身につけ、これからの読書生活を豊かなものにしていくことを目指す。

【講義計画】
第１回　この講義のテーマ、扱う時代や地域、全体の計画、試験のやり方、平常点のつけ方などを説明する。
第２回　「文学」は自明なものではなかった
第３回　天才と文学
第４回　喜劇の構造①
第５回　喜劇の構造②
第６回　シュトゥルム・ウント・ドラング①
第７回　シュトゥルム・ウント・ドラング②
第８回　『若きウェルテルの悩み』を読む①
第９回　『若きウェルテルの悩み』を読む②
第10回　ファウストの悲劇とは何か①
第11回　ファウストの悲劇とは何か②
第12回　ブルジョアと文学
第13回　ブルジョアの文学
第14回　トーマス・マンの文学①
第15回　トーマス・マンの文学②
第16回　トーマス・マンの文学③
第17回　文学と第一次大戦①
第18回　文学と第一次大戦②
第19回　文学と第一次大戦③
第20回　文学と第一次大戦④
第21回　ワイマール共和国とナチス①
第22回　ワイマール共和国とナチス②
第23回　ギュンター・グラスの文学①
第24回　ギュンター・グラスの文学②
第25回　ナチズムとユダヤ人①
第26回　ナチズムとユダヤ人②
第27回　全体のまとめ①
第28回　全体のまとめ②
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

【教科書】
教科書は使わない。講義の内容をうまくノートにまとめることが重要である。

【参考文献】
授業中に指示する

【備考】
【準備学習の指示】
授業で扱う文学作品のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることを勧める。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな文学作品に触れることは重要である。

科目名　クラス　講義区分	
文学－短歌のなかの「戦後」と「現在」　＜秋集＞	
松　澤　俊　二	４単位

【講義概要】
この講義ではアジア・太平洋戦争終結後の1945年から2000年代に至るまでの短歌を取り上げて、それらから読み取れる「戦後」社会のさまざまな在り方と、我々の生きる「現在」について考えます。
短歌は「作品」でありフィクションも許される「文学」ですが、しかし歌の「作者」がある時代をいかに把握して生きていたかを示す資料としても考えることが出来ます。私たちがそれを読むならば、そこに詠われた折々の世相や事件、人物などから過去の、ある時代についての知識を得ることができます。またそれらの事柄に対して「作者」がどのような感情を抱き、どのように処していったかを考えるならば個々人によって“生きられた”「戦後」社会を想像することが出来、そこから多くの問題を汲み上げることが可能となるでしょう。もちろんこれらの成果を生むには短歌一首一首、一語一語の慎重な読解が大前提です。学生諸君とともに歌々を読解しながら「戦後」と「現在」の問題について考えてゆきたいと思います。

【学習目標】
①作品を読むことにより、一語一語を吟味し、理解する力を身につける。
②時代資料としての短歌作品から各時代の出来事を知る。また先人の行動、思考について考え、それらを基にして、私たちが生きている「現在」についても理解を深める。

【講義計画】
第１回　時代資料としての短歌－“下からの歴史”として
第２回　“大東亜戦争”下の短歌とその役割①戦地詠
第３回　〃　②銃後詠
第４回　〃　③抵抗歌の諸相
第５回　戦後の歌々①－短歌への反省と「第二芸術論」について
第６回　〃　②－「第二芸術論」への反応
第７回　〃　③－病者の歌
第８回　〃　④－サークルと労働者の歌々
第９回　女性たちの歌①　その歴史
第10回　〃　②　戦後の展開
第11回　前衛短歌の時代　①　塚本邦雄
第12回　〃　②　〃
第13回　〃　③　寺山修司
第14回　〃　④　〃
第15回　〃　⑤　〃
第16回　授業内レポート
第17回　「土俗」への想像力について
第18回　安保と政治の時代の歌
第19回　“内向の世代”の歌
第20回　俵万智とその影響①
第21回　〃　②
第22回　〃　③
第23回　昭和の終焉と回顧
第24回　90年代の歌々－湾岸戦争、大震災等々
第25回　現代歌人の試みと新しい表現への模索①　インターネット、朗読集会等々
第26回　〃　②
第27回　〃　③
第28回　まとめ
第29回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　40%　出席　20%
それまでの授業内容を理解できているか、課程の中盤にレポートを課します。

【教科書】
使用しません。授業時に配布します。

【参考文献】
授業中に適宜指示します。

科目名　クラス　講義区分	
文化社会学　＜秋集＞	
北　川　紀　男	4単位

【講義概要】
文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない重要な課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、次いで人間と文化の間に介在する根源的な関係に立ち戻って文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処かわれば、品かわる」とは、文化と社会の関係を巧くいいえて、社会学的にみて興味ある表現である。
以上の基礎的な考察を踏まえて、複雑多岐に分化し目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたって、批判的に考察を進める。

【学習目標】
現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

【講義計画】
第１回　学説史（１）　ー社会学における文化研究の歴史ー
第２回　学説史（２）　ー文化社会学の二つの潮流ー
第３回　学説史（３）　ー文化社会学成立の背景ー
第４回　文化の概念（１）　ー文化の基本的属性ー
第５回　文化の概念（２）　ーシンボル・意味・価値としての文化ー
第６回　文化の概念（３）　ー文化の類型ー
第７回　文化と社会規範（１）　ー規範としての文化ー
第８回　文化と社会規範（２）　ー文化と社会化ー
第９回　文化と社会規範（３）　ー文化の基底としてのタブーー
第10回　生活文化（１）　ー生活様式としての文化ー
第11回　生活文化（２）　ー文化と空間・時間・役割ー
第12回　文化と文明（１）　ー意味形象としての文化ー
第13回　文化と文明（２）　ー社会過程・文明過程・文化運動ー
第14回　文化と文明（３）　ー文明社会の諸問題ー
第15回　知識の社会学（１）　ー知識社会学ー
第16回　知識の社会学（２）　ーイデオロギー論ー
第17回　知識の社会学（３）　ー科学の社会学ー
第18回　大衆化と文化（１）　ー大衆社会の構造ー
第19回　大衆化と文化（２）　ー大衆文化の特徴ー
第20回　大衆化と文化（３）　ー大衆の被操作性ー
第21回　国際化と文化（１）　ー民族文化と国民文化ー
第22回　国際化と文化（２）　ー国際化と文化摩擦ー
第23回　国際化と文化（３）　ー異文化間コミュニケーションー
第24回　情報化と文化（１）　ー情報化社会ー
第25回　情報化と文化（２）　ーニューメディアと文化ー
第26回　共生化と文化（１）　ー高齢化社会と文化ー
第27回　共生化と文化（２）　ー高齢者・障害者と共生ー
第28回　共生化と文化（３）　ージェンダーと共生ー

【成績評価の方法】
原則として学期末試験に基づいて評価するが、レポート（紹介した参考文献の書評）を加味して総合的に評価する。

【教科書】
北川紀男　文化社会学研究　八千代出版

【参考文献】
その都度指示する。なお、必要に応じて資料を配付する。

【備考】
【準備学習の指示】
次回の講義内容を予告して、事前にテキストの関連箇所に目を通して予習させておく。また、授業中に紹介する参考文献や資料を読ませ、その内の２点についてリポート（書評）を提出させる。

科目名　クラス　講義区分	
文化人類学　＜秋集＞	
南　出　和　余	4単位

【講義概要】
文化人類学は、人間を文化的・社会的な存在として捉え、異文化を見ることで自文化、さらには「人間」を理解しようとする学問である。この授業では、文化人類学の基本的な視点や研究方法を抑えたうえで、人類学が扱ってきた各テーマを追いながら、「人間」「社会」「文化」についての理解を深める。授業では、世界の多様な文化の事例をできる限り取り上げ、必要に応じて視聴覚教材を活用する予定である。

【学習目標】
人間とはどのような存在か、「わたし」と「あなた」は何がどう違うのか。生きているなかで私たちが当たり前に思っている習慣や社会の在り方を「遅れたもの」と見下すのではなく、違いを尊重し、それぞれに独自の価値を見出す視点を、文化人類学を学ぶことで身に付けてもらいたい。さらに、グローバル化が進む現代社会においては、私たちは、もはや他の社会との関係になしには生きていくことができない。そのことが、地域に根差した固有の文化にさまざまな変化がもたらしていることについても考えていきたい。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　「文化」とは？
第３回　方法と視点（１）対象としての人間社会
第４回　（２）フィールドワーク
第５回　（３）人類学理論のパラダイム
第６回　人間社会の理解（１）狩猟採集民
第７回　（２）牧畜民
第８回　（３）農耕民
第９回　（４）分業社会
第10回　（５）都市民
第11回　（６）グローバル市民
第12回　（７）新進化論
第13回　人間関係の理解（１）ジェンダー
第14回　（１－１）トランスジェンダー
第15回　（２）おとなと子ども
第16回　（２－１）通過儀礼
第17回　（３）親族、結婚
第18回　（３－１）結婚の多様化
第19回　（４）贈与と交換
第20回　（４－１）トロブリアンド諸島の交換
第21回　（５）宗教
第22回　（５－１）私たちの宗教観
第23回　現代的課題（１）アイデンティティとエスニシティ
第24回　（２）ディアスポラ
第25回　（３）紛争人類学
第26回　（４）開発人類学
第27回　人類学の「自画像」
第28回　自分か中心主義の克服
第29回　試験とまとめ
第30回　試験とまとめ

【成績評価の方法】
期末試験の素点をもとにして成績をつける。但し、授業中、必要に応じて提出を求めるコメントカード（兼出席カード）も加味して総合評価を決める。

【教科書】
米山俊直、谷泰（編）文化人類学を学ぶ人のために　世界思想社

【参考文献】
トーマス・ヒランド・エリクセン、鈴木清史（訳）『人類学とは何か』世界思想社2008
綾部恒雄（編）『文化人類学20の理論』弘文堂2006
日本文化人類学会（編著）『文化人類学辞典』丸善 2009
その他の参考文献は授業の中で紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
法学　01＜通期＞	
池　田　直　樹	4単位

【講義概要】
1　社会生活における法の意義、役割、作用について理解する。
2　日本国憲法の基本原理、民法、行政法、福祉関係法の基礎を理解する。
3　相談援助活動において必要となる成年後見制度の概要、制度趣旨と活用方　法について理解する。
4　社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要　なものに対する権利擁護活動の実際について理解する。基本的人権（自由　　権、社会権）、権利擁護（アドボカシー）、成年後見制度等社会福祉士に必　要な内容について理解させるよう留意する。

【学習目標】
この講義では、受講者に現代日本の法体系を概観してもらった上で、市民の社会生活に関連の深い分野について基礎的な知識を分かりやすく講述する。そこで、まず法体系を三つに大別し、公法分野（憲法、刑法、行政法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法、福祉法等）につき略説する。以下、〔講義計画〕に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。指名発言その他、受講時の留意事項について最初の授業時に説明する。
〔授業修了時の達成課題　（到達目標）〕
福祉における相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて学び、基本的な人権感覚を養う。基本的知識をふまえた上で、権利擁護の制度として成年後見制度の実際について理解する。

【講義計画】
第１回　社会生活と法
第２回　国民主権
第３回　憲法の基本原理
第４回　基本的人権の尊重
第５回　法の支配
第６回　自由権と社会権
第７回　公共の福祉と制約原理
第８回　法の下の平等
第９回　新しい人権
第10回　地方自治
第11回　財政
第12回　法律による行政
第13回　行政の行為形式
第14回　行政の事前手続
第15回　行政不服申立制度
第16回　行政事件訴訟
第17回　地方自治と条例
第18回　国家賠償法
第19回　民法総則
第20回　物権と債権
第21回　契約の類型と契約責任
第22回　不法行為
第23回　損害賠償
第24回　親族及び相続
第25回　成年後見制度の概要
第26回　成年後見人等の義務と責任
第27回　日常生活自立支援事業
第28回　成年後見制度利用支援事業
第29回　権利擁護にかかる組織・団体の役割
第30回　試験

【成績評価の方法】
講義した範囲の内容から出題する定期末試験による評価。
出席点も加味するが、あくまでも素点評価とする。

【教科書】
社会福祉士養成講座編集委員会「権利擁護と成年後見制度」中央法規
山本克司「福祉に携わる人のための人権読本」法律文化社

【備考】
・SW生は01クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法学　02＜春集＞	
馬　場　　巌	4単位

【講義概要】
まず、法の基本について講義を行う。その後、人の一生と法の係わり合いを見ていく。ここでは、生活をしていく上で必要とされる、民法を中心に見ていきたい。なお、授業中にレポートを作成してもらうこともある。

【学習目標】
法の基本を理解すること。および、今後生活をしていく上で必要な法律の知識を習得することを目指す。

【講義計画】
第１回　ガイダンス・法の必要性について
第２回　法とは何か(１)規範について
第３回　法とは何か(２)行為に規範について
第４回　法とは何か(３)国家が認定し強行すること
第５回　法と他の社会規範(１)法と道徳
第６回　法と他の社会規範(２)法と宗教・慣習
第７回　法源(１)
第８回　法源(２)
第９回　法の適用範囲(１)
第10回　法の適用範囲(２)
第11回　権利能力とは
第12回　民事上の胎児の取り扱い(１)不法行為・相続
第13回　民事上の胎児の取り扱い(２)遺贈・認知
第14回　刑事上の胎児の取り扱い
第15回　出生・嫡出子と嫡出でない子について
第16回　実子と養子について
第17回　民法上の制限行為能力者について
第18回　法律行為について
第19回　代理について
第20回　物権行為と対抗要件について(１)
第21回　担保物権について
第22回　債権・債務不履行について
第23回　危険負担・瑕疵担保責任について
第24回　契約総論
第25回　消費者と契約について
第26回　インターネット上の法律問題
第27回　婚姻・離婚について
第28回　相続について
第29回　授業理解度の確認
第30回　授業理解度の確認についての説明

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
試験と授業中に何度かとる出席による。

【教科書】
長谷川・土屋・中山 やさしいほうの学び方 成文堂

【備考】
準備学習についての指示　毎回授業終了時に次回の講義内容について若干の説明をするので、それにしたがって予習をすること。
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
法学　03＜春集＞	
吉　見　研　次	4単位

【講義概要】
この講義は、現代日本法の全体像を概観した後、特に市民の日常生活と関係の深い法分野につき基本的な法律知識を講述するものである。すなわち、市民の日常的な経済生活に直結する契約関係、市民が事故に遭遇した場合、市民の家族生活、に大別して各々の法律問題について順次解説していく。私法分野が中心となるが、公法分野（憲法、国際法等）にも適宜言及する。授業中の私語は厳禁。その他、受講時の留意事項は初回の授業中に説明する。

【学習目標】
①現代日本法の全体像を把握する。
②市民の日常的な経済生活に直結する契約関係の法律について理解する。
③市民が事故に遭遇した場合の法律関係について理解する。
④市民の家族生活に関する法律の基礎について理解する。

【講義計画】
第１回　市民生活と法
第２回　公法と私法
第３回　民事法と刑事法
第４回　一般法と特別法
第５回　契約の成立と効力
第６回　契約の無効と取消し
第７回　制限行為能力
第８回　売買契約総説
第９回　売買契約と所有権
第10回　売買契約の不履行
第11回　売主の責任
第12回　消費者契約法
第13回　特定商取引法
第14回　無限連鎖講防止法
第15回　金銭消費貸借契約
第16回　保証契約
第17回　借家契約
第18回　契約自由の原則とその修正
第19回　不法行為の一般的要件
第20回　特殊の不法行為
第21回　不法行為特別法
第22回　不法行為の効果
第23回　製造物責任法
第24回　結婚の法律
第25回　離婚の法律
第26回　親子等の法律
第27回　相続の法律
第28回　遺言の法律
第29回　補論とまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％
基本的な法律知識を幅広く、かつ正確に修得しているか否かを確認するために、正誤文選択による短答式の学期末試験を予定している。各問いずれも４肢選択方式の計20問を出題するつもりである（１問５点）。短答式の試験は容易なものと誤解されがちだが、正確な知識を広範に修得していないと合格ラインには到達しない。真剣に学修に励む意欲的な学生の受講を期待したい。

【教科書】
江頭憲治郎他（編）『ポケット六法平成22年版』有斐閣
他の出版社の『六法』（最初の授業時に紹介する）でも可

【参考文献】
五十嵐清『私法入門（改訂２版）』（有斐閣）
野村豊弘『民事法入門（第５版）』（有斐閣）
後藤巻則・村千鶴子・齋藤雅弘『アクセス消費者法（第２版）』（日本評論社）

【備考】
【準備学習の指示】
毎回の授業内容を正確に理解し確実に修得するためには、復習が不可欠である。①授業終了後、講義ノートを読み返す。②引用条文を『六法』で再確認する。③参考文献（掲記以外のもので授業中に指示したものを含む）の関連箇所を精読する。④補充すべき知識をノートに書き加える。⑤補完したノートの全内容を他人に説明できるか、確認する。⑥授業中に配布された問題を改めて自力で解いてみる。⑦正解表、ノート、『六法』等と照合しながら問題文を精細に再検討する。⑧次回授業の予告にしたがい予習をする。
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
法学　04＜秋集＞	
天　本　哲　史	4単位

【講義概要】
我々は、人間社会の一員として生活している。人間社会において、個々の人間は自由であると同時に、社会生活への責任も果たさなければならない。法はこのような人間社会の調整役として、社会制圧におけるルールの一つの形式として存在する。
本講義では、法学の理論的な内容だけではなく、憲法その他の法分野を解説することを通じて、法とはどのようなものか、法がどのように社会において活かされているのかを概括的に学習する。

【学習目標】
本講義は、法学の基礎的な知識を習得することを目的とする。具体的には、①法とは何かについての知識、②憲法についての知識、③その他の法分野についての知識、のそれぞれの習得である。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　法とは何か
第３回　権利・義務・法の効力
第４回　法源①
第５回　法源②
第６回　法の適用
第７回　憲法とは何か
第８回　憲法の歴史
第９回　国民主権
第10回　平和主義
第11回　人権とその限界①
第12回　人権とその限界②
第13回　幸福追求権と法の下の平等
第14回　自由権・社会権①
第15回　自由権・社会権②
第16回　自由権・社会権③
第17回　参政権・国務請求権①
第18回　参政権・国務請求権②
第19回　国民の義務
第20回　小テスト①
第21回　三権分立・国会①
第22回　三権分立・国会②
第23回　内閣
第24回　裁判所
第25回　財政・地方自治
第26回　憲法の保障
第27回　小テスト②
第28回　質問日

【成績評価の方法】
試験　100％
成績評価は、試験の結果を基に行なう。但し、任意にレポートを提出した場合には、その内容に応じて加点する。

【教科書】
田中成明 法学入門 有斐閣

【参考文献】
六法（最新のものであればよい）
その他に講義中で適宜に紹介する。

【備考】
準備学習等の指示
授業の後には復習をすること。その際には、テキストとして指定した本も読んでおくとなお良い。講義の中では、法が関係する時事問題について触れることから、新聞等を読むこと。
・SW生は履修不可

科目名　クラス　講義区分	
法学入門　＜春＞	
佐　藤　啓　子	２単位

【講義概要】
法学の基本的な知識と、法学の学び方についてのガイダンス、法学を勉強するに当たって必要なツール（六法、辞書など）の使い方の説明を行う。

なお、講義の進行には若干の前後や入れ替えなどがあるかもしれないことを留保しておく。

【学習目標】
以下の点の習得を目標とする。
　法学のごく基礎的な概念や基本構造。
　六法そのもの知識と、条文を見るのをおっくうがらない『慣れ』。

【講義計画】
第１回　法学入門のイントロダクション
　　法とは何か
第２回　法の体系
第３回　法における人間
第４回　契約自由の原則
第５回　不法行為
第６回　所有権
第７回　家族生活と法
第８回　民事訴訟の手続
第９回　犯罪と刑罰
第10回　刑事訴訟の手続
第11回　法の下の平等
第12回　思想および良心の自由
第13回　人身の自由
第14回　裁判所

【成績評価の方法】
試験　81%　出席　19%
定期試験68%、小テスト13%、出席19%とする。
(実際には定期試験100点、小テスト20点、出席28点として計算している)
ただし、試験の点数や出席状況が顕著に悪い者は不可とする。

【教科書】
石川明ほか プライマリー法学憲法 不磨書房

【参考文献】
参考文献ではなく、2010年版の六法は必ず持参すること。デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)、セレクト六法(岩波書店)のいずれかならどれでもよい。法学六法(信山社)は不可。

【備考】
準備学習の指示：次回の授業範囲の教科書に眼を通して、漢字を確認してほしい。また、毎回の授業で出てきた条文は、次に出てきたときに必ずわかるように、チェックしてほしい。
・10J生対象

科目名　クラス　講義区分	
法情報学　＜通期＞	
関　堂　幸　輔	４単位

【講義概要】
法は元来私たちの社会生活に身近なものですが，今日の高度情報化社会にあっては，人々が法に関する情報に触れる機会がより一層増加しています。また一方で，情報化によって現在は法の在り方やその解釈・運用も変わりつつあります。この講義では，「法に関する情報」と「情報に関する法」という二つの面からさまざまな問題を取り上げて，それらを考察します。

【学習目標】
上記「講義概要」に掲げた問題を各自において認識し，それぞれに考察することが目標です。すなわち，一概に何を覚えればよいというものでもなく，画一的な答えを求められるものでもありません（もし「学習目標」としてそのようなものが求められているのだとすれば，この講義では無意味なことです）。そもそも最先端の技術やサービスが次々に提供される高度情報化社会にあって絶対的に「正しい」ことなどなく，現在常識として行われていることが数年後に覆される可能性さえあるのです。それを理解することこそ，この講義の学習目標であると言えます。

【講義計画】
第１回　おおむね以下のとおり講義を進めていく予定です（変更する場合もあります）。
　　法とその情報（法律以外の「法」）
第２回　法情報に関するリテラシー
第３回　法における「情報」の意義
第４回　情報の性質と法
第５回　情報の独占と知的財産（１）
第６回　情報の独占と知的財産（２）
第７回　情報の独占と知的財産（３）
第８回　情報のデジタル化による影響
第９回　情報流通による不法行為（１）
第10回　情報流通による不法行為（２）
第11回　情報公開制度（１）
第12回　情報公開制度（２）
第13回　個人情報保護制度（１）
第14回　個人情報保護制度（２）
第15回　前期試験
第16回　情報に関する法規制（１）
第17回　情報に関する法規制（２）
第18回　情報に関する法規制（３）
第19回　放送と通信の融合（１）
第20回　放送と通信の融合（２）
第21回　表現の自由とメディア（１）
第22回　表現の自由とメディア（２）
第23回　表現の自由とメディア（３）
第24回　表現の自由とメディア（４）
第25回　情報モラルとサイバー犯罪（１）
第26回　情報モラルとサイバー犯罪（２）
第27回　最近の裁判例（１）
第28回　最近の裁判例（２）
第29回　最近の裁判例（３）
第30回　後期試験

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　０%　出席　０%
各学期末（前期・後期いずれも）に実施する試験を主とし（80%），平常点を従として（20%）評価します。平常点は，授業内でやりとりするコメント・カード（詳細は授業で説明）の記述から，授業に対する積極性や興味・関心の程度を計ることにより評定します。

【教科書】
講義ノートを担当者のウェブ（http://www.sekidou.com/）において公開し，適宜更新します。また，年度の初期に，担当者の執筆にかかる著書が刊行される予定で，これを適宜テキスト・参考書として用いる予定です。

【参考文献】
必要に応じて授業内にて指示します。

科目名　クラス　講義区分	
法職インターンシップ　＜秋＞	
寺　田　友　子	２単位

【講義概要】
プログラムの概要
（１）　事前研修
　A　プログラム・応募資格等のガイダンス
　B　パソコンを駆使しての検索能力を高めるための事前研修
　C　ビジネスマナーの指導
　D　研修要領の説明と報告書の作成指導
（２）　研修期間
　夏期休暇中に、弁護士事務所等で研修を受ける(60時間以上、２週間の予定)。　研修期間中、研修簿を毎日記述し、研修先担当者のチェックを受け、終了後担当者に提出する。
（３）　事後研修
　報告会用のパワーポイントを作成する過程で、他の法律事務所で研修した学生と体験を語り合うことにより、法曹特に、弁護士の活動等につき理解を深める。
　研修結果の報告(一般インターンシップ生と同日に、研修先の方々を前に、パワーポイントを使ってのグループ報告会をおこなう。)

【学習目標】
　インターンシップとは、在学中に企業等において研修的な就業体験をする制度で、大学教育と社会での実地体験を結合することにより、教育効果をいっそうあげることを目的とする。
　法学部で開講する法職インターンシップも同様であって、在学中弁護士事務所等法職の事務所において、就業体験を得ることで、大学での教育効果をいっそう高め、又、学生の職業意識を涵養、醸成することなどを目的として実施する。
　なお、本科目は、事前に実施される応募(基礎演習及び入門科目単位の修得並びに基幹科目の単位を平均B以上で修得していること等)、選考の手続きを経ていることが必要である。受講決定を受けていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【成績評価の方法】
事前研修、研修先からの評価、研修報告書及び事後研修などを総合的に勘案して評価する。

【備考】
弁護士事務所に行って問われるなは、圧倒的に民法です。民法全般について理解を深めておいてほしい。
・秋集中コース
・08生対象

科目名　クラス　講義区分	
法職オリエンテーション　＜秋＞	
前　田　徹　生	２単位

【講義概要】
　法学部の学生諸君は、将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進む方が多いと思います。法職オリエンテーションは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。

【学習目標】
　それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいとしています。

【講義計画】
どのような方をゲスト講師とするかは未定です。講義開始時点で，一覧表を配布します。
参考のため、昨年度(2009年度)の主な講師一覧を添付いたします。
　2009年度法職オリエンテーション講義
①10月２日(金)　講師：前田徹生（法学部教授）
　　テーマ：法職オリエンテーション・ガイダンス
②10月９日(金)　講師　：田畑修治氏（大阪府警察本部警察官採用センター・管理官）
　　テーマ：「警察官の職務」
③10月16日（金）　振替休講
④10月23日(金)　講師：本田　幸則氏（弁護士・本学卒業生）
　　テーマ：「弁護士の仕事」
⑤10月30日(金)　講師：辰野　勇氏（(株)モンベル代表取締役社長・冒険家）
　　テーマ：「遊ビジネス――冒険と夢を語る」
⑥11月６日(金)　講師：佐野正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）
　　テーマ：「裁判官の仕事と生活」
11月13日（金）　大学祭休講
⑦11月20日(金)　講師：新垣たずさ氏(環境庁・本学卒業生)
　　テーマ：「公的仕事の多様性」
⑧11月27日(金)　講師：木本博之氏（兵庫県行政書士会理事・W.セミナー専任講師）
　　テーマ：「行政書士の仕事」
⑨12月４日(金)　講師：藤村輝子氏（藤村法律事務所弁護士・元検察官）
　　テーマ：「検事、その多彩な職域と職務――格好よくするのは楽じゃない――」
⑩12月11日(金)　講師：辰野　勇氏（(株)モンベル代表取締役社長・冒険家）
　　テーマ：「グローバル・マーケットへの挑戦」
⑪12月18日(金)　講師：辻宏康氏（和泉市役所・市長）
　　テーマ：「地方公務員の仕事」
⑫１月８日(金)　講師：藤原照明氏（元丸紅株式会社・ベイルート、香港、コロンボ勤務）
　　テーマ：「国際ビジネスと日本」
⑬１月15日(金)　講師　：　徳田要市氏（司法書士）
　　テーマ：「司法書士の仕事」
⑭１月22日(金)：法科大学院・各種公務員合格者体験報告会

【成績評価の方法】
二分の一以上の出席を単位認定の最低条件とする。
２回のレポートと出席点を総合して成績評価の判断をおこなう。ネット情報をそのまま引き写したようなレポートは、評価の対象としない。その授業で話された具体的な内容を記し、その感想をまとめること。

【教科書】
なし
【備考】
【準備学習の指示】
　予定された講師の講義に関連した職業等につき、事前にネット等によって下調べを行っておくこと。
・10J生対象
・インテグレーション科目

は
行

科目名　クラス　講義区分	
法女性学　＜秋集＞	
松　田　聰　子	４単位

【講義概要】
男女共同参画社会基本法が制定されて以来、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが国や自治体で実施されている。法女性学では、民法や刑法、労働法などを素材にして、わが国における女性・男性・性を取り巻く法環境を概観し、男女平等の視点から法制度の問題点やこれからの展望を探っていく。諸外国との比較検討も欠かせない視点である。

【学習目標】
次の三点を学習の目標にする。
① ジェンダー概念を理解しさまざまな事象を分析できる応用力をつけること。
② 憲法の平等規定や男女共同参画社会基本法が目指す「多様性を認め合う社会」について理解すること。
③ 女性に対する暴力がなぜ問題か理解すること。

【講義計画】
第１回　ガイダンス－法女性学が目指すもの
第２回　堕胎罪と中絶規制
第３回　中絶規制と産む権利
第４回　優生保護法から母体保護法へ
第５回　人口政策と「リプロ」
第６回　家族法の概観
第７回　婚姻制度とその課題（１）
第８回　婚姻制度とその課題（２）
第９回　婚姻制度とその課題（３）
第10回　戸籍制度と国際結婚
第11回　離婚制度とその課題（１）
第12回　離婚制度とその課題（２）
第13回　同性愛と法
第14回　性のグラデーション、ジェンダーそして法
第15回　親子関係と法（１）
第16回　親子関係と法（２）
第17回　生殖補助技術の現状と法的課題（１）
第18回　生殖補助技術の現状と法的課題（２）
第19回　生殖補助技術とジェンダー
第20回　性暴力と法
第21回　ストーカー行為と法
第22回　ドメスティックバイオレンスと法
第23回　恋人間の暴力と法
第24回　人身売買・売買春と法
第25回　働く権利と法
第26回　男女雇用機会均等法の課題
第27回　養育・介護・年金とジェンダー
第28回　男女共同参画社会が目指す社会
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％

【参考文献】
辻村みよ子『ジェンダーと法』（不磨書房）、浅倉むつ子他『ジェンダー法学』（不磨書房）、浅倉むつ子他『フェミニズム法学』（明石書房）、浅倉むつ子他『比較判例ジェンダー法』（不磨書房）、金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣）、山下泰子他『法女性学への招待』（有斐閣）、吉岡睦子他『ジェンダー法講義』（民事法研究会）

【備考】
復習をして、わからない用語があれば書きだして調べておくこと。
・Jのみ02～08生対象
・E、SS、SW、B、Lは05～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
法制史－西洋法と日本法の出会い　＜通期＞	
的　場　かおり	４単位

【講義概要】
基本的人権、契約自由の原則、罪刑法定主義・・。これらのキーワードは法学部に学ぶ私たちにとっては「あたりまえ」「自明」のものばかりでしょう。でもこれらの法概念や法理論、法システムがどこから来たのか、どのような過程で「あたりまえ」で「自明」になったのか、考えたことがありますか？ この問題に「歴史」と「比較」を用いて切り込むことこそ、本講義の目的です。
前期の講義では、西洋における「近代法」について学習します。後期の講義では、それらの西洋「近代法」がどのように日本に継受されたのか、あるいは、されなかったのかを比較・検討します。
歴史は過去の遺物ではなく、今を生きる私たちの一部です。それを確認し、よりよい未来の法を志向するための「歴史の旅」に一緒に出かけましょう。

【学習目標】
ちょんまげを切り落とし洋服を着て、牛鍋を食べるようになった明治時代。実は明治時代は法の世界にも大きな転換をもたらしました。つまり、現行法の基礎の多くがこの＜明治生まれ＞なのです。
講義では「歴史」と「比較」という２つの視点から法・法律を取り扱います。現行法のルーツを紐解きながら、現行法を客観的・多角的に観察、分析することを学習目標とします。
【歴史】私たちの「現代法」の淵源をたどれば、「近代法」に行き着きます。　「現代法」の基礎にある概念や理論、システムは、実は誕生してから100年あまり、場合によっては50年あまりの歴史しかないのです。つまり、ここに「現代法」の出発点としての「近代法」を学習する意味があるのです。
【比較】明治の幕開けとともに始まる日本の「法の近代化」。日本はモデルとする国を中国から西洋諸国に移し、精力的に西洋法の受容を推し進めました。したがって「近代法」を考えるうえで、日本と西洋の「近代法」を比較することは不可欠です。

【講義計画】
第１回　法制史とは何か
第２回　岩倉使節団の見た「西洋」と法の「近代化」
第３回　フランス革命と近代法
第４回　ナポレオン法典の世界史的意義
第５回　ドイツにおける近代化
第６回　三月前期のドイツ～法典編纂論争を中心に～
第７回　「自由」と「統一」～立憲主義と自由主義～
第８回　三月革命～その栄光と挫折～
第９回　二つの憲法典①～フランクフルト帝国憲法とプロイセン憲法～
第10回　二つの憲法典②～フランクフルト帝国憲法とプロイセン憲法～
第11回　ライバル・プロイセンとオーストリアの明暗
第12回　ドイツ帝国誕生とビスマルク～岩倉使節団へのインパクト～
第13回　ドイツ帝国における法典編纂
第14回　近代西洋における法思想～刑法・民法を中心に～
第15回　まとめ
第16回　日本の近代化
第17回　明治の幕開けと岩倉使節団の派遣
第18回　国制の模索①～立憲君主制への歩み～
第19回　国制の模索②～イギリスかドイツか、それが問題だ～
第20回　伊藤博文による憲法調査
第21回　大日本帝国憲法の欽定①～起草から欽定まで～
第22回　大日本帝国憲法の欽定②～「プロイセン憲法そのまま」疑惑に迫る～
第23回　大日本帝国憲法から日本国憲法へ
第24回　刑法典編纂①～罪刑法定主義のルーツ～
第25回　刑法典編纂②～古典派と新派の対立～
第26回　治安立法①～臣民の権利に対する法律の留保～
第27回　治安立法②～治安警察法から治安維持法へ～
第28回　遅れてきた民法典①～ナポレオン法典とボアソナード～
第29回　遅れてきた民法典②～民法出でて忠孝滅ぶ？！～
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　40％　レポート　40％　出席　20％
①後期の成績評価は筆記試験で行います
②前期の成績評価はレポートで行います

③出席の評価なかには、出席回数だけではなく、授業での発言や宿題の提出状況なども含みます

【教科書】
岩村等、三成賢次、三成美保『法制史入門』ナカニシヤ出版
絶版のため、受講生が確定次第、印刷コピーしたものを配布します。

【参考文献】
講義で配布するレジュメに記載し、適宜紹介します。
ただし、
勝田有恒他著『概説西洋法制史』(ミネルヴァ書房、2004年)
川口由彦著『日本近代法制史』(新世社、1998年)
は教科書と合わせて読むことをお勧めします。

【備考】
【準備学習の指示】
①「世界史」「日本史」の基本的な知識が必要です。高校までの教科書を読み直すなどして復習しておいてください。
②近代法は現代法、現行法と切り離せません。常に両者の関係を念頭に置き、それぞれの講義を聞くことを心がけてください。

科目名　クラス　講義区分	
法哲学－法理論と法解釈論　＜春集＞	
早　川　のぞみ	4単位

【講義概要】
法哲学は，主に，「法理論（法の基本的特質や法秩序の構造）」・「法解釈論（法律家の法的思考の構造）」・「狭義の法哲学（法と正義，法と道徳の関係など）」という３つの問題領域を扱う。この講義では，法律学を学習する学生にとって特に関係が深いと思われる「法理論」と「法解釈論」の２つの問題領域に焦点を当てて検討していく。
第一に，法の本質や法秩序の規範構造などに関する基本的な考え方について明らかにする（「法理論」の問題）。伝統的自然法論および古典的法実証主義，そして，現代法理論の展開を概観し，それぞれの理論の基本的特徴と問題点を整理・分析する。
第二に，法の解釈・適用の方法と構造について検討する（「法解釈論」の問題）。裁判官は法をどのような方法で判決を導き出すのか。とりわけ，判決の依拠すべき法が存在しない場合（法の欠缺）や，適用可能な法があるけれども，それをそのまま適用してしまうと結果に不具合が生じてしまうために，既存の法を訂正する操作が必要となる場合に（制定法の誤謬訂正），裁判官は，どのような仕方で正しい法的判断を下すのか。法律家の法的思考の仕組みを解明する。
法の解釈・適用の方法と構造を明らかにすること（法解釈論）は，その判断の対象である法それ自体の解明―すなわち，法規範の性質や法秩序全体の規範構造の解明（法理論の領域）―と，密接に関連している。これら２つの問題領域―法理論と法解釈論―がどのような仕方で関連しているのか。また，法と正義，法と道徳といった狭義の法哲学固有の問題が，法理論・法解釈論にどのように関係しているのかを検討していく。

【学習目標】
現代の主要な法理論・法解釈論を概観し，法とは何かに関する諸々の基本的な考え方について理解する。解釈の困難な法的問題に取り組んで解決していくために，法の基礎理論を踏まえて多角的に考えて判断する能力を身につけることを目的とする。

【講義計画】
第１回　ガイダンス―講義の目的・概要・評価等について
第２回　法哲学とはどのような学問か
第３回　法理論と法解釈論
第４回　法理論と法哲学
第５回　自然法と法実証主義（１）伝統的自然法論①
第６回　自然法と法実証主義（２）伝統的自然法論②
第７回　自然法と法実証主義（３）イギリスの古典的法実証主義①
第８回　自然法と法実証主義（４）イギリスの古典的法実証主義②
第９回　現代法理論の展開（１）H. ケルゼンの法理論
第10回　現代法理論の展開（２）H.L.A. ハートの法理論
第11回　現代法理論の展開（３）R. ドゥオーキンの法理論
第12回　現代法理論の展開（４）ポストモダンの法理論
第13回　法の基本構造（１）法の概念①
第14回　法の基本構造（２）法の概念②
第15回　法の基本構造（３）法規範の性質と法秩序の構造①
第16回　法の基本構造（４）法規範の性質と法秩序の構造②
第17回　法の基本構造（５）法と権利①
第18回　法の基本構造（６）法と権利②
第19回　法と道徳（１）
第20回　法と道徳（２）
第21回　法的思考（１）法の解釈・適用の基本構造①
第22回　法的思考（２）法の解釈・適用の基本構造②
第23回　法的思考（３）法解釈論の展開①
第24回　法的思考（４）法解釈論の展開②
第25回　法的思考（５）法の解釈①
第26回　法的思考（６）法の解釈②
第27回　法的思考（７）裁判官の発展的法形成
第28回　総括

【成績評価の方法】
期末試験により評価する。

【教科書】
平野仁彦，亀本洋，服部高宏著『法哲学』有斐閣
竹下　賢，角田猛之，市原靖久，桜井　徹　編著『はじめて学ぶ法哲学・法思想』ミネルヴァ書房
2010年刊行予定

は
行

深田三徳，濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房
上記のいずれか１冊を教科書として指定する。

【参考文献】
授業の中で，適宜，紹介する。

【備考】
授業進度に合わせてレジュメ・資料を配布する。
テキストについては『法哲学』『はじめて学ぶ法哲学・法思想』『よくわかる法哲学・法思想』のうち，いずれか１冊を教科書として選ぶこと。詳細は第１回の講義で説明する。

【準備学習の指示】授業の進度にあわせて教科書の指定箇所を予習・復習すること。

科目名　クラス　講義区分	
簿記　01＜通期＞	
河　野　　勉	４単位

【講義概要】
日本商工会議所の簿記検定３級程度の簿記の基礎知識を習得することを目指す。
日常の経済取引からどのようにして個人、法人の通信簿である決算書を作成するのか、簿記一巡の手続きを学習する。

【学習目標】
決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）＆アカウンタビリテイの必要性が最重要視されている。
決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。
企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。

【講義計画】
第１回　複式簿記の原理
第２回　貸借対照表の意義
第３回　損益計算書の意義
第４回　取引・仕訳と勘定記入
第５回　仕訳帳と元帳転記
第６回　試算表の構造と作成（その１）
第７回　試算表の構造と作成（その２）
第８回　帳簿決算（英米式・大陸式）（その１）
第９回　帳簿決算（英米式・大陸式）（その２）
第10回　精算表
第11回　決算の意味と手続
第12回　決算と財務諸表の作成（その１）
第13回　決算と財務諸表の作成（その２）
第14回　総復習
第16回　現金・預金取引
第17回　商品売買取引
第18回　信用取引
第19回　手形取引
第20回　有価証券取引
第21回　固定資産取引
第22回　個人企業の資本取引・税金
第23回　決算整理（その１）期末棚卸商品と売上原価の算定
第24回　決算整理（その２）貸倒引当金・減価償却
第25回　決算整理（その３）費用・収益の繰延べと見越し
第26回　試算表の作成
第27回　精算表の作成
第28回　財務諸表の作成
第29回　総復習

【成績評価の方法】
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定３級に合格した場合は、成績評価に加算する。

【教科書】
加古　宜士・渡部　裕亘　片山覚（編著）
「新検定簿記　ワークブック３級」（中央経済社）
「新検定簿記講義３級」

科目名　クラス　講義区分	
簿記　02＜通期＞	
堀　井　愃　暢	4単位

【講義概要】
一般社会人、企業人としての社会的基礎知識となっている簿記を、初めて学習する人を前提に基本原理から決算までを学習する。企業は経済活動の結果を、株主や債権者等の利害関係者に対して報告しなければならない。このための、経済活動を貨幣金額で写像するシステムが「複式簿記」である。現代人にとって必須の基礎知識である簿記を、初めて学習する人を前提に基本原理から決算までを出来るだけ平易に教授する。

【学習目標】
複式簿記の基本原理を理解し、日常の取引の記帳から決算までの一連の手続を習得する。
日本商工会議所主催の簿記検定試験３級合格及びそれ以上のための基礎を身につける。

【講義計画】
第１回　簿記の基礎と原理（１）簿記の意義
第２回　簿記の基礎と原理（２）損益計算書と貸借対照表
第３回　簿記の基礎と原理（３）損益法と財産法
第４回　取引の意義
第５回　取引の分析と類型
第６回　仕訳帳と元帳（１）仕訳帳への記入
第７回　仕訳帳と元帳（２）元帳への記入
第８回　試算表（１）試算表の作成
第９回　試算表（２）財務諸表の誘導
第10回　決算とその手続（１）損益勘定の設定と純損益の振替
第11回　決算とその手続（２）残高勘定の設定と財務諸表の作成
第12回　決算とその手続（３）開始記入と大陸式決算手続・英米式決算手続
第13回　決算整理と精算表（１）現金主義会計と発生主義会計
第14回　決算整理と精算表（２）決算整理記入
第15回　決算整理と精算表（３）精算表の作成
第16回　商品売買の処理（１）商品勘定
第17回　商品売買の処理（２）商品勘定の分割
第18回　商品売買の処理（３）商品売買業における帳簿
第19回　商品の期末評価
第20回　現金預金の処理
第21回　売掛金・買掛金と債権の評価一貸倒引当金の処理
第22回　有価証券の処理
第23回　手形の処理
第24回　固定資産の処理と減価償却費
第25回　引当金の処理と経過勘定の処理
第26回　税金の処理及び伝票制とその他
第27回　総復習（１）
第28回　総復習（２）

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　10%　出席　20%

【教科書】
武田 隆二 簿記一般教程〈第７版〉中央経済社

【備考】
【準備学習の指示】
簿記の学習は、段階的、積み上げ的に進んでいくので、前回の授業の内容を理解しておく必要があります。したがって、毎回授業を受ける前に、前回までの授業を復習しておくことが求められます。着実に復習することが大切です。余裕があれば、次回の授業のための予習をすれば、さらに良いでしょう。

科目名　クラス　講義区分	
保健医療論Ａ　＜春＞	
藤　田　　譲	2単位

【講義概要】
私たちの日常生活において、保健医療分野はもっとも身近な領域である。本講義では、日常生活で誰しも経験する患者や家族の立場を念頭に、保健医療分野におけるソーシャルワークの実際と絡めながら、日本の保健医療サービスの制度的側面・サービス供給システムを解説し、あわせてを紹介していく。

【学習目標】
① 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。
② 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

【講義計画】
第１回　保健医療サービスの全体像―オリエンテーション
第２回　保健医療サービスの概要（１）我が国の医療制度
第３回　保健医療サービスの概要（２）医療政策の動向
第４回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際（１）医師・看護師の役割
第５回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際（２）その他医療専門職の役割
第６回　保健医療サービス関係者との連携と実際（１）保健医療サービスにおける連携の必要性
第７回　保健医療サービス関係者との連携と実際（２）連携・協働のあり方と実際
第８回　保健医療サービス関係者との連携と実際（３）連携におけるソーシャルワーカーの役割
第９回　医療保険制度（１）歴史とその概要
第10回　医療保険制度（２）現在の課題
第11回　医療保険制度（３）他国の制度と課題
第12回　診療報酬（１）診療報酬制度の仕組み
第13回　診療報酬（２）診療報酬と保健医療サービスとの関連
第14回　診療報酬（３）診療報酬制度の課題
第15回　保健医療サービス―まとめ

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　30%　出席　50%
レポートは授業中に任意に２回、期末にレポート試験を課す。

【参考文献】
適時紹介する

【備考】
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
保健医療論B　＜秋＞	
小　西　直　毅	2単位

【講義概要】
基本的に社会福祉士科目である「保健医療サービス」に準拠して講義を行う。加えて、視聴覚教材の活用及び、現任の保健医療ソーシャルワーカーである講義担当者の経験や見解を積極的に伝えていこうと考えている。

【学習目標】
①相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。
②保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　保健医療分野における相談援助活動とは
第２回　医療保険制度①
　　医療保険制度の概要
第３回　医療保険制度②
　　医療費に関する政策動向
第４回　診療報酬制度
第５回　保健医療サービスの概要①
　　医療施設の概要
第６回　保健医療サービスの概要②
　　保健医療対策の概要
第７回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際①
　　医師の役割
第８回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際②
　　インフォームドコンセントの意義と実際
第９回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際③
　　保健師、看護師の役割
第10回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際④
　　作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等の役割
第11回　保健医療サービスにおける専門職の役割と実際⑤
　　医療ソーシャルワーカーの役割
第12回　保健医療サービス関係者との連携と実際①
　　医師、保健師、看護師等との連携
第13回　保健医療サービス関係者との連携と実際②
　　地域の社会資源との連携
第14回　保健医療ソーシャルワークの展望
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
レポートは毎回講義時に行い、授業態度と併せて評価する。

【教科書】
児島美都子，成清美治，牧洋子 編著 イントロダクションシリーズ２　保健医療サービス 学文社
ISBN978-４-7620-1931-９ C3336

【備考】
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
保険論基礎　＜秋＞	
武　田　久　義	2単位

【講義概要】
リスクに対処する経済的手段の一つである保険は、現在の社会においては不可欠の制度の一つとして定着している。そして保険は、生命、財産上の損失、賠償責任等の広い分野に利用されている。しかし、一般的には「保険はイザというときの備え」という程度にしか理解されていない。この講義では、保険の仕組みと成り立ち、保険の役割と用途、保険の限界、保険の組織、契約としての保険等、保険を真に理解し社会に出て役立つような保険の基礎的知識について解説する。

【学習目標】
保険についての基礎的知識を習得する。そして、社会において保険と係わる場合に、最低必要な知識について理解しておく。金融関連事業とくに保険会社等で働く場合に役立つ程度の知識は、身に付けておいてほしい。

【講義計画】
第１回　全体の説明
第２回　保険の意義
第３回　保険の役割
第４回　保険の類似制度（１）
第５回　保険の類似制度（２）
第６回　保険の組織
第７回　保険の契約
第８回　保険の種類と代表的な保険について（１）
第９回　保険の種類と代表的な保険について（２）
第10回　保険の種類と代表的な保険について（３）
第11回　保険の種類と代表的な保険について（４）
第12回　保険の生成と発展（１）
第13回　保険の生成と発展（２）
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100%

【教科書】
武田久義 リスク・保障・保険 成文堂

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ボランティア論　＜春＞	
大　野　順　子	２単位

【講義概要】
ポストモダン社会における「ボランティア」概念の変容やボランティア活動の現状を批判的に検討し、新しいセクターとしてその社会的地位を確立しつつあるボランティア・ボランティア活動と社会の関係性、またはそのあり方について考えていく。

【学習目標】
現代社会においてその活動に期待が寄せられているボランティア活動や市民活動、NPO等についての基本的な理解を深めるとともに、ボランティア（活動）そのものに潜在的に包含されている価値観や思想について検討し、関連するさまざまな社会的事象を取り上げながら、社会を批判的にみる（考える）力を涵養することを本講義の目的とします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション：ボランティアとは何か
第２回　ボランティア・ボランティア活動の歴史的変遷
第３回　組織としてのボランティア（NPOについて）
第４回　社会とボランティアの関係性に関する考察①：ソーシャル・イノベーション
第５回　社会とボランティアの関係性に関する考察②：ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）Ⅰ
第６回　社会とボランティアの関係性に関する考察②：ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）Ⅱ
第７回　ボランティアの周辺にある問題①：ひとをボランティア活動へ促すモチベーション
第８回　ボランティアの周辺にある問題②：活動の有償性と無償性
第９回　ボランティアの周辺にある問題③：リテラシーとしてのボランティア活動
第10回　ボランティアとリフレキシビティ：省察的実践者としてのボランティア
第11回　ボランティアに対する批判的検討①：ボランティアのカリキュラム化
第12回　ボランティアに対する批判的検討②：動員性とボランティア
第13回　ネットワーキングからノットワーキングへ：災害援助を事例に
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
○試験（特に重視する）
○レポート（期限厳守、特別な理由がない限り期限外提出は一切受け付けない）
○出席状況（参考程度）
以上より総合的に評価しますが、試験の占める割合が大きいです。試験は記述式（複数問）ですので、普段から自分自身が講義に出席し、その内容を理解していないと全く解答できないことになりますので注意してください。

【教科書】
特に指定しない。
毎時テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】
その都度、指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
講義計画の内容理解をより深める為にも、可能であれば、事前に各自ボランティア活動等に参加し、その現状についてある一定の状況を把握・体験しておくことをすすめます。無理な場合は、ボランティアに関連した市販・TV放送済みビデオ教材等で活動の実態について把握しておくこと。講義計画にあるNPOや社会関係資本については関連する文献を各自調べ、図書館等で入手し（あるいは購入し）、読んでおくこと。
また、本講義は単に知識を得るだけではなく、講義内で取り上げたテーマをもとにそれぞれがその内容について検討する力を要します。ですので、履修する学生さんんは講義への積極的な参加が求められます。

科目名　クラス　講義区分	
マーケティング論Ａ　01＜春＞ マーケティング論Ａ　02＜春＞	
鈴　木　幾多郎	２単位

【講義概要】
市場を創造し企業の未来を切り開いていくためにはマーケティングが不可欠である。ではマーケティングとは、そしてマーケティングの役割とは何か。あるいは、市場を創造し維持するためには、どのようなマーケティング・マネジメントを行えばよいのか。本講義では、さまざまケースの分析と考察を通じて、これらの問いへの答えを探り出すことを目的としている。

【学習目標】
生きたマーケティングの知識や知恵を伝えるには「ケースと一体のものとしてマーケティングの理論や概念を提示していく」というスタイルが理にかなっている。本講義では、ケースに即してマーケティングの問題を考えることを目標にしている。

【講義計画】
第１回　【オリエンテーション】
―マーケティングから見た日本企業の現代的課題―
第２回　マーケティング・マネジメント（１）
第３回　マーケティング・マネジメント（２）
第４回　マーケティング・マネジメント（３）
第５回　売れる仕組はこうしてつくる
第６回　これまでにない市場を作る
第７回　市場との関係を変える
第８回　絶えず変わり続ける市場への対応
第９回　他の追随を許さない強みを築く
第10回　マーケティングの優良企業の条件
第11回　マーケティング・リテラシー
第12回　新しい消費のカタチを探る
第13回　市場への創造的適応とは
第14回　新たなマーケティング戦略に向けて
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%

【教科書】
栗田契・余田拓郎・清水信年 売れる仕組はこうしてつくられる 日本経済新聞社

【備考】
準備学習の指示

①「日本経済新聞」を読んでくること。

②教科書に指定した「売れる仕掛けはこうしてつくられる」を読んでくること。
・02～07生は読替一覧参照

は・ま行

科目名　クラス　講義区分	
マーケティング論Ｂ　01＜秋＞ マーケティング論Ｂ　02＜秋＞	
鈴　木　幾多郎	２単位

【講義概要】
日本企業が抱えているマーケティングの課題とはなにか。そして、それを乗り越えていくためには、どのようなマーケティングの方策が必要となるのか。一つの課題は、消費者が現実に持つ課題とそれに対する解決策を探り当てることであり、それに応えられるような形で製品・サービスの完成度を上げていくことである。本講義では、優れたイノベーションの事例を参考に「イノベーションと市場創造」というテーマで話を進めていく。

【学習目標】
市場創造のためには表層的な市場分析ではなく未来創造戦略が重要となる。未来創造戦略とは、自分たちの価値観、自ら信じる絶対価値を追求するものである。本講義では、未来創造的なマーケティングのあり方を考えることを目標としている。

【講義計画】
第１回　「オリエンテーション」
　　―イノベーションの必要性―
第２回　日本産業の再編成とイノベーション
第３回　イノベーションの新時代
第４回　イノベーションの本質と作法（１）
第５回　イノベーションの本質と作法（２）
第６回　イノベーションの本質と作法（３）
　　イノベーションの本質と作法（３）
第７回　企業デザインとマーケティング
第８回　新たなビジネスモデルとマーケティング
第９回　異業種競争戦略とマーケティング
第10回　ネクスト・マーケットとBOPマーケティング
第11回　マーケティング・ゲームの変革
第12回　未来の消費社会とマーケティング
第13回　地域ビジネスとマーケティング
第14回　高齢化社会とシニア・マーケティング
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%

【教科書】
野中郁次郎・勝見明 イノベーションの作法 日本経済新聞社

【備考】
準備学習の指示

①「日本経済新聞」を読んでくること。

②教科書に指定した「イノベーションの作法」を読んでくること。

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
マクロ経済学　01＜通期＞	
森　　誠	４単位

【講義概要】
近代経済学のマクロ経済学を講義します。
まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。

【学習目標】
近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。

【講義計画】
第１回　失業と労働市場-新古典派の考え方-
第２回　失業と有効需要-ケインズの考え方-
第３回　生産GDP
第４回　支出GDP
第５回　三面等価の原則
第６回　在庫投資
第７回　貨幣賃金と実質賃金
第８回　名目GDPと実質GDP
第９回　名目成長率と実質成長率
第10回　インフレーションと実質賃金上昇率
第11回　ISバランス１
第12回　ISバランス２
第13回　貿易黒字と貯蓄１
第14回　貿易黒字と貯蓄２
第16回　新古典派とケインズ
第17回　有効需要原理
第18回　投資乗数
第19回　乗数過程１
第20回　乗数過程２
第21回　均衡予算定理
第22回　投資関数
第23回　利子率の決定１
第24回　利子率の決定２
第25回　IS曲線
第26回　LM曲線
第27回　財政政策の効果と問題点
第28回　金融政策の効果と問題点
第29回　リカード命題

【成績評価の方法】
試験　100%
前期・後期試験
基本的には試験の点数で成績評価しますが、講義に出席せずに合格するのは難しいと思います。やむを得ない事情で欠席した場合は必ず出席した人のノートを写し内容を理解しておいてください。１回休むと次回内容がわからなくなります。

【教科書】
岩田規久男 マクロ経済学第２版 新世社
どのテキストも一長一短です。このテキストで不十分な箇所は講義で補います。

【参考文献】
・工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済. 惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社. 吉川洋『マクロ経済学』岩波, ケインズ派の立場によるマクロ経済学.
その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
マクロ経済学　02<春集>	
中　村　勝　之	4単位

【講義概要】

マクロ経済学の主要な課題は、一国経済を規定するGDP（国内総生産）の決定メカニズム、およびそこから派生して決定される経済成長、失業、インフレといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策（景気対策とほぼ同義）の効果を理論的に検証することにある。だが入門書で語られていることと今の日本経済の現状を素朴に観察したとき、かなりの食い違いに気づくはずである。そこにはいくつかの理由があるのだが、その１つとして確実にいえるのは、入門書では経済の「グローバル化」、すなわち対外経済取引をほとんど捨象しているからである。

そこでこの講義ではマクロ経済学の基礎知識の１つのゴールであるIS-LM分析を、対外経済取引が行われる状況に拡張した議論（マンデル＝フレミング・モデル）を最終到達点として、マクロ経済学の基礎知識を解説していく。

なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いである。

【学習目標】

マクロ経済学は「連立方程式体系」で構成され、数多くの式と記号で記述される。これを数多く触れながら、

①背後にある前提
②論理を追求した際の整合性
③政策上の帰結と含意

これらを理解していただきたい。

【講義計画】

第１回　ガイダンス
第２回　文法としての経済数学Ⅰ（関数と方程式）
第３回　文法としての経済数学Ⅱ（微分法）
第４回　GDPⅠ（三面等価の原則）
第５回　GDPⅡ（さまざまな指標）
第６回　GDPⅢ（名目と実質）
第７回　第１回小テスト
第８回　主要関数一覧Ⅰ
第９回　主要関数一覧Ⅱ
第10回　乗数理論Ⅰ
第11回　乗数理論Ⅱ
第12回　第２回小テスト
第13回　IS－LM分析Ⅰ
第14回　IS－LM分析Ⅱ
第15回　IS-LM分析Ⅲ
第16回　第３回小テスト
第17回　中間試験
第18回　AD-AS分析Ⅰ（ノーマルケース）
第19回　AD-AS分析Ⅱ（ケインズ派ケース）
第20回　AD-AS分析Ⅲ（新古典派ケース）
第21回　第４回小テスト
第22回　乗数理論の拡張Ⅰ（ノーマルケース）
第23回　乗数理論の拡張Ⅱ（２国間貿易）
第24回　第５回小テスト
第25回　マンデル＝フレミング・モデルⅠ（３つの曲線の導出）
第26回　マンデル＝フレミング・モデルⅡ（固定相場制でのマクロ経済政策の効果）
第27回　マンデル＝フレミング・モデルⅢ（変動相場制でのマクロ経済政策の効果）
第28回　マンデル＝フレミング・モデルⅣ（閉鎖経済との比較考察）
第29回　期末試験

【成績評価の方法】

試験　100%　出席　100%

①講義時間中に行われる「小テスト」（５回実施（１回につき10点満点）。獲得合計を100点満点に換算）
②講義期間中頃に行われる「中間試験」
③「期末試験」

※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算する。
※（必要であれば）各試験の獲得点にもとづく加点措置を行い、60点以上であれば合格。
※上記措置で59点以下の者は「出席点」による加点措置も行う。

【教科書】

使用しない。適宜資料(レジュメ)を配付する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

受講生数や能力等に応じて、講義進行を変更することがある。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
マクロ経済学　03<秋集>	
伊代田　光　彦	4単位

【講義概要】

近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。

経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。

【学習目標】

(1)マクロ経済学が魅力のある分野であり、経済問題の解決に役立つことを理解してもらうことを最大の目標とする。(2)マクロ経済学の基礎理論を学ぶことによって、①関連科目・応用科目学習の基礎として役立てること、および②新聞、ラジオ、テレビなどによるマクロ経済ニュースについて概ね理解できるようになることを目標とする。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。理論はステップを踏んで学習していくことが必要であり、授業への出席と継続的な努力が伴わなければ上記の目標を達成することは困難である。

【講義計画】

第１回　はじめに（講義概要、文献紹介）
第２回　マクロ経済学への導入（経済学とは）
第３回　マクロ経済学への導入（現代経済学）
第４回　マクロ経済学への導入（経済学を学ぶにあたって）
第５回　国民所得の概念（計測方法）
第６回　国民所得の概念（GDPおよびNDP）
第７回　国民所得の概念（関連概念）
第８回　国民所得の概念（意義と限界）
第９回　所得分析（消費、貯蓄および投資）
第10回　国民所得分析（所得決定論）
第11回　国民所得分析（所得決定論）
第12回　国民所得分析（応用）
第13回　貨幣分析（貨幣数量説）
第14回　貨幣分析（貨幣と国民所得）
第15回　貨幣分析（銀行の信用創造）
第16回　貨幣分析（中央銀行の金融政策手段）
第17回　国民所得の変動（変動要因）
第18回　国民所得の変動（投資の二重効果）
第19回　国民所得の変動（景気循環）
第20回　国民所得の変動（付論　経済成長）
第21回　マクロ経済政策（中央銀行の金融政策）
第22回　マクロ経済政策（政府の財政政策）
第23回　マクロ経済政策(ポリシーミックスと現代の課題)
第24回　マクロ経済政策（付論　IS-LM 分析）
第25回　まとめ
第26回　日本経済のトピックス(失業)
第27回　日本経済のトピックス(経済格差)
第28回　予備　日本経済のトピックス(年金)
第29回　試験

【成績評価の方法】

試験　60%　レポート　30%　出席　10%

成績評価は上記により行のので，レポート未提出や出席の少ない場合、単位取得は困難である。レポートは２回、出席は２-３回とる。

【教科書】

伊代田　光彦 マクロ経済学（第２版）法律文化社

【参考文献】

サムエルソン（著）「経済学（第13版上)」(岩波書店、1992年)

【備考】

準備学習の指示：本講義は、体系性を持つ理論の学習である。理論を修得する着実な方法は、一歩一歩学習を積み重ねていくことである。講義に欠席することなく、復習および予習を行うことが求められる。やむを得ず欠席した場合は、該当箇所の学習を丹念にする必要がある。「経済学」または「経済学基礎理論」を履修済みであることが望ましい。
・02～07生は読替一覧参照

ま行

科目名　クラス　講義区分	
マス・コミュニケーション論Ⅰ　01＜通期＞	
川　島　　隆	4単位

【講義概要】
近代のマスメディアは、近代的な市民社会や国民国家のシステム、そして民主主義の理念の構築と軌を一にして生まれた。その後のマスメディアの成長と変容もまた、近代社会～現代社会のシステムの成立に深く関わっている。ゆえに、マスメディアの歴史を考えることは、現代社会のルーツを考えることでもある。この授業では、①メディアに関する基礎理論を押さえたうえで、②日本も含めた世界各国のマスメディアの歴史を新聞・映画・放送・インターネットなど分野ごとに学び、③現在のマスメディア状況に見られるさまざまな問題の具体例を取り上げて考えていく。

【学習目標】
この授業では、①主要なメディア理論についての知識を得ること、②世界各国のマスメディアの歴史と現在のメディア制度の特徴を把握すること、③われわれが日常的に接する現在のマスメディア状況の問題点を考えることを目標とする。受講者は、マスコミ論・ジャーナリズム論・メディア論の基礎知識を前提に、授業で取り上げた具体的な問題について自分自身の意見を整理して述べることが求められる。

【講義計画】
第１回　前期ガイダンス――そもそもメディアとは何か
第２回　マスメディアを見るための理論――マスコミ論、ジャーナリズム論、メディア論
第３回　新聞の歴史(１)市民社会と「公共圏」
第４回　新聞の歴史(２)国民国家とナショナリズム
第５回　新聞の歴史(３)革命と民主主義
第６回　ラジオの歴史(１)大衆社会の到来
第７回　ラジオの歴史(２)ナチズムの悲劇、ルワンダの悲劇
第８回　ラジオの歴史(３)電波の自由化と社会運動との接点
第９回　まとめと中間試験
第10回　映画の歴史(１)カリガリからヒトラーへ
第11回　映画の歴史(２)ハリウッド産業
第12回　テレビの歴史(１)大衆操作の可能性
第13回　テレビの歴史(２)公共性のゆくえ
第14回　インターネットがもたらした変化(１)ウェブサイトの機能
第15回　インターネットがもたらした変化(２)掲示板、ブログ、SNS
第16回　後期ガイダンス――マスメディアの問題点
第17回　日本のジャーナリズム
第18回　政権交代とメディア
第19回　輿論と世論
第20回　メディアとナショナリズム
第21回　メディアが作るジェンダー
第22回　メディア・リテラシーの必要性
第23回　まとめと中間試験
第24回　広告（コマーシャル）の問題
第25回　写真、ポスター、落書き
第26回　サブカルチャー
第27回　携帯電話（ケータイ）
第28回　都市というメディア
第29回　試験・まとめ
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%

【教科書】
伊藤守 よくわかるメディア・スタディーズ ミネルヴァ書房

科目名　クラス　講義区分	
マス・コミュニケーション論Ⅰ　02＜秋集＞	
石　田　あゆう	4単位

【講義概要】
「マス・コミュニケーション」と聞いた時、具体的にどのようなコミュニケーションをイメージするであろうか。「マス・コミ」との言葉が一般的には定着しているが、今日の情報伝達機関（各メディア）の総称であろうか。また、「コミュニケーション」が互いにやりとりされる自らの気持や意思の伝達過程を指すように、複数の人間間でのやりとりの結果として成立するお互いの合意のありようだろうか。どちらの指摘もそれぞれ正しいが、この研究領域はそれだけにとどまらない側面を持つ。本講義では、メディア論の観点から「マス」（＝大衆）社会において展開されてきたコミュニケーション研究の歴史を概観したうえで、今日のマス・コミュニケーションの可能性とその社会的問題について講義する。

【学習目標】
本講義では、「メディア」を通じたコミュニケーションについて理解したうえで、「マス・コミュニケーション」とは何か、その問題点は何か、なぜこうした領域を学ぶ必要があるとされているのか等についての思考を深める。
　第一に、マス・コミュニケーションの理想と歴史的変容について、第二に、マス・コミュニケーション研究が誕生した経緯とその後の発展形態である。
　マス・コミュニケーション論は、公的意識や社会への関心があってはじめて受講することに意味があるだろう。受講者は、日常生活において、現在の世の中では何が話題になっているのかについて意識的であることが求められる。

【講義計画】
第１回　マス・コミュニケーションと社会
第２回　近代日本社会におけるマス・コミュニケーション
第３回　世論についての考え方
第４回　市民社会の誕生
第５回　総力戦とマス・コミュニケーション
第６回　理想的マス・コミュニケーションとは何か
第７回　「新聞」メディアの誕生
第８回　近代的読書論
第９回　音読文化と黙読文化
第10回　活字離れの時代
第11回　「公共性の喪失」論
第12回　ラジオの時代
第13回　メディアの統合機能論
第14回　メディアの細分化機能論
第15回　マス・コミュニケーション研究の歴史
第16回　「情報」と「メディア」
第17回　「プロパガンダ＝戦争宣伝」の考え方
第18回　メディアの弾丸効果論
第19回　メディアの限定効果論
第20回　現代メディアの影響についての考え方(１)
第21回　19回つづき：＜世論＞は「公的な意見」か
第22回　現代メディアの影響についての考え方(２)
第23回　21回つづき：＜世論＞のゆがみという問題について
第24回　現代メディアの影響についての考え方(３)
第25回　23回のつづき：社会的「沈黙」の問題
第26回　現代メディアの影響についての考え方(４)
第27回　パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーション
第28回　マス・コミュニケーションと文化(１)
第29回　マス・コミュニケーションと文化(２)
第30回　マス・コミュニケーションと文化(３)

【成績評価の方法】
試験　77%　レポート　20%　出席　３%
具体的には第一回講義で告知するので、出席のこと。

【備考】
講義中に適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
マス・コミュニケーション論Ⅱ　＜通期＞	
川　島　　隆	４単位

【講義概要】
現代のマスメディアをめぐる状況に対する批判から生まれたオルタナティブ（代替的）なメディアの活動は、「市民メディア」「コミュニティメディア」などと呼ばれ、世界各国で広がりを見せている。それらの活動の状況は国によって大きく異なるが、①20世紀の後半に世界中で高揚した「社会運動」に起源をもつこと、②市場と政府から独立した活動を行っていること、③ゆえに現在では「非営利セクター」の一環として各国で社会的認知を受け、その活動を支援する公的な制度が構築されていることが共通の特徴である。この授業では、オルタナティブなメディアの発生条件と現状を国ごとに整理したうえで、具体的な活動事例を紹介していく。

【学習目標】
この授業では、オルタナティブなメディアが求められた経緯を理解する前提として、まず世界の国ごとに大きく異なるマスメディアの状況と放送制度のありかたを確認する。さらに、非市場・非政府のメディア活動の存在意義をよりよく理解するため、「社会運動」「非営利セクター」といった概念についても学び、その知識を手がかりに、受講者自身にオルタナティブなメディア活動の可能性について考えてもらう。

【講義計画】
第１回　前期ガイダンス――マスメディアが伝えないもの
第２回　マスメディアの成立(１)新聞と市民社会の「公共圏」
第３回　マスメディアの成立(２)ラジオ・テレビと大衆社会
第４回　社会運動とは何か
第５回　アメリカの公民権運動と「パブリック・アクセスTV」
第６回　南アフリカの反アパルトヘイト（人種隔離）闘争と「ブッシュ・ラジオ」
第７回　ヨーロッパの環境保護運動と「自由ラジオ」
第８回　アイルランドの女性運動と「井戸端会議ラジオ」
第９回　メキシコのサパティスタ運動とメディア――覆面、ラジオ、インターネット
第10回　まとめと中間試験
第11回　現代日本のマスメディア(１)テレビ、ラジオ、新聞
第12回　現代日本のマスメディア(２)インターネット
第13回　日本の社会運動
第14回　日本のオルタナティブメディア(１)自主制作ビデオ
第15回　日本のオルタナティブメディア(２)ブログ・ジャーナリズム
第16回　後期ガイダンス――非営利セクターとは何か
第17回　アメリカの非営利セクターの特徴――ボランティア精神の伝統
第18回　アメリカの「コミュニティTV」
第19回　日本の非営利セクターの特徴――特定非営利活動法人（NPO）
第20回　日本のコミュニティメディア(１)コミュニティ放送
第21回　日本のコミュニティメディア(２)阪神淡路大震災から生まれた「FMわぃわぃ」
第22回　日本のコミュニティメディア(３)先住民の声を伝える「FMピパウシ」
第23回　まとめと中間試験
第24回　イタリアの非営利セクターの特徴――社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の蓄積
第25回　イタリアの「社会センター」
第26回　北欧・ドイツの非営利セクターの特徴――福祉国家の庇護
第27回　北欧・ドイツの「オープンチャンネル」
第28回　イギリスの非営利セクターの特徴――社会的企業
第29回　イギリスの「海賊ラジオ」から「コミュニティラジオ」まで
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%
【教科書】
松浦さと子・川島隆 コミュニティメディアの未来 晃洋書房
2010年３月刊行予定
【参考文献】
松浦さと子・小山帥人（編）『非営利放送とは何か　市民が創るメディア』
ミネルヴァ書房　　978-４-623-05232-５

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア実習　01＜秋＞	
平　井　尊　士	２単位

【講義概要】
今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。
　そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

【学習目標】
講義および課題の繰り返し学習である。すべての課題が提出できることを目標とする。

【講義計画】
第１回　１．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　　１）マルチメディア概論
第２回　２）各マルチメディアの利用方法
第３回　３）学校における情報環境
第４回　２．ソフトウエアを選択して、メディアの表現や発信
　　１）デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
第５回　２）印刷物の電子化技術
第６回　３）デザイン技法とのかかわり
第７回　３．モデル化とシュミレーション（作品作成）
　　１）モデル化
第８回　２）マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
第９回　４．シュミレーション　（表現方法の工夫・情報の統合）
　　SGML XMLの処理演習と活用事例
第10回　５．マルチメディアと周辺領域の関連１）情報検索およびデータベースとマルチメディア
第11回　２）関連法規、倫理との関連
第12回　６．総合演習１
第13回　７．総合演習２
第14回　８．総合演習３
第15回　９．まとめ

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　85%　出席　15%
計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する。出席点については各授業１回出席について１点。

【参考文献】
常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社　2003．４）

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア実習　02＜秋＞ マルチメディア実習　03＜秋＞	
森　下　舒　弘	２単位

【講義概要】
現在、情報伝達手段の変化には目覚しいものがある。それはビジネス、行政、教育等の場だけでなく、日常生活に大きな影響を及ぼすようになってきている。コンピュータやその周辺の発達は、文字だけでな、画像（静止画）、映像（動画）、音声・音響データ等を処理することが可能になってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ちつつある。その結果私たちは、それらを扱う能力＝メディアリテラシー（メディアの読み取り、書く能力等）が、必要不可欠なものになってきている。

本講義では、基礎理論、情報ネットワーク時代のメディアの特性、そしてメディア統合を理解する。さらに伝達手段としての表現能力（単にメディアコンテンツを作成できるというだけでなく）と、知識・情報を活用した価値ある新しいものを生み出す創造力を、実習で身につけることを目的とする。

【学習目標】
マルチメディア環境を活用した、情報伝達のための表現手段を身につける。

そのために、
●マルチメディアの基礎理論を理解する。
●デジタル情報ネットワーク（マルチメディア）時代の、メディアの特性を理解する。
●メディアリテラシーの考え方を理解する。
●実習により、企画・編集・表現力を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、マルチメディアの定義
第２回　メディア（媒体）とは、情報メディアの歴史①（アナログ）
第３回　情報メディアの歴史②（デジタル、ネットワーク）
第４回　メディアリテラシーとは
第５回　編集企画について、情報検索について
第６回　編集実習Ａ（パワーポイントによる）
第７回　編集実習Ａ―課題制作
第８回　編集実習Ａ―課題制作・課題作品Ａ提出
第９回　表現企画について
第10回　編集・表現実習Ｂ－テーマ設定
第11回　編集・表現実習Ｂ－コンテンツ展開
第12回　編集・表現実習Ｂ－表現企画・制作
第13回　編集・表現実習Ｂ－発表・プレゼン準備、課題作品Ｂ提出
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　15％
◆課題Ａ（提出作品Ａ）＋課題Ｂ（提出作品Ｂ）による評価
（課題Ａ：35％）（課題Ｂ：50％）
◆出席については、各授業１回出席につき１点

【教科書】
特になし
講義資料については、随時プリントにて配布する

【参考文献】
講義時に、適宜提示する

【備考】
【準備学習の指示】
実習（課題制作）を進めていくために
①パソコンの、文章作成ソフト（Word）と、表計算ソフト（Excel）を使えるようにしておくこと。
②編集ソフト（PowerPoint）を使えればさらに良い。

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア文化論　＜秋集＞	
佐　野　明　子	４単位

【講義概要】
私たちは日常生活で多種多様なメディアを目にしている。それらは複数のメディアが合体し、送り手と受け手のコミュニケーションが可能になっているものも少なくない。本講義ではアニメーションを軸に、隣接メディアの特性（映画、美術、CM、マンガ等）、複数のメディアの横断について検討していく。

【学習目標】
①３年次のマルチメディア文化実習に必要な基礎知識の修得。
②多様なマルチメディア文化を総合的に把握していくなかで、自分の視点で分析し、言葉で表現する能力を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　アニメーションと美術
第３回　アニメーションとCM
第４回　アニメーションの文法（１）
第５回　アニメーションの文法（２）
第６回　アニメーションと劇映画（１）
第７回　アニメーションと劇映画（２）
第８回　アニメーションとシュルレアリスム
第９回　実験アニメーション（１）アニメーション３人の会
第10回　実験アニメーション（２）手塚治虫
第11回　実験アニメーション（３）山村浩二
第12回　Multiplanar Image: 日本アニメの運動と空間
第13回　カナダのアニメーション
第14回　中国・韓国のアニメーション
第15回　世界の人形アニメーション（１）
第16回　世界の人形アニメーション（２）
第17回　世界の人形アニメーション（３）
第18回　日本の人形アニメーション
第19回　CGの展開
第20回　中間試験
第21回　映画理論の基礎：フレーム（１）
第22回　映画理論の基礎：フレーム（２）
第23回　映画理論の基礎：フレーム（３）
第24回　映画理論の基礎：モンタージュ（１）
第25回　映画理論の基礎：モンタージュ（２）
第26回　映画理論の基礎：モンタージュ（３）
第27回　映画理論の基礎：モンタージュ（４）
第28回　映画理論の基礎：モンタージュ（５）

【成績評価の方法】
試験　50％　レポート　50％　出席　０％
中間試験と期末レポートから評価する。授業内レポートの優れた考察や質問には加点する。
授業開始20分以降の入退室は認めない（映像上映の妨げになるため）。受講態度が悪い者（私語、携帯等）は退室ないし失格とする。

【参考文献】
『アートアニメーションの素晴しき世界』エスクイアマガジンジャパン　2002
『アニメーションの世界へようこそ』山村浩二　岩波書店　2006
『ユーロ・アニメーション　光と影のディープ・ファンタジー』昼間行雄他編　フィルムアート社　2002
『The Anime Machine: A Media Theory of Animaton』Thomas Lamarre　Univ. of Minnesota Pr.　2009
『Understanding Animation』Paul Wells　Routledge　2010
『シネマ１　運動イメージ』ジル・ドゥルーズ　法政大学出版局　2008

【備考】
図書館AVルーム・視聴覚事務室に所蔵するDVD、無料の動画サイト「openArt」「Gyao」などを利用して、日頃から映像文化にふれてください。
また、映画祭、美術展などイベントの参加を推奨します。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア論　01＜春＞ マルチメディア論　02＜春＞	
森　下　舒　弘	2単位

【講義概要】
現在の情報伝達の方法は多様である。この多様化の傾向はさらに進んでいくと考えられる。新聞、雑誌等の印刷媒体。テレビ、ラジオ等の電波媒体。そしてインターネットに代表される電子・デジタル媒体は、ネットワークメディアとしてさらに機能が拡大している。それらを通じて提供される情報は、人間生活において、必要不可欠な要素となっている。生活、ビジネス、教育、行政等の場において。また現代は、コンピュータの発達・変化だけでなく、メディアコンテンツがネットワーク上で融合するメディアコンテンツ融合の時代（マルチメディア時代）とも言われている。一方、多大な有効性を発揮するマルチメディアの「光の部分」に対して、「影の部分」が大きな社会問題になっている。

本講義では、情報メディアの基礎理論、歴史、そしてメディアリテラシー等を学習することにより、ユビキタス社会での知識・情報の活用方法、新しいものを生み出す創造力を身につける事を目的とする。

【学習目標】
●「マルチメディア」についての基礎理論を理解する。
●人間とメディア（媒体）との関わりの意義を理解する。
●原始時代から今日までの、情報メディアの進展を理解し、現在のデジタル・ネットワーク時代（マルチメディア時代）の、歴史の中における位置づけを理解する。
●「メディアリテラシー」を十分理解する事により、今日（マルチメディア時代）における、生活の中でのメディアとの対応力を身につける。
●ユビキタス社会での情報の活用を基に、新しい価値観を生み出さす創造力を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、マルチメディアの定義
第２回　メディア（媒体）とは
第３回　情報メディアの歴史①（メディアの発生）
第４回　情報メディアの歴史②（アナログメディア）
第５回　情報メディアの歴史③（デジタルメディア）
第６回　ネットワークメディアの現状
第７回　ユビキタス社会とは
第８回　ネットワーク社会
第９回　メディアリテラシーとは
第10回　マルチメディアと行政・産業
第11回　マルチメディアと教育・生活
第12回　マルチメディアの光と影
第13回　マルチメディアの倫理・関連法規
第14回　マルチメディアの将来像、まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
中間レポートと定期試験にて評価する。
出席点は、各授業１回出席につき１点

【教科書】
特になし。
講義資料は適時プリントにて配布する。

【参考文献】
第１回講義時および適時提示する。

【備考】
【準備学習の指示】
①日々進展し多様化する「メディア」に関心を持つようにする。
②マルチメディアの「光と影」を自分なりに考えてみる。

そのためには毎日の新聞記事（ネット上の新聞情報でも良い）を読むこと。テレビやラジオではなく、文字で表現されている媒体を活用すること。

※毎回の講義では、新聞に掲載された記事を中心に「メディア関連情報」を紹介するが、メディアに対する受容能力（リテラシー）の養成を目的にしている。

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア論　03＜秋＞	
平　井　尊　士	2単位

【講義概要】
今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。そこで本講義においては、メディアとソフトウエア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

【学習目標】
講義および課題の繰り返し学習である。すべての課題が提出できることを目標とする。

【講義計画】
第１回　１．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　　１）マルチメディアの現在
第２回　２）各マルチメディアとインターネット
第３回　２．ソフトウエアとメディア
第４回　３．表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
　　１）電子化技術の追求
第５回　２）メディアとしての仮想現実空間
第６回　３）メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
第７回　４）図形表現とその演習
第８回　５）画像表現とその演習
第９回　４．環境とメディア
　　１）メディアと環境
第10回　２）メディアと歴史
第11回　３）メディアと倫理（ことばの暴力）
第12回　４）関連法規との関連
第13回　５．まとめ：マルチメディアの意義（演習１）
第14回　６．まとめ：マルチメディアの意義（演習２）
第15回　７．まとめ：マルチメディアの意義

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　85%　出席　15%
出席点は１回１点（MAX15点）とする。明示したようにレポート（課題）提出に重点を置く。

【参考文献】
常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社　2003．４）

ま行

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア文化実習　＜春集＞	
佐　野　明　子	４単位

【講義概要】
半立体アニメーション作品を制作し、発信するための知識と技術を学ぶ。
①講義において理論的・歴史的知識をふまえ、②実習において技術的知識を習得しながら、４～５人のグループで５分程度の作品を完成させ、発信する。
コンピューターや美術が不得手でも取り組みやすい手法を用いる。
実習費1000円の予定（撮影素材の購入のため）。

【学習目標】
ビデオカメラとPC（Adobe Premiere Elements)によるアニメーション制作の基礎を習得する。身近な素材（白板、紙、粘土、写真、文具など）を用いて、自分が伝えたいこと、表現したいことを視覚化し、映像をコミュニケーションのツールとして活用することを目指す。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、講義
第２回　テスト撮影
第３回　半立体アニメーション①講義
第４回　半立体アニメーション②企画、絵コンテ【課題提出】
第５回　半立体アニメーション③講義
第６回　半立体アニメーション④撮影１
第７回　半立体アニメーション⑤撮影２
第８回　半立体アニメーション⑥撮影３【中間提出１】
第９回　半立体アニメーション⑦撮影４
第10回　半立体アニメーション⑧撮影５
第11回　半立体アニメーション⑨音入れ
第12回　半立体アニメーション⑩文字入れ【中間提出２】
第13回　半立体アニメーション⑪効果
第14回　半立体アニメーション⑫仕上げ【最終提出】
第15回　合評会
第16回　自由課題①講義
第17回　自由課題②企画
第18回　自由課題③絵コンテ【課題提出】
第19回　自由課題④講義
第20回　自由課題⑤撮影１
第21回　自由課題⑥撮影２
第22回　自由課題⑦撮影３【中間提出】
第23回　自由課題⑧撮影４
第24回　自由課題⑨撮影５
第25回　自由課題⑩音入れ、文字入れ
第26回　自由課題⑪効果、仕上げ【最終提出】
第27回　合評会１
第28回　合評会２

【成績評価の方法】
出席、受講態度、提出課題によって総合的に評価する。

【参考文献】
講義内で適宜紹介する。

【備考】
無料の動画サイト「openArt」、図書館AVルーム・視聴覚事務室のDVDなどを利用して、日頃から短編映像にふれてください。
また、映画祭、美術展などイベントの参加を推奨します。
・08生対象

科目名　クラス　講義区分	
ミクロ経済学　01＜通期＞	
浦　出　俊　和	４単位

【講義概要】
需要と供給、消費者行動と生産者行動、完全競争市場と不完全競争市場、不確実性とリスク、情報の非対称性など、ミクロ経済学の基礎理論について講義する。
ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では、数式の使用は簡単なものにとどめ、主に図を用いて説明する。ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。

【学習目標】
①家計（消費者）・企業（生産者）といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか
②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか
③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるか
といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　ミクロ経済学の考え方
第３回　需要と供給(１)
第４回　需要と供給(２)
第５回　需要と供給(３)
第６回　需要と供給（まとめと演習）
第７回　消費者行動と需要曲線(１)
第８回　消費者行動と需要曲線(２)
第９回　消費者行動と需要曲線(３)
第10回　消費者行動と需要曲線(４)
第11回　消費者行動と需要曲線(５)
第12回　消費者行動と需要曲線（まとめと演習）
第13回　生産者行動と供給曲線(１)
第14回　生産者行動と供給曲線(２)
第15回　生産者行動と供給曲線(３)
第16回　生産者行動と供給曲線(４)
第17回　生産者行動と供給曲線(５)
第18回　生産者行動と供給曲線（まとめと演習）
第19回　市場均衡と経済厚生(１)
第20回　市場均衡と経済厚生(２)
第21回　市場均衡と経済厚生（まとめと演習）
第22回　独占の理論(１)
第23回　独占の理論(２)
第24回　派生需要と生産要素市場
第25回　独占の理論・派生需要と生産要素市場（まとめと演習）
第26回　不確実性と情報(１)
第27回　不確実性と情報(２)
第28回　不確実性と情報（まとめと演習）
第29回　試験・まとめ
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　100%
前期末に中間試験を行う。中間試験と学年度末の期末試験と合わせて成績評価する。詳しくは、第１回目の講義の際に説明する。

【参考文献】
神戸・寳多・濱田『ミクロ経済学をつかむ』(有斐閣)
井堀利宏『入門　ミクロ経済学（第２版)』(新世社)
荒井一博『ファンダメンタル　ミクロ経済学（第２版)』(中央経済社)
石川秀樹『経済学入門塾Ⅱ　ミクロ編』(中央経済社)

【備考】
講義概要や講義資料は下記を参照のこと。
http://rio.andrew.ac.jp/~urade/micro-index.html
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ミクロ経済学　02＜通期＞	
田　中　　悟	4単位

【講義概要】
ミクロ経済学の基礎的な理論の概説を通じて、家計・企業・政府といった経済主体の意思決定や市場メカニズムの機能に関する経済理論について学び、こうした理論が現実にどのように応用できるかについて考える。講義は単に理論の概説だけでなく、身の回りの様々な経済現象が経済理論によっていかにとらえられるかという点を意識しながら進められる。

【学習目標】
本講義ではミクロ経済理論の初級から中級程度の理論について講述する。講義で扱われるミクロ経済理論の習得を通じて、様々な経済現象に対する「経済学的な見方」を養うことが、本講義の目的となる。

【講義計画】
第１回　Introduction(ミクロ経済学の対象と課題)
第２回　市場メカニズムとは何か(需要・供給概念)
第３回　〃　(市場メカニズムの帰結)
第４回　〃　(弾力性の概念)
第５回　〃　(市場メカニズムと政府の政策)
第６回　市場メカニズムの意義(余剰概念)
第７回　〃　(市場の効率性)
第８回　〃　(応用①：課税の効果)
第９回　〃　(応用②：国際貿易と貿易政策)
第10回　〃　(まとめ：市場メカニズムの意義と限界)
第11回　公共経済学の基礎(外部性の効果)
第12回　〃　(外部性に対する公共政策)
第13回　〃　(公共財供給と公共政策)
第14回　〃　(税制の設計)
第15回　中間試験
第16回　市場構造と企業行動(様々な費用概念)
第17回　〃　(競争市場における企業行動)
第18回　〃　(独占企業の行動とその帰結)
第19回　〃　(ゲームの理論)
第20回　〃　(寡占市場における競争と協調)
第21回　〃　(独占的競争の理論)
第22回　労働市場の経済学(労働需要と労働供給)
第23回　〃　(均衡賃金の決定要素)
第24回　〃　(労働市場と所得の分配)
第25回　情報の経済学(不確実性下の意思決定)
第26回　〃　(モラル・ハザードの問題)
第27回　〃　(レモン市場の問題)
第28回　〃　(シグナリングとスクリーニング)
第29回　定期試験

【成績評価の方法】
授業中に課す数回の宿題ないしは小テスト(30%)と定期試験(中間試験を含む：70%)の結果を総合評価する。

【教科書】
特に指定しないが、授業と並行して下記参考文献を読むことが望ましい。なお、参考文献については授業中に適宜指示する。

【参考文献】

1．マンキュー著・足立/小川/中馬/石川/地主/柳川訳(2005)『マンキュー経済学(1)ミクロ編』(東洋経済新報社)
2．伊藤元重(2003)『ミクロ経済学(第２版)』(日本評論社)
3．クルーグマン／ウェルス著・大山/石橋/塩澤/白井/大東/玉田/蓬田訳(2007)『クルーグマン　ミクロ経済学』(東洋経済新報社)
4．ヴァリアン著・佐藤訳(2007)『入門ミクロ経済学』(勁草書房)
5．スティグリッツ著・藪下/秋山/金子/木立/清野訳(2006)『入門経済学』『ミクロ経済学』(東洋経済新報社)

【備考】
【準備学習の指示】日頃から新聞の経済欄に目を通す習慣をつけておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ミクロ経済学　03＜秋集＞	
矢　根　眞　二	4単位

【講義概要】
テーマは『ビジネス・エコノミクス』で，標準的なミクロ経済学の教科書の内容を順に学習するのではなく，企業戦略やビジネス活動に多用される基本モデルを重点的に学習します。指定教科書にあるような日本企業と経済の動向を題材に，それを単純な数式やグラフで説明しようとする基本的なミクロモデルの使い方を学習します。

【学習目標】
1．　自分で指定教科書を事前に読む習慣を身につけることで企業や経済への興味と理解を深め，「日本経済新聞」等のリアルタイムのビジネスと経済動向への感度も高めましょう
2．　複雑で多様な現実を単純で少数の基本モデルで理解するという抽象度の高い論理力である「モデル思考」を少しでも修得しましょう

【講義計画】
第１回　＜履修選択情報：講義内容・学習方法・成績評価の特徴と注意点＞
　ビジネスをミクロ経済学で捉える本講義の内容は，伝統的な市場と価格に関する「Part A」と，近年のゲームと情報に関連する「Part B」に大別できます。初回は，全体を通じての学習内容・方法の特徴および成績評価の原則等の履修選択に関する基本情報を説明します。
第２回　Part A ビジネス エコノミクス：Classic 編（市場と価格）
第３回　1a ビジネスエコノミクスとは？（ビジネスと経済学）
第４回　1b 入門経済学の基礎？（インセンティブと費用概念）
第５回　1c 入門経済学の常識？（競争市場の需要供給分析）
第６回　1d 入門経済学の難関？（経済主体の費用便益の限界分析）
第７回　AQ Part A 前半部分の復習 Quiz AQ
第８回　2a 薄利多売か高マージンか？（価格弾力性と独占価格）
第９回　2b 巧妙な一物多価で更に儲ける？（価格差別と二部料金制）
第10回　3a 専売制とテリトリー制？（ブランドと選択的チャネル戦略）
第11回　3b 小売価格のコントロール？（製販統合と二重マージンの解消）
第12回　4a 競争市場の効能？（社会的インフラとしての競争市場）
第13回　4b 競争市場と企業組織？（企業の境界と組織構造）
第14回　AE Part A 全体の総括 Exam AE
第15回　Part B ビジネスと戦略？：Modern 編　（ゲームと情報）
第16回　5a 非対称情報とビジネス？（モラルハザードと逆選択）
第17回　5b ギャンブル とビジネス？（リスク回避と保険ビジネス）
第18回　6a ゲーム的状況と囚人のジレンマ？（非協力ゲーム入門）
第19回　6b 同時ゲームとビジネス？（完備情報下の静学ゲーム）
第20回　6c 交互ゲームとビジネス？（完全情報下の動学ゲーム）
第21回　6d オークションと繰り返しゲーム？（同時･交互ゲームの現実）
第22回　BQ Part B 前半部分の復習 Quiz BQ
第23回　7a 企業･業界分析のメガネ？（ポーターの競争戦略論入門）
第24回　8a デジタル革命とビジネスチャンス？（代替と補完）
第25回　9a グローバル化するビジネス？（通商政策と為替リスク）
第26回　10a ビジネス環境の変化？（経済の変化とビジネスの今後）
第27回　BE Part B 全体の総括 Exam BE
第28回　講義総括（合理的選択モデルからみた講義・学習の評価）

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　0%　出席　10%
●成績評価のベース
1．45点満点の２回の授業時のAEとBEの合計得点（90点）
2．Quizのアンケート記入および出席Checkへの全回参加者（10点）
3．その他の加減項目（授業中の有益な質問，私語・途中入退室

ま行

等)
●合格基準：60点，ただしいずれかのExamを受験しない場合は「X」評価

【教科書】
伊藤元重 ビジネス・エコノミクス 日本経済新聞社
必ず事前に講義の対応部分を自分で読んで授業に出席する習慣を身につけましょう

【参考文献】
講義内容や資料の詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい
http://rio.andrew.ac.jp/~yane/class/micr/index.html

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
民事再生法会社更生法　＜春＞	
高　田　賢　治	２単位

【講義概要】
民事再生法と会社更生法は，再建型の倒産処理手続です。この講義では，民事再生法と会社更生法について，清算型の倒産処理手続である破産法と比較しながら，共通点や相違点を検討します。

【学習目標】
破産と比較して，民事再生や会社更生はどのような手続としての特徴を備えているのかを体系的に理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　倒産処理制度の概要と倒産処理手続の種類
第２回　私的整理と倒産ADR
第３回　民事再生手続の沿革・意義
第４回　民事再生手続の申立て・保全処分
第５回　民事再生手続の開始決定
第６回　再生手続の機関
第７回　再生債権の届出・調査・確定，その他の債権
第８回　再生債務者財産の調査と確保
第９回　再生計画と履行の確保
第10回　消費者の民事再生
第11回　小規模個人再生・給与所得者等再生・住宅資金貸付債権に関する特則
第12回　会社更生手続の概要と特徴
第13回　更生債権その他の権利と更生計画
第14回　金融機関の破綻処理
第15回　試験

【成績評価の方法】
レポート　100%

【教科書】
山本和彦 倒産処理法入門 有斐閣

【参考文献】
山本和彦ほか・倒産法概説（弘文堂・2006）

【備考】
【準備学習の指示】
テキストの該当箇所を読み，できれば民事再生法や会社更生法の条文を見ておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
民事執行法　＜秋＞	
本　間　法　之	2単位

【講義概要】
民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることになります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。

【学習目標】
終局的な権利実現の手続である民事執行手続の基礎知識を習得し、民法・会社法→民事訴訟法→民事執行法と続く民事法の全体像を理解する。

【講義計画】
第１回　民事執行法の学び方
　　民事執行法の位置づけ
第２回　民事執行制度の意義と基本構造
第３回　執行機関と執行法上の不服申立て
第４回　不動産執行（１）差押え
第５回　不動産執行（２）売却の準備
第６回　不動産執行（３）買受人の法的地位
第７回　不動産執行（４）引渡命令
第８回　不動産執行（５）執行競合・配当要求
第９回　動産執行（１）差押え・換価
第10回　動産執行（２）換価･配当
第11回　債権執行（１）差押え
第12回　債権執行（２）換価･配当
第13回　不当執行・違法執行に対する救済（第三者異議・請求異議）
第14回　非金銭執行（１）引渡・明渡執行
第15回　非金銭執行（２）代替執行，間接強制，意思表示義務

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　60％　出席　40％
定期試験期間中の試験は行なわず、下記の①及び②に基づいて総合的に評価します。
①受講態度（出席状況、予習・復習状況など）（40％）
②試験に代わるレポート（60％）

【参考文献】
講義中に適宜紹介します。

【備考】
【準備学習の指示】
講義ではレジュメを配布します。毎回、講義の最初に10分程度、前回の講義の復習をかねた簡単なテストを実施しますので、受講生は、配布されたレジュメを熟読して講義に臨むことが必要です。予習も大切ですが、手続法の学習には、とくに復習が効果的です。

科目名　クラス　講義区分	
民事訴訟法　＜春集＞	
本　間　法　之	4単位

【講義概要】
民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と、民法・会社法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は必要不可欠であり、権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって初めて権利の何たるかが理解できるといっても過言ではありません。法律学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものです。

【学習目標】
民事手続法の基礎法である民事訴訟法の学習を通じて、手続的思考の基礎を習得し、バランスのとれた問題解決能力を育成する。

【講義計画】
第１回　民事紛争と民事訴訟：法的三段論法：民事訴訟の構造
第２回　民事裁判と裁判を受ける権利（手続保障）：裁判権の限界、訴訟と非訟
第３回　現代社会における民事訴訟の課題
第４回　訴訟の開始：訴えの提起
第５回　訴訟要件
第６回　審判の対象（その１）
第７回　審判の対象（その２）
第８回　受訴裁判所
第９回　訴訟当事者（その１）
第10回　訴訟当事者（その２）
第11回　訴訟当事者（その３）
第12回　訴訟審理の基本構造（その１）
第13回　訴訟審理の基本構造（その２）
第14回　訴訟審理の基本構造（その３）
第15回　訴訟審理の過程（その１）
第16回　訴訟審理の過程（その２）
第17回　訴訟審理の過程（その３）
第18回　訴訟審理の過程（その４）
第19回　証拠（その１）
第20回　証拠（その２）
第21回　証拠（その３）
第22回　証明責任
第23回　証拠調べの手続
第24回　訴訟の終了
第25回　既判力（その１）
第26回　既判力（その２）
第27回　執行力と形成力
第28回　複雑な訴訟（その１）
第29回　複雑な訴訟（その２）
第30回　裁判に対する不服申し立て：上訴・再審

【成績評価の方法】
試験　60％　レポート　０％　出席　40％
定期試験期間中の試験は行なわず、下記の①及び②に基づいて総合的に評価をします。
①出席状況、予習・復習の状況などの平素の受講態度（40％）
②授業中に適宜実施する論述試験（最低３回程度の実施を予定）（60％）

【参考文献】
講義に際して適宜紹介します。

【備考】
【準備学習の指示】
講義ではレジュメを配布します。毎回、講義の最初に10分程度、前回の講義の復習をかねた簡単なテストを実施しますので、受講生は、配布されたレジュメを熟読して講義に臨むことが必要です。予習も大切ですが、手続法の学習には、とくに復習が効果的です。

科目名　クラス　講義区分	
民俗学　＜通期＞	
大　野　　啓	4単位

【講義概要】
本講義では民俗学の基礎となる学史の展開、基本的な考え方について講義していく。

【学習目標】
民俗学の基礎的な知識を習得すること

【講義計画】
第１回　ガイダンス-民俗学と民族学
第２回　民俗学は何をする学問なのか
第３回　民俗学の成り立ち
第４回　近代的な「知」としての民俗学
第５回　民俗学成立以前
第６回　柳田国男と民俗学①
第７回　柳田国男と民俗学②
第８回　集圏論と歴史
第９回　「郷土」で学問することと、「郷土」を学問すること
第10回　日本文化論としての民俗学
第11回　「民俗」を対象としなければならないのか
第12回　民俗学が対象としてきたものとできなかったもの
第13回　「民俗」を描き出すこと
第14回　民俗調査について
第15回　小括
第16回　農耕儀礼と年中行事①
第17回　農耕儀礼と年中行事②
第18回　農耕儀礼と年中行事③
第19回　農耕儀礼と年中行事④
第20回　人の一生と儀礼①
第21回　人の一生と儀礼②
第22回　人の一生と儀礼③
第23回　家族・家・村落①
第24回　家族・家・村落②
第25回　家族・家・村落③
第26回　家族・家・村落④
第27回　祭礼と民俗①
第28回　祭礼と民俗②
第29回　祭礼と民俗③
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
夏休み前に課題を出し、レポートの提出をしてもらいます。

【参考文献】
講義中に指示する

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅰ（総則）　＜秋集＞	
佐　藤　啓　子	4単位

【講義概要】
民法の基本的な知識を履修し、民法入門・法学入門で学んだ民法の学び方についてのガイダンスを引き続き行う。
民法第１編「総則」を学ぶ。
初回から教科書と六法を持参すること。

なお、講義の進行には若干の前後や入れ替えなどがあるかもしれないことを留保しておく。特に、小テストを予告なしに行うために、時間調整をすることがある。

【学習目標】
以下の点の習得を目標とする。
　民法ないし財産法の基礎的な概念や基本構造。
　民法第一編「総則」についての知識。
　いわゆる大学レベルの問題に対する初歩的な対応。
　条文を読み使うことのできる『慣れ』。
　法律的な答案の書き方の習得。

【講義計画】
第１回　民法Ⅰ（総則）の導入、民法の意義・民法の学び方
第２回　民法(典)・法源
第３回　民法の適用範囲・基本原理・解釈
第４回　権利主体・序説
第５回　権利能力・意思能力・行為能力
第６回　制限行為能力
第７回　自然人に対する特別な配慮
第８回　法人の意義・種類
第９回　法人の設立・定款変更・法人の能力
第10回　法人の機関・消滅・監督・外国法人
第11回　権利能力なき社団・財団／物の種類
第12回　物の帰属／法律行為・序説
第13回　法律行為の解釈・効力と強行法規
第14回　法律行為と慣習、公序良俗、心裡留保
第15回　虚偽表示
第16回　錯誤
第17回　詐欺・強迫、消費者契約
第18回　意思表示の効力発生時期
第19回　代理人
第20回　代理権の範囲・代理行為、無権代理
第21回　表見代理
第22回　「要約」欄と「演習」欄の使い方と問題の解答の書き方
第23回　無効
第24回　取消し／条件・期限
第25回　期間／時効・序説
第26回　時効の要件・効果、取得時効しうる権利
第27回　占有、消滅時効
第28回　全体のまとめと質疑応答

【成績評価の方法】
試験　81%　出席　19%
定期試験68%、小テスト13%、出席19%とする。
(実際には定期試験100点、小テスト20点、出席28点として計算している)
ただし、試験の点数や出席状況が顕著に悪い者は不可とする。

【教科書】
野村　豊弘 民法Ⅰ 有斐閣
中田裕康ほか編 民法判例百選Ⅰ［第６版］有斐閣

【備考】
準備学習の指示：次回の授業範囲の教科書に眼を通して、漢字を確認してほしい。また、毎回の授業で出てきた条文は、次に出てきたときに必ずわかるように、チェックしてほしい。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅱ（物権）　＜春集＞	
佐　藤　啓　子	４単位

【講義概要】
民法の内、所有権など基本的な概念を含む第２編「物権」を学ぶ。
また、民法の学び方についてのガイダンスを引き続き行う。
初回から教科書と六法を持参すること。

なお、講義の進行には若干の前後や入れ替えなどがあるかもしれないことを留保しておく。特に、小テストを予告なしに行うために、時間調整をすることがある。

【学習目標】
以下の点の習得を目標とする。
　民法第２編「物権」を中心とする物権法の基礎的な概念や基本構造。
　いわゆる大学レベルの問題に対する初歩的な対応。
　条文を読み使うことのできる『慣れ』。
　法学特有の論理の展開を自分で追っていけるだけの、法律的論理力。

【講義計画】
第１回　民法Ⅱの導入、物権法そのものの導入、序論
第２回　物権法定主義、物権的請求権とは
第３回　物権的請求権の内容、意思主義と形式主義
第４回　物権変動論、公示としての登記
第５回　登記の有効性、二重譲渡と対抗関係
第６回　その他の対抗関係、第三者
第７回　177条の第三者、即時取得
第８回　占有権とは
第９回　占有訴権、所有権とは
第10回　所有権の取得
第11回　地上権、永小作権
第12回　地役権、入会権
第13回　担保物権序論、留置権とは
第14回　留置権の性質、先取特権とは
第15回　先取特権の種類と性質
第16回　質権とは
第17回　質権の効力
第18回　抵当権とは
第19回　抵当権の効力
第20回　抵当権の優先弁済権について
第21回　抵当権と第三取得者
第22回　転抵当
第23回　抵当権の譲渡・放棄
第24回　根抵当権
第25回　非典型担保とは
第26回　譲渡担保・買戻し
第27回　再売買予約
第28回　全体のまとめと質疑応答①
第29回　全体のまとめと質疑応答②
第30回　全体のまとめと質疑応答③

【成績評価の方法】
試験　81%　出席　19%
試験の配当には小テストを含む

【教科書】
野村　豊弘 民法Ⅱ 有斐閣
中田裕康ほか編 民法判例百選Ⅰ［第６版］有斐閣

【備考】
準備学習の指示：次回の授業範囲の教科書に眼を通して、漢字を確認してほしい。また、毎回の授業で出てきた条文は、次に出てきたときに必ずわかるように、チェックしてほしい。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅲ（債権総論）　＜春集＞	
田　中　志津子	４単位

【講義概要】
　「権利」とは多様な概念である。ここでは、人の物に対する権利である「物権」と人の人に対する権利である「債権」との相違、その債権の効力を扱う。
　「約束」をするとどのような「権利」が生じ「義務」が生ずるのか、「約束」を破るとどのような「責任」が生ずるのか等を学ぶ。

【学習目標】
　債権総論では、特に「具体的な私人間の法律関係」を想像する力が重要である。
　教科書・判例等で挙げられている問題・事例を「自分の言葉で具体的に例を挙げて他人に説明できる」ようにする。

【講義計画】
第１回　受講時の注意、民法における債権総論の位置付け、債権の意義
第２回　債権の意義・法的性質、債権の目的、債権の種類（１）
第３回　債権の種類（２）
第４回　債権の効力（序説）、現実履行の強制
第５回　債務不履行（１）　履行遅滞
第６回　債務不履行（２）　履行不能
第７回　債務不履行（３）　不完全履行
第８回　債務不履行（４）　損害賠償の範囲①
第９回　債務不履行（５）　損害賠償の範囲②
第10回　債権者代位権（１）
第11回　債権者代位権（２）
第12回　債権者代位権（３）　債権者代位権の転用
第13回　詐害行為取消権（１）
第14回　詐害行為取消権（２）
第15回　第三者による債権侵害
第16回　多数当事者の債権債務関係（１）　可分債務・不可分債務
第17回　多数当事者の債権債務関係（２）　連帯債務①
第18回　多数当事者の債権債務関係（３）　連帯債務②
第19回　多数当事者の債権債務関係（４）　連帯債務③
第20回　多数当事者の債権債務関係（５）　保証債務①
第21回　多数当事者の債権債務関係（６）　保証債務②
第22回　債権譲渡（１）
第23回　債権譲渡（２）
第24回　債権譲渡（３）
第25回　債務引受
第26回　債権の消滅（１）　弁済・代物弁済
第27回　債権の消滅（２）　供託、相殺
第28回　債権の消滅（３）　更改、免除、混同
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　０%　出席　20%
　期末試験を約80%とし、適宜小テストも行う。小テストの点数は出席点（約20%）として考慮する。

【教科書】
野村 豊弘，池田 真朗，栗田 哲男，永田 真三郎 民法（３）債権総論 有斐閣Sシリーズ 有斐閣
　基本的にこの本をテキストとして授業を進めるが、この本「だけ」ではなく、他の「基本書」と呼ばれる本を読むことを勧める。各自気に入った「基本書」があれば、それを使用してもよい。
　詳細は授業開始時に説明する。

【参考文献】
*以下のものを全部購入せよというのではない。詳細は講義開始時に説明するが、購入の要否は各自判断すること。

・「民法判例集　担保物権・債権総論（第２版）」瀬川 信久・森田 宏樹・内田 貴著、ISBN:978-4641133501
・民法判例百選Ⅱ（第６版）、別冊ジュリスト196、中田 裕康 ・潮見 佳男・道垣内 弘人編、有斐閣、ISBN：978-4641114968

【備考】
　授業計画は変更することがある。

ま行

【準備学習の指示】
授業開始前までに、テキスト（指定したものに限らない）の該当箇所を最低２回は読んでおくこと。
その際わからない用語等があった場合には、各自調べておくこと。

★本授業ではレジュメを配布するが、レジュメはあくまでも理解するための補助ツールである。配布レジュメに書き込んだだけで満足する者もいるようだが、それでは自分が「理解しやすいノート」にはならない。
各自が「自分だけのノート」を作ることが必要である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅳ（債権各論）　＜秋集＞	
田　中　志津子	４単位

【講義概要】
日常生活の中で、実は一番身近な「民法」である「契約」を中心に取り扱う（コンビニで「弁当を買う」という法律関係など）。
また、交通事故に遭った場合に被害者が加害者に治療費を請求できるという、契約関係がないにもかかわらず認められる法的関係等も扱う。

【学習目標】
私人間の法律関係では、本来何か「問題」が生じなければ、法律（ここでは民法）の出番はない（はず）である。
その「問題」を生じさせないために、また、生じてしまった問題を解決するために、必要な方策を学ぶ。具体的には、ある「問題」解決のために債権各論の中のいずれの「ツール」を使えばよいのかを判断し、「問題」を解決できるようにする。

【講義計画】
第１回　受講時の注意、民法における債権各論の位置付け、契約の成立（１）
第２回　契約の成立（２）
第３回　双務契約の牽連関係（１）　同時履行の抗弁権、危険負担①
第４回　双務契約の牽連関係（２）　危険負担②
第５回　双務契約の牽連関係（３）　危険負担③
第６回　双務契約の牽連関係（４）　解除権①
第７回　双務契約の牽連関係（５）　解除権②
第８回　贈与契約、交換契約
第９回　売買契約（１）
第10回　売買契約（２）
第11回　売買契約（３）
第12回　使用貸借契約、消費貸借契約
第13回　賃貸借契約（１）
第14回　賃貸借契約（２）
第15回　賃貸借契約（３）
第16回　賃貸借契約（４）　借地借家法
第17回　雇用契約
第18回　請負契約（１）
第19回　請負契約（２）
第20回　委任契約
第21回　組合契約、終身定期金契約、和解契約
第22回　事務管理・準事務管理
第23回　不当利得（１）
第24回　不当利得（２）
第25回　不法行為（１）
第26回　不法行為（２）
第27回　不法行為（３）
第28回　不法行為（４）
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　０％　出席　20％
期末試験を約80％とし、適宜小テストも行う。小テストの点数は出席点（約20％）として考慮する。

【教科書】
藤岡　康宏，磯村　保，浦川　道太郎，松本　恒雄　民法Ⅳ　債権各論　第３版補訂版　有斐閣Sシリーズ 有斐閣
基本的にこの本をテキストとして授業を進めるが、この本「だけ」ではなく、他の「基本書」と呼ばれる本を読むことを勧める。各自気に入った「基本書」があれば、それを使用してもよい。
詳細は授業開始時に説明する。

【参考文献】
*以下のものを全部購入せよというのではない。詳細は講義開始時に説明するが、購入の要否は各自判断すること。

・「民法判例集債権各論 第３版」瀬川 信久・内田 貴著、有斐閣、ISBN: 978-4641134959
・民法判例百選Ⅱ（第６版）、別冊ジュリスト196、中田 裕康 ・潮見 佳男・道垣内 弘人編、有斐閣、ISBN：978-4641114968

【備考】
授業計画は変更することがある。

【準備学習の指示】
授業開始前までに、テキスト（指定したものに限らない）の該当箇所を最低２回は読んでおくこと。
その際わからない用語等があった場合には、各自調べておくこと。

★本授業ではレジュメを配布するが、レジュメはあくまでも理解するための補助ツールである。配布レジュメに書き込んだだけで満足する者もいるようだが、それでは自分が「理解しやすいノート」にはならない。
各自が「自分だけのノート」を作ることが必要である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅴ（親族・相続）　＜秋集＞	
永　水　裕　子	４単位

【講義概要】
この講義では、家族関係をめぐる紛争が生じた場合に、解決の基準となる民法第４編「親族」、第５編「相続」および関連諸法（家事審判法等）を取り上げる。これら諸法のしくみを把握するだけでなく、生殖補助医療（死後受精や代理懐胎）により出生した子の法的地位やいわゆる300日問題等の現代的問題をも取り扱うことで、家族と社会と法とのかかわりを理解してもらうよう努める。また、判例紹介を常に行うことにより、裁判における条文解釈の展開を学ぶ。

【学習目標】
この講義では、皆さんの基本的な身分関係（親子関係や夫婦関係等）に関する制度、家族関係をめぐる紛争が起きた場合に、どのような法解釈をし、解決がなされてきたのかについて勉強していきます。ですので、なぜそのような制度が存在するのか、その制度の理念から考えると、どのような解決を図ることが妥当だろうかということに常に気を配りましょう。自分がその立場にいるならばという視点で勉強し、紛争解決に向けた論理的思考および妥当な解決策を探求するという姿勢を見につけることを学習目標といたします。

【講義計画】
第１回　序説
第２回　家事事件処理の手続
第３回　氏名と戸籍、親族
第４回　婚姻１（婚姻の成立及び無効･取消し）
第５回　婚姻２（婚姻の一般的効力）
第６回　婚姻３（夫婦財産制１）
第７回　婚姻４（夫婦財産制２）、婚姻の解消
第８回　裁判離婚１（770条１項１号から４号）
第９回　裁判離婚２（770条１項５号）
第10回　婚姻解消の効果１（財産分与）
第11回　婚姻解消の効果２（子の監護と親権）
第12回　婚姻外の関係（内縁等）
第13回　親子１（嫡出推定制度）
第14回　親子２（認知制度）
第15回　親子３（生殖補助医療をめぐる問題）
第16回　親子４（養子法の沿革、養子縁組の成立）
第17回　親子５（養子縁組の無効･取消し、離縁）
第18回　親子６（特別養子縁組）
第19回　親権１
第20回　親権２、後見･保佐･補助
第21回　相続法の基礎
第22回　相続人と相続分
第23回　相続の効力１（相続の一般的効果）
第24回　相続の効力２（遺産の共有）
第25回　相続の効力３（遺産分割）
第26回　相続の承認･放棄
第27回　遺言
第28回　遺留分
第29回　まとめ
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％

【教科書】
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行 民法７親族･相続（第２版）有斐閣

【参考文献】
久貴忠彦・米倉明・水野紀子編　『家族法判例百選（第７版）』（有斐閣）

【備考】
＜準備学習の指示＞講義の最後に、次の講義で扱う項目を指示するので、当該箇所について教科書を読んで予習してくること。また、講義で扱った項目について、教科書の該当箇所を読んで復習すること。特に、教科書に出てくる問題を解いて知識の定着を図ること。
・02～07生は読替一覧参照

ま行

科目名　クラス　講義区分	
民法Ａ　＜通期＞	
徳　野　　剛	４単位

【講義概要】
民法は、日常生活の中で、一番身近にある。民法の基本的な知識を履修し、民法の内、第一編「総則」を学習する。講義の進行状態により若干の前後や入れ替えなどがあり得ることを留保したい。事例、判例などもとり入れる。

【学習目標】
民法の基礎的概念や基本構造を述べる。民法総則が中心となるが、関連する範囲内で財産法、家族法にも少し触れることもある。

【講義計画】
第１回　民法の意義、学び方
第２回　民法の基本原理、解釈
第３回　権利主体、人、自然人
第４回　能力ー権利能力、意思能力、行為能力
第５回　制限行為能力
第６回　法人の意義、種類
第７回　法人の設立、能力、定款
第８回　法人の機関、消滅、監督
第９回　外国法人、権利能力なき社団、財団
第10回　物ー種類、物の帰属
第11回　法律行為序説
第12回　法律行為の解釈、効力、強行規定
第13回　法律行為と慣習、公序良俗
第14回　心裡留保、虚偽表示
第15回　錯誤
第16回　詐欺、強迫、消費者契約
第17回　意思表示の効力発生時期
第18回　代理ー序説、代理人
第19回　代理権の範囲、代理行為
第20回　無権代理
第21回　表見代理
第22回　無効
第23回　取消
第24回　条件
第25回　期限
第26回　期間、時効序説
第27回　時効の要件、効果
第28回　消滅時効
第29回　民法総則演習（１）
第30回　民法総則演習（２）

【成績評価の方法】
試験　70％　出席　30％
原則として期末の試験によるが、出席なども考慮する。

【教科書】
伊藤 進　編〔改訂版〕ホーンブック 民法Ⅰ 民法総則 北樹出版

【参考文献】
やさしい 民法総則〔第四版〕半田正夫 著　法学書院
ISBN４-587-03069-４

【備考】
講義には、できるだけ多く出席願いたい。その際、六法全書(最新版)持参のこと。

科目名　クラス　講義区分	
民法Ｂ　＜通期＞	
徳　野　　剛	４単位

【講義概要】
物権法・担保物権法を中心に講義を行う。物権の意義、本質を述べ、物権の変動、不動産登記、所有権、用益物権、質権、抵当権等について、事例、判例等をとり入れて説明する。

【学習目標】
民法の内、第二編「物権」を学習する。物権法定主義、物権の体系を把握し、実務上生じている事件、問題について言及する。

【講義計画】
第１回　物権法の意義
第２回　物権の本質、物権と債権
第３回　物権的請求権
第４回　物権の変動
第５回　不動産登記
第６回　動産物権の変動と引渡の役割
第７回　即時取得
第８回　物権の消滅と混同
第９回　占有権
第10回　占有権の取得と効力
第11回　所有権
第12回　物の全面的支配と制限
第13回　相隣関係
第14回　共有
第15回　建物区分所有
第16回　地上権
第17回　地上権と土地賃借権
第18回　地役権
第19回　永小作権、入会権
第20回　留置権
第21回　先取特権
第22回　質権
第23回　抵当権
第24回　抵当権の効力と侵害
第25回　法定地上権
第26回　滌除
第27回　根抵当
第28回　譲渡担保
第29回　仮登記担保
第30回　物権法演習

【成績評価の方法】
試験　70％　出席　30％
原則として期末の試験によるが、出席なども考慮する。

【教科書】
本田 湯川 原田 橋本 共著 物権・担保物権法 法律文化社

【参考文献】
プリメール民法〔αブックス〕物権・担保物権法〔第３版〕松井宏興 鈴木龍也 上谷均 今村与一 中山知己 共著

【備考】
講義には、できるだけ多く出席願いたい。その際、六法全書(最新版)持参のこと。

科目名　クラス　講義区分	
民法入門　＜春＞	
永　水　裕　子	２単位

【講義概要】
民法は私法の一般法であり、一般市民にとって一番身近にある存在です。この講義においては、民法の基本的知識を身につけてもらうことを目的とするため、具体的な事件を例として出しながら、なるべく簡単な言葉で説明をし、民法を学習するというわくわくする体験を味わって頂けるように努力します。民法全体を教科書の順番に沿って講義していきます。

【学習目標】
秋学期から始まる民法の専門科目をスムーズに受けることができるための基礎的知識および基本的な学習態度を身につけることを学習目標といたします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス－民法の特徴と民法学習について
第２回　民法総則１
第３回　民法総則２
第４回　民法総則３
第５回　物権法（１）－総論
第６回　債権法（１）－契約法１
第７回　債権法（１）－契約法２
第８回　債権法（２）－不法行為法１
第９回　債権法（２）－不法行為法２
第10回　債権法（３）－債権総論１
第11回　債権法（３）－債権総論２
第12回　物権法（２）－担保物権
第13回　親族法
第14回　相続法
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　90%　出席　10%

【教科書】
池田真朗 民法への招待〔第三版補訂〕税務経理協会

【備考】
＜準備学習の指示＞講義の最後に、次の講義で扱う項目を指示するので、当該箇所について教科書を読んで予習してくること。また、講義で扱った項目について、教科書の該当箇所を読んで復習すること。
・10J生対象

科目名　クラス　講義区分	
メディア英語　＜通期＞	
沖　野　泰　子	４単位

【講義概要】
様々な媒体を通して行われる大衆への大量的な情報伝達がマス・コミュニケーションであり、その媒体としては新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画などが挙げられる。近年ではここにインターネットを加えるべきであろう。つまりこれらの媒体、メディアにおける英語を学ぶことは、日常生活に使われるあらゆる英語を学ぶことに他ならない。この講義では、映画やニュース、インターネットを使って、教材用に編集されたものではなく、実際に使われている英語を体験する。最終的には英語は情報を得るためのツールなので、このツールを使って、現在世界でどんなことが起こっているのかを考えていきたい。
春学期は複数の映画（Gone with the Wind, Little Women, The Wizard of Oz, To Kill a Mockingbird）を、秋学期はABC Newsを題材にしたテキストを使用する。さらにメディア英語に親しんでもらうために、２週間に一度の課題提出を予定している。

【学習目標】
各人の持つ英語のレベルを一つステップアップする。（特にリーディング、リスニング）。
他国の文化（今回はアメリカ）に接っし、今世界で何が起こっているかを知ることにより、自分を取り巻く世界と自己を考えるきっかけを探る。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業運営および成績評価等について）
第２回　Unit 1　『風と共に去りぬ』Part 1
第３回　Unit 2　Part 2
第４回　Unit 3　Part 3
第５回　Unit 4　Part 4
第６回　Review　小テスト
第７回　Unit 5　『若草物語』Part 1
第８回　Unit 6　Part 2
第９回　Unit 7　Part 3
第10回　Unit 8　Part 4
第11回　Unit 13　『アラバマ物語』Part 1　小テスト
第12回　Unit 14　Part 2
第13回　Unit 15　Part 3
第14回　Unit 16　Part 4　小テスト
第16回　アメリカ大統領：　Unit 1　オバマ大統領が英語の先生
第17回　Unit 7　イギリスで人気のオバマ夫人
第18回　健康と科学：　Unit 2　ソーダの飲みすぎに注意
第19回　Unit 3　万能細胞の研究に大きな期待
第20回　Unit 10　遺伝子操作は許されても良いのか　小テスト
第21回　発展途上国では：　Unit 6　パキスタンの子供たちのためにもっと学校を
第22回　Unit 12　ジンバブエの現状
第23回　ファッション　Unit 4　スーツできめるイギリス人
第24回　Unit 9　素敵なドレスでプロムへ
第25回　メディア：　Unit 5　就職先を見つけてくれる人気DJ　小テスト
第26回　Unit 14　インパクトの強いコマーシャル
第27回　社会と経済　Unit 8　新しい仕事に挑もう
第28回　Unit 15　不況で増えるテント村
第29回　Review　小テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
但し、小テストを半期ごとに数回ずつ行うことで試験と読み替えるので、試験の評価は小テストでの評価にあたる。小テストの実施時期に関しては、学年暦にあわせて多少の変更がある。毎回ボキャブラリークイズを行うが、これは出席点に含まれる。詳細に関しては１回目の授業で説明する。

【教科書】
石塚美佳、メイスみよ子、小林めぐみ、長崎睦子 American Spirits in Movies 成美堂
必ずしもテキストの順に進まないので注意。
山根繁、キャサリーン・山根 ABC News 12 金星堂
必ずしもテキストの順に進まないので注意。

【備考】
【準備学習の指示】毎回ボキャブラリークイズを行うので、そのための準備をする。また２週間に１度Media English Logを提出してもらう。（詳細は授業内で指示する）。
・02～07生は読替一覧参照

ま行

科目名　クラス　講義区分	
メディアと芸術表現－映像ができることと,できないこと＜秋集＞	
藤　森　かよ子	4単位

【講義概要】

★メディアも芸術表現も、究極的には同じ意味です。どちらも「媒体」の意味です。

★人間が何かを他人に伝える場合は、言葉であれ、声であれ、身体表現であれ、「媒体」を必要とします。

★媒体がなければ、実は人間は他者と交通できません。複雑な内容のことを他人に伝えようとすれば、媒体も複雑になります。

★ここに、芸術という過剰で無駄なものを、人間がなぜ必要とするかの理由があります。

★芸術という過剰な媒体でなければ、伝えられないものを人間は抱え込んでしまうのです。人間が生きていく過程で出会う問題（現実）というものが、それにあたります。

★この講義では、人間が、現実に直面し、現実を把握し、現実に対処するために、なぜ芸術を必要とするのかを考察します。

★また芸術は現実をどのように表現してきたかを考察し、また人間の現実認識を、どのように変えてきたかを考察します。

★芸術表現の中でも、20世紀が開拓した新しい表現法＝映像メディアの可能性を、映画やアニメを利用して考察します。同時に、映画やアニメでは、できないことについても考察します。

★所詮、映画は映画だ！映像をいくら学んでも、現実が理解できるわけではありません。しかし、芸術、映像という媒体を通して、人間は直視できない現実に対峙するしかないということも事実なのです。

★ほんとうに、人間存在は厄介なものですね！

【学習目標】

★テーマ別（人間とは何か？/人間の絆/人間と歴史・・・）に、いくつかの映像作品を鑑賞することにより、以下のことを考えます。

（1）映像というメディアだからこそ表現できること
（2）映像では表現できないこと
（3）このように表現されたことが、私たちの現実認識に、どのような変化を　　与えうるか？映像は、いかに私たちの認識を変えうるか？

★この講義は、即戦的に実利的な講義を期待する方にとっては、受講するだけ、時間の無駄です。ちょっと人生について、人間存在について考えてみるか・・・映像の見方を知っておくのも悪くはないだろう・・・と考える傾きのクラスです。

★具体的にどんな作品を鑑賞するかは、お楽しみ！

【講義計画】

第１回　ガイダンス
（1）本講義の目的と内容
（2）進行方法説明
（3）人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その１）
第２回　人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その２）
第３回　人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その３）
第４回　人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その４）
第５回　人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その５）
第６回　人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その６）
第７回　人間とは何か？この問題について映像はどう描いているか？（その７）
第８回　人間の絆（友情）を映像はどう描いているか？（その１）
第９回　人間の絆（友情）を映像はどう描いているか？（その２）
第10回　人間の絆（友情）を映像はどう描いているか？（その３）
第11回　人間の絆〔家族〕を映像はどう描いているか？（その１）
第12回　人間の絆〔家族〕を映像はどう描いているか？（その２）
第13回　人間の絆〔家族〕を映像はどう描いているか？（その３）
第14回　人間の絆〔家族〕を映像はどう描いているか？（その４）
第15回　人間の絆〔家族〕を映像はどう描いているか？（その５）
第16回　人間の絆〔家族〕を映像はどう描いているか？（その６）
第17回　人間の絆（恋愛）を映像はどう描いているか？（その１）
第18回　人間の絆（恋愛）を映像はどう描いているか？（その２）
第19回　人間の絆（恋愛）を映像はどう描いているか？（その３）
第20回　人間と歴史（集団と個人）を映像はどう描いているか？（その１）
第21回　人間と歴史（集団と個人）を映像はどう描いているか？（その２）
第22回　人間と歴史（集団と個人）を映像はどう描いているか？（その３）
第23回　人間と歴史（戦争と個人）を映像はどう描いているか？（その１）
第24回　人間と歴史（戦争と個人）を映像はどう描いているか？（その２）
第25回　人間と歴史（戦争と個人）を映像はどう描いているか？（その３）
第26回　人間と歴史を映像はどう描いているか？（その１）
第27回　人間と歴史を映像はどう描いているか？（その２）
第28回　人間と歴史を映像はどう描いているか？（その３）
第29回　まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験　40%　レポート　30%　出席　30%
レポートというのは、毎回の講義の終りに記述するコメントペーパーのことです。短時間に、自分のコメントを整理して書く練習になります。これは出席票でもあります。コメントペーパーに、ふざけた「講義内容以外のこと」を記述すると、減点対象になるかもしれません

【教科書】

テキストは使用しません。担当教員が作成したハンドアウトを使用します。

【参考文献】

講義中に適宜、紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
メディア文化特論－戦争と映画/アニメーション　＜秋集＞	
佐　野　明　子	４単位

【講義概要】
映画（アニメーションを含む）は、経済・政治・文化など社会的背景と関わり合って生み出される。なかでも「戦争」は、映画の一大ジャンルを形成し、時代に応じて映像表現を変遷させてきた。本講義では、戦時期から近年の作品まで広くとりあげ、映画と戦争の相関関係を検討していく。
受講生が映像分析の手法を着実に身につけるために、講義形式だけでなく、教員と受講生との質疑応答（ワークシートないし口頭）を行う。したがって受講生には毎回、映像から何かを”発見”しようとする積極的な姿勢が求められる。

【学習目標】
”映画＝社会を映す鏡”とは限らない。単純な社会反映論に止まらないよう、メディアの特性、表象の可能性/不可能性、製作背景、社会背景など、多角的な視点から映画を総合的に捉える能力を修得する。

【講義計画】
第１回　ガイダンス：第一次大戦と映画
第２回　ディズニーとナチス：アニメーション政策の米独比較
第３回　WWⅡと日本アニメーション（１）満州事変
第４回　WWⅡと日本アニメーション（２）桃太郎①
第５回　WWⅡと日本アニメーション（３）桃太郎②
第６回　WWⅡと日本アニメーション（４）大藤信郎
第７回　WWⅡと日本アニメーション（５）タヌキ
第８回　WWⅡと日本アニメーション（６）女性
第９回　東西冷戦とロシアのアニメーション
第10回　アメリカ占領と日本映画（１）
第11回　アメリカ占領と日本映画（２）
第12回　反戦映画のポリティクス（１）
第13回　反戦映画のポリティクス（２）
第14回　兵隊イメージの商品化（１）
第15回　兵隊イメージの商品化（２）
第16回　中間試験
第17回　グループ発表（１）
第18回　グループ発表（２）
第19回　戦争責任とドキュメンタリー（１）
第20回　戦争責任とドキュメンタリー（２）
第21回　Animated Documentary（１）
第22回　Animated Documentary（２）
第23回　戦艦大和イメージの転回（１）
第24回　戦艦大和イメージの転回（２）
第25回　ヒバクシャ・シネマ（１）
第26回　ヒバクシャ・シネマ（２）
第27回　ヒバクシャ・シネマ（３）
第28回　ヒバクシャ・シネマ（４）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%　出席　０%
中間試験と期末レポートから評価する。
授業開始後20分以降の入退室は認めない。受講態度の悪い者（私語、携帯等）は、失格にする場合もある。

【参考文献】
『帝国の銀幕　十五年戦争と日本映画』ピーター B.ハーイ　名古屋大学出版会　1995
『戦時下の日本映画　人々は国策映画を観たか』古川隆久　吉川弘文館　2003
『ヒバクシャ・シネマ　日本映画における広島・長崎と核のイメージ』ミック・ブロデリック編　現代書館　1999
『映画視線のポリティクス　古典的ハリウッド映画の戦い』加藤幹郎　筑摩書房　1996
『日本アニメーション映画史』山口且訓，渡辺泰　有文社　1977
『漫画映画論』今村太平　岩波書店　1992
『ミッキー・マウス　ディズニーとドイツ』カルステン・ラクヴァ　現代思潮新社　2002
『戦争と映画　知覚の兵站術』ポール・ヴィリリオ　平凡社　1999

【備考】
図書館AVルーム・視聴覚事務室に所蔵するDVD、無料の動画サイト「openArt」「Gyao」などを利用して、日頃から映像文化にふれてください。
また、映画祭、美術展などイベントの参加を推奨します。
・08～09L生対象

科目名　クラス　講義区分	
メディア文化特論－ドキュメンタリーを作る・観る・読む＜通期＞	
鈴　木　隆　史	４単位

【講義概要】
本授業では映像制作、とりわけドキュメンタリーについて、企画から制作にいたるまでのプロセスを具体的に紹介する。日常テレビや映画館で観るドキュメンタリーはどのようにして制作されているのか？映像制作の裏側も紹介。監督やディレクターが何をどのように伝えようとしているのかについても。いくつものドキュメンタリー作品を観る。また、映像を観た後に簡単なレポートに作品についてのコメントを書くことで観るだけでなく「読む」力もつけたい

【学習目標】
ドキュメンタリー映像はどのように制作されるのかを知る。授業ではできるだけ多くのドキュメンタリー作品を集中して観て考えることで、問題意識を持ってテレビや映画のドキュメンタリーを読み解くことができるようになる。

【講義計画】
第１回　ドキュメンタリー映像とは何か？
第２回　ドキュメンタリー制作の現場　1
第３回　ドキュメンタリー制作の現場　2
第４回　ドキュメンタリー制作の現場　3
第５回　ドキュメンタリー作品を観る
第６回　ドキュメンタリー作品を観る
第７回　ドキュメンタリー作品を観る
第８回　ドキュメンタリー作品を観る
第９回　ドキュメンタリー作品を観る
第10回　ドキュメンタリー作品を観る
第11回　作品を読み解く
第12回　作品を読み解く
第13回　作品を読み解く
第14回　作品を読み解く
第15回　ドキュメンタリー作品を観る
第16回　ドキュメンタリー作品を観る
第17回　ドキュメンタリー作品を観る
第18回　ドキュメンタリー作品を観る
第19回　ドキュメンタリー作品を観る
第20回　作品を読み解く
第21回　作品を読み解く
第22回　作品を読み解く
第23回　作品を読み解く
第24回　作品を読み解く
第25回　作品を読み解く
第26回　作品を読み解く
第27回　作品を読み解く
第28回　作品を読み解く
第29回　作品を読み解く
第30回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　20%　出席　30%
授業で上映するドキュメンタリーを観ることが重要。よって出席は重視するが、寝ないことが大事。映像の内容とその後の授業での話をもとに自らが考えて記述する方式。

【参考文献】
森達也著「ドキュメンタリーは嘘をつく」草思社、2005年。ISBN 4794213891
今野勉著「テレビの嘘を見破る」新潮社、2004年、ISBN 4106100886
鎌仲ひとみ、金聖雄、海南友子「ドキュメンタリーの力」子供の未来社、2005年、ISBN 4901330527
飯田卓、原知章「電子メディアを飼いならす」せりか書房、2005年、ISBN４-7967-0266-０
伊藤俊治、港千尋編「映像人類学の冒険」せりか書房、1999年、ISBN４-7967-02202
佐藤真著「日常という名の鏡」凱風社、1997年、ISBN４-7736-2204-０

【備考】
・08～09L生対象

ま行

科目名　クラス　講義区分	
メディア文化特論－プロデュース学概論　＜秋＞	
川　田　隆　雄	２単位

【講義概要】
最近、○○プロデューサーという肩書きを持つ人の名刺を受け取ることがあります。エンターテイメントプロデューサーはもちろんのこと、都市開発プロデューサー、ウエディングプロデューサー、宇宙基地開発プロデューサーなど様々です。プロデューサーという言葉は映画産業といった特定の分野で使われる職業的機能を指すものでなく、あらゆる産業で使われる言葉になっています。言葉が浮遊し、はっきりと定義できるものではりませんが、実体の職業的機能として存在し、社会からの強い要請があって、多様なプロデューサーが出現してきていることは確かです。この授業ではプロデューサーを「過去において誰もやったことのないことを思いつき、何とか実現する人」と定義します。
　過去において自分の思いつき実現することが出来る人は、富や権力のある特殊な人たちでした。この特殊な人たちは王様のような人と言い換えてもよいでしょう。王様は自分の持つ財力、権力、軍事力などを使って、お城を造営したり、戦争を行ったり、レオナル・ド・ダビンチのような人物のパトロンになって、芸術をプロデュースすることも出来ました。我々はこのような人物を「王様Ｐ」と呼んでいます。現代ではこのような王様Ｐは少なくなり、「現代Ｐ」が登場してきています。現代Ｐは王様Ｐのように、自分の富や権力を使うことなく、自らの思いつきを実現していきます。現代Ｐはプロデュースの価値や大義名分を社会に対して説き、また、その完成を約束することで必要な資源を手入れます。例えば、新しい映画の構想を思いついたとすれば、社会にそれが受け入れられることを説き、そして自分には最高の映画がプロデュース出来ることを主張して任されることになります。つまり、現代Ｐは社会化を約束することで、自分の思いつきを実現することが出来ると言えます。この現代Ｐの構図から考えると、現代では方法をしっかり考えれば、だれでもプロデューサーになるチャンスがある時代とも言えます。
　このようなプロデュースが誰でも出来る時代をふまえ、この授業ではプロデューサーとう職業的機能の発展経緯を概説した後、プロデュースプロセスの実践的な学習を行います。

【学習目標】
この授業では、エンターテイメント産業をから発生してきた、プロデュースのプロセスを概観し、プロデューサー達の持つ共通ノウハウと個別ノウハウを学んだ後、自分たちでプロデュースの設計図がかけるようになることを目指します。

【講義計画】
第１回　プロデュース学概論のガイダンス１
第２回　思いつきを育む１
第３回　思いつきを育む２
第４回　思いつきを構想に導く
第５回　他人が分かるストーリーを作る
第６回　他人を説得するためのストリーテリング
第７回　プロデュースを成功させるための設計図を作る
第８回　プロデュースに必要なキャスティングを行う
第９回　リスクを回避するためのシミレーションを行う
第10回　プロジェクトの実行管理
第11回　プロデュースの成果を世の中に普及させる
第12回　実際にプロデュースプロジェクトの設計を行う
第13回　発表会
第14回　発表会
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　20%　出席　10%
授業への参加度、提出物、最終の試験を総合して評価を行う。

【参考文献】
授業中に適宜指示

【備考】
・08～09L生対象

科目名　クラス　講義区分	
メディアリテラシー入門　01＜春＞ メディアリテラシー入門　02＜秋＞	
境　　真理子	２単位

【講義概要】
　メディアリテラシーとは、私たちの生活を取りまくメディアを読み解き、使いこなし、表現する複合的な能力の事です。今日の社会では、さまざまな情報がメディアを介して奔流のように流れ込んできますが、一方で私たちは情報を無自覚に受けいれていないでしょうか。その質を見分け、判断し、選択し、表現しているでしょうか。授業はこの問いから出発し、膨大な情報があふれる社会の迷路を克服するための基礎的な知識を学びます。

【学習目標】
私たちの暮らしが、テレビなどマス・メディアからの情報に取り巻かれ、大きな影響を受けていることに気づくことが出発点です。さまざまなメディアに着目するなかから、メディアを読み解き、使い、表現する力を養います。そのうえで、他者を理解し豊かで創造的な社会のあり方を考えます。

【講義計画】
第１回　私とメディアリテラシー：授業についてのオリエンテーションと全体の解説
第２回　私のメディアマップ：身の回りのメディアと自分の位置を確認する
第３回　私に身近なメディア：放送がもつメッセージと影響力を知る
第４回　私のメディアヒストリー：メディアの歴史を学ぶ
第５回　私のメディア生活１：自分と情報の関係を分析・理解する
第６回　私のメディア生活２：情報を受けとる自分を対象化する
第７回　私が好きなメディア：好きなメディア、嫌いなメディアの特徴と仕組みを知る
第８回　私が使うメディア：よく利用するメディアの種類と生産の仕組みを知る
第９回　私が作るメディア：主体的な情報収集と作る意図、創造的な表現を考える
第10回　私が送るメディア：発信する責任を考える
第11回　メィアでつながる：メディアを通してコミュニケーションを生みだす
第12回　メディアで遊ぶ：広告のワークショップ
第13回　メディアを選ぶ：取材ゲームを通した実践
第14回　メディアを考える：振り返りとまとめ
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%
出席とレスポンスペーパー、中間レポート、及び期末試験による評価

【参考文献】
１、水越伸編「メディアリテラシーの道具箱」（東大出版会2005）
２、メルプロジェクト・水越伸編「メディアリテラシー・ワークショップ」（東大出版会2009）

【備考】
教科書は指定しない。必要な資料はその都度、配布される。
授業の一部に、グループ作業やワークショップの手法が取り入れられる。
今日的で、ジャーナリスティックなメディアの話題はその都度、内容に反映させていく。
【準備学習の指示】
本授業では、教科書を指定していないが、上記の参考図書を広く引用、利用する。メディアに関する用語や理論に慣れていない学生は、参考図書を読んで、事前に慣れておいてください。なお参考図書は、図書館に複数配置している。また、テレビなど、さまざまなメディアを広くとりあげるため、日ごろからメディアとジャーナリズムにかかわるテキスト類（書籍、記事、広告、テレビ番組）などを注意深く読み、かつ見る習慣をつけるよう準備してください。

科目名　クラス　講義区分	
メディアリテラシー論　＜秋集＞	
境　　真理子	４単位

【講義概要】
私たちはさまざまなメディアに囲まれ、身近になった情報機器を操作し、あまり意識せずに、メディアに触れる、見る、使う、作る、楽しむ生活をしている。一方で膨大な量の情報に戸惑うことはないだろうか。授業では私たちが無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的、歴史的、社会的な特性を問いなおす。メディア社会をより豊かに生きるために、学際的、領域横断的な内容で、情報社会を生きるための基礎体力となるよう設計される。講義は大きくは三期に分かれ、一期はメディア・リテラシーに関する基礎論からなる。二期は「デザインの応用」で、アイデアやテーマの発見と発展、三期は「実践」編で、主に企画と表現の力をみがく。

【学習目標】
情報の側面から社会と人間を深く理解することを目指す。メディアがあふれる情報社会の中で、メディアの選び方や接し方、使い方を理解し、応用力のある「知」へ発展させる。さらに、さまざまなメディアを表現のツールとして使いこなすことを学びながら、創造力や表現能力を伸ばす。

【講義計画】
第１回　オリエンテーションと概論
第２回　メディア・リテラシー活動と社会
第３回　今日的課題１：メディア・リテラシーと内外の情報教育
第４回　今日的課題２：メディア・リテラシーの世代間格差
第５回　今日的課題３：幼児、子供とメディア・リテラシー
第６回　今日的課題４：ジャーナリズムとの協働
第７回　今日的課題５：理論と実践の担い手たち
第８回　新聞とNIE活動、マスメディアの課題
第９回　放送とメディア・リテラシー番組
第10回　放送メディア：放送の「送り手」と「受け手」新しい関係の模索
第11回　活字メディア：変化と行方
第12回　展示メディア：ミュージアムなど公共空間の情報デザイン
第13回　インターネットメディア：激変する環境
第14回　メディア情報の受容と発信、倫理
第15回　前半の振り返りとディスカッション
第16回　高度情報化社会とリテラシー１：デジタル環境がもたらす変化
第17回　高度情報化社会とリテラシー２：情報格差とオータナティブ・メディア
第18回　高度情報化社会とリテラシー３：市民社会と草の根メディアの課題
第19回　映像作品を企画する
第20回　撮るためのリテラシー、ビデオカメラと映像特性
第21回　編集する、まとめるためのリテラシー
第22回　マルチモダリティと表現
第23回　メディアで発表する
第24回　対象を意識する
第25回　責任と影響を考える
第26回　ネットと映像１、you tubeの現在
第27回　デジタル時代の知的財産権と共有
第28回　総合ディスカッション
第29回　試験

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
随時提出が求められる複数のレポートと、出席で評価する。

【教科書】
東京大学情報学環メルプロジェクト・日本民間放送連盟編「メディアリテラシーの道具箱　テレビを見る・作る・読む」東京大学出版会2005年

【参考文献】
「メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く」カナダ・オンタリオ州教育省編　リベルタ出版　1992年
「メディア・リテラシーの方法」シルバーブラッド著　リベルタ出版　2001年
「クリエイティブコモンズ」ローレンス・レッシグ著　NTT出版　2005年
「メディア・リテラシー教育　学びと現代文化」バッキンガム著　世界思想社　2006年

【備考】
【準備学習の指示】
事前に「メディアリテラシー入門」を受講していることが望ましい。なぜならこの授業の性格は、初歩的・入門的な内容ではなく、メディア知識を前提として授業を進めるためである。専門的なメディア用語も多用する。「メディアリテラシー入門」は前期・後期とも開講しているので、まだ受講していない場合は、それを経てからの受講を強く薦める。さらに、授業理解を深めるため、日ごろから「メディア」や「ジャーナリズム」にかかわる書籍、記事、広告、映画、テレビなどに接し、注意深く読み解く習慣をつけるよう準備してください。

科目名　クラス　講義区分	
文字・表記論　＜秋＞	
藤　原　　健	２単位

【講義概要】
言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。
今年は秋に、漢字の使用基準である「常用漢字表」の改定が予定されている。我々がこれまでどのような基準で漢字や仮名文字を使用してきたかを振り返るのにいい機会となるだろう。
また、漢字、仮名（平仮名、片仮名）の成り立ちも紹介する。

【学習目標】
日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。
外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

【講義計画】
第１回　１．日本語の表記法と基準
　　１）漢字の表記法（「常用漢字表」）（１）
第２回　　１）漢字の表記法（「常用漢字表」）（２）
第３回　　２）平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）（１）
第４回　　２）平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）（２）
第５回　　２）平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）（３）
第６回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（１）
第７回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（２）
第８回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（３）
第９回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（４）
第10回　　４）送り仮名の付け形
第11回　　５）ローマ字の種類と表記法
第12回　２．文字に関する知識
　　１）漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）（１）
第13回　　１）漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）（２）
第14回　　２）仮名の成り立ち（真名、平仮名、片仮名等）
第15回　テスト（予定）

【成績評価の方法】
試験　100％
定期試験（半期科目であるので、秋学期１回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】
富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック（２）新・表記』国際交流基金／凡人社

【参考文献】
清水義昭（編）『概説　日本語学・日本語教育』（おうふう）

【備考】
【準備学習の指示】
予習は特に必要はない。その代わりに、毎回きちんと出席して授業をよく聞き、次回の授業までにしっかりと復習をしてほしい。
内容が積み上げの部分もあり、既習の事柄がわからないと、その先が理解できないことがあるので、復習を心掛けてほしい。
習い終わったことの復習が、次回以降の予習につながる。

科目名　クラス　講義区分	
野外レクリエーション実習　＜春＞	
小　柳　敬　明	２単位

【講義概要】
キャンプなどの野外活動を題材として、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動に関する理論とプログラムを学びます。また、安全管理やプログラム運営の技術、グループワークの理解ができるよう野外レクリエーションの体験や実習を行います。

【学習目標】
理論を一方的に理解するだけでなく、実際の体験や実習に参加することを通して主体的に学ぶことを重視します。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目的、内容や評価方法等の説明）
第２回　野外レクリエーションの理解
第３回　野外レクリエーションと野外教育
第４回　キャンプの理解
第５回　福祉とレクリエーション
第６回　キャンプの対象とプログラム
第７回　キャンプと福祉対象者
第８回　個々のプログラムの運営と指導
第９回　野外活動とリスクマネジメント
第10回　救急法
第11回　野外レクリエーションの計画①
第12回　野外レクリエーションの計画②
第13回　野外レクリエーションの体験と実習①
第14回　野外レクリエーションの体験と実習②
第15回　記録と評価

【成績評価の方法】
レポート　50％　出席　50％
出席点と、小グループによる計画と発表、レポートなどにより評価します。

【参考文献】
授業中に紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ経済論　＜通期＞	
棚　池　康　信	４単位

【講義概要】
この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）について論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また2004年には、中東欧諸国を中心に10カ国が新たに参加し、ヨーロッパの一体的空間はさらに経済的・政治的重要性を高めている。しかしながら昨年末は、リスボン条約に調印して統合の新たな枠実が与えられた。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深いが、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする。

【学習目標】
近年世界的に取り組みが増えている経済統合の本質について理解する。
経済統合の観点から、ヨーロッパという世界の特質を理解する

【講義計画】
第１回　2009年のEU；リスボン条約
第２回　EUの到達点
第３回　経済統合論とEU
第４回　連邦の経済学と補完性原理
第５回　経済統合と新機能主義
第６回　EU統合と条約
第７回　EU統合と機構
第８回　EU統合の過程（４つの統合局面）
第９回　EUの統合過程と第３局面
第10回　92年市場統合の概要
　　92年市場統合の意義
第11回　70年代の通貨統合の過程
第12回　スネークとその挫折
第13回　スネーク挫折の意義
第14回　EMSとECU
第15回　EMSとERM
第16回　第２局面におけるヨーロッパの停滞
第17回　統合環境の変化とSMP
第18回　SMPと共同市場
第19回　統合環境の変化とSEA
第20回　SEAとヨーロッパ統合の局面変化
第21回　SMPとSEA
第22回　市場統合とEMU
第23回　EMUとドロール計画
第24回　マーストリヒト条約とEMU
第25回　EMU第２段階の意義
第26回　ユーロの導入と政策統合
第27回　ユーロ経済
第28回　市場統合のとリスボン戦略
第29回　リスボン条約
第30回　総括

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%

【教科書】
棚池康信 EUの市場統合 晃洋書房

【参考文献】
田中素香他『現代ユーロ経済』有斐閣
島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房
田中素香編『現代ヨーロッパ経済論』有斐閣
田中友義編『ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房

【備考】
準備学習の指示

ヨーロッパの通史の概観
為替レートに関する知識
非関税障壁に関する知識

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ文化研究－ギリシア思想のオデュッセイア＜通期＞	
山　川　偉　也	４単位

【講義概要】
ホメロスやヘシオドスの叙事詩、ギリシア悲劇や喜劇から始まってソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学にいたる、ギリシア文化の諸相を多角的に講義する。本講義はギリシア文化をめぐる一種の炉辺漫談の試みである。

【学習目標】
ヨーロッパ文化の根源にギリシア文化がある。ギリシア文化に通暁することがヨーロッパ文化理解への捷径である。受講者は本講義を通じてヨーロッパ文化へのいっそう奥深い理解を得るようにしていただきたい。

【講義計画】
第１回　ギリシアの文化と哲学の始原を求めて（１）
第２回　ギリシアの文化と哲学の始原を求めて（２）
第３回　ギリシアの文化と哲学の始原を求めて（３）
第４回　トロイ物語
第５回　ゼウスの正義（１）
第６回　ゼウスの正義（２）
第７回　プロメテウス神話
第８回　デルフォイのアポロンとその神託
第９回　汝みずからを知れ（１）
第10回　汝みずからを知れ（２）
第11回　悲劇『メディア』とギリシア人の運命観
第12回　パルメニデスの故郷
第13回　パルメニデスとゼノン（１）
第14回　パルメニデスとゼノン（２）
第15回　パルメニデスと龍樹（１）
第16回　パルメニデスと龍樹（２）
第17回　唱歌「もしもしかめよ」
第18回　アテネのアクロポリス
第19回　アテネのアゴラとソクラテス
第20回　人工知能時代のソクラテス（１）
第21回　人工知能時代のソクラテス（２）
第22回　人工知能時代のソクラテス（３）
第23回　アルカイック・スマイル（１）
第24回　アルカイック・スマイル（２）
第25回　アルカイック・スマイル（３）
第26回　時と永遠（１）
第27回　時と永遠（２）
第28回　時と永遠（３）
第29回　日本文化とギリシア文化をめぐる一つの断章（１）
第30回　日本文化とギリシア文化をめぐる一つの断章（２）

【成績評価の方法】
小試験ならびに学年末試験

【参考文献】
山川偉也著『ギリシア思想のオデュッセイア』世界思想社

【備考】
【準備学習の指示】
受講には準備学習が大切である。特に、授業を受ける前に指定されている参考文献を事前によく読んでおくことが大事である。

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ文化研究－スペイン文化とラテンアメリカ諸国 ＜春集＞	
Gonzales Dario	4単位

【講義概要】
スペインやラテンアメリカ諸国の歴史、教育、経済社会、音楽、舞踊、美術、建築儀式の芸術文化、フィエスタと文化、スポーツ等について視聴覚教材とプリントを活用しながら講義を進めていきます。

【学習目標】
スペインやラテンアメリカ諸国の歴史や社会文化を学び、国際的な視野を広げる為の考え方や価値観を深めることを目指します。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　スペインの概要
第３回　スペインの歴史
第４回　教育
第５回　家族社会と食生活
第６回　建築様式
第７回　絵画美術と演劇
第８回　絵画美術と演劇
第９回　現代音楽とダンス
第10回　現代音楽とダンス
第11回　スペイン北部
第12回　スペイン中部
第13回　スペイン南部
第14回　まとめ
第15回　イントロダクション
第16回　ラテンアメリカの概要
第17回　ラテンアメリカの歴史
第18回　メキシコ
第19回　ドミニカ共和国
第20回　エクアドル・ベネゼエラ
第21回　ペルー・ボリビア
第22回　チリ・パラグアイ
第23回　アルゼンチン・ウルグアイ
第24回　ブラジル
第25回　クリスマスと新年
第26回　ラテンミュージック
第27回　ラテンミュージック
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席点（60%）と仮題レポート提出による総合評価とする。

【教科書】
プリント配布

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ文化研究－ヨーロッパ建築史　＜秋集＞	
和　栗　珠　里	4単位

【講義概要】
ヨーロッパ各地には、数々の歴史的建造物が残されている。建築物は単なる箱ではなく、時代や社会の特質を映し出す鏡であり、人々のものの考え方を体現する「形を持つ哲学」である。個々の建築物が持つ造形美の中に歴史的な意味を読み解きながら、現代建築にも大きな影響を与え続けるヨーロッパの伝統的な建築様式を見ていく。

【学習目標】
建築を通して、古代から現代にいたるヨーロッパの技術と美と思想の歴史をたどり、21世紀の日本に生きる我々をも取り巻く西洋的造形の伝統を理解する。

【講義計画】
第１回　序論：現代に生きる伝統的建築様式
第２回　古代ギリシアの建築
第３回　古代ローマの建築（１）：都市の建設と公共事業
第４回　古代ローマの建築（２）：コロッセオとパンテオン
第５回　初期キリスト教建築
第６回　ビザンティン様式（１）：東方
第７回　ビザンティン様式（２）：イタリア
第８回　イスラム建築の影響（１）：イタリア
第９回　イスラム建築の影響（２）：スペインとフランス
第10回　ロマネスク様式
第11回　ロマネスクからゴシックへ（１）：修道院
第12回　ロマネスクからゴシックへ（２）社会と技術の発展
第13回　ゴシック様式（１）：宗教建築
第14回　ゴシック様式（２）：世俗建築
第15回　ルネサンス（１）：ルネサンスの誕生
第16回　ルネサンス（２）：ルネサンスの発展から完成へ（ブラマンテ）
第17回　ルネサンス（３）：盛期ルネサンス①（ミケランジェロ）
第18回　ルネサンス（４）：盛期ルネサンス②サンソヴィーノとパッラーディオ
第19回　マニエリスム
第20回　バロック（１）絶対王政
第21回　バロック（２）：宗教建築
第22回　啓蒙主義時代の建築：ロココと新古典主義
第23回　近代の建築（１）：ネオ・ゴシック様式
第24回　近代の建築（２）：各種リヴァイヴァリズム
第25回　近代の建築（３）：鉄とガラスの時代、アール・ヌーヴォーとアール・デコ
第26回　現代の建築（１）：ポストモダン
第27回　現代の建築（２）：歴史との共存
第28回　現代の建築（３）：未来へ向けて
第29回　総括
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
講義をよく聞き、理解することが基本であるので、出席を重視する。毎回の授業の最後に、その日の講義内容をまとめたミニ・レポートを提出させ、それによって出席点をつける。20分以上の遅刻は欠席と同等に扱う。また、講義内容の基礎的な理解を確認するための試験を学期末に行う。

【教科書】
使用しない

【参考文献】
吉田鋼市『西洋建築史』森北出版株式会社、2007年
桐敷真次郎『西洋建築史』共立出版、2001年
陣内秀信ほか『図説西洋建築史』彰国社、2005年

【備考】
世界遺産や観光に関する雑誌記事やテレビ番組を通じて、ヨーロッパの歴史的建造物をいくつも見ておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
リスクと保障　＜秋＞	
武　田　久　義	２単位

【講義概要】
現在の社会は、様々なリスクに取り囲まれている。日々直面するリスクに対して、これを管理するための多くの手段が開発されてきた。それは、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。そしてリスクマネジメントの手段は、現在では基本的にリスクコントロールとリスクファイナンスに分けて考えられている。この講義では、リスクに遭遇した場合の保障としてのリスクファイナンスを中心に、歴史や文化等の様々な観点から主要なリスクファイナンスの手段について解説する。また、現在の日本ではセーフティネットが動揺し、なかには崩壊しつつあるものもある。この点についても、説明する。

【学習目標】
リスクについて認識すること。とくに、日本人とリスクとの係わりについて理解すること。これは、国際化が進行する外よび将来にとって、とくに必要である。そのうえで、必要な生活保障のあり方について考えてもらう。

【講義計画】
第１回　全体的な説明
第２回　リスクの意味と内容
第３回　リスク・マネジメントについて(１)
第４回　リスク・マネジメントについて(２)
第５回　現代社会と保険・保障(１)
第６回　現代社会と保険・保障(２)
第７回　現代社会と保険・保障(３)
第８回　現代社会と保険・保障(４)
第９回　日本人と保障・保険(１)
第10回　日本人と保障・保険(２)
第11回　リスク・保険の歴史と文化(１)
第12回　リスク・保険の歴史と文化(２)
第13回　保障制度の将来
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%

【教科書】
武田久義 リスク・保障・保険 成文堂

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
リハビリテーション論　＜春＞	
倉　澤　茂　樹	２単位

【講義概要】
ICIDH（国際障害分類）の改訂版としてICF（国際生活機能分類）が2001年５月にWHO（世界保健機関）総会において採択された。ICIDHからICFへという世界的な潮流は我が国の医療・保健・福祉の分野において徐々に広がりつつある。さらに、高度な医療技術に伴う障害の重度化、少子高齢社会や都市部への人口集中など我が国特有の社会的背景により、リハビリテーションは大きな転換期を迎えている。本講義ではまず、「リハビリテーション」「健康」「障害」などの基本的な考え方を確認した上で、身体障害、精神障害、発達障害などの各分野の現状を紹介し、リハビリテーションの今後のあり方について考察を深めていく。

【学習目標】
１.ICIDHとICFの違いについて理解する
２．リハビリテーションの変遷を学ぶ
３．リハビリテーションに携わる職種について理解する
４．各分野のリハビリテーションの考え方がわかる
５．各分野のリハビリテーションの現状と課題を理解する

【講義計画】
第１回　1,リハビリテーションとは
第２回　2,リハビリテーションの流れ（身体障害を中心に）
　　１）急性期のリハビリテーション
第３回　２）回復期のリハビリテーション
第４回　３）維持期のリハビリテーション
第５回　４）終末期・予防的リハビリテーション
第６回　3,リハビリテーションの専門職
　　１）理学療法士・作業療法士
第７回　２）医師・看護師・言語聴覚士・ソーシャルワーカー
第８回　4,各分野のリハビリテーション
　　１）精神障害のリハビリテーション
第９回　①精神疾患について
第10回　②歴史的変遷と概要
第11回　③現状と課題
第12回　２）発達障害のリハビリテーション
　　①発達障害について（脳性麻痺）
第13回　②発達障害について（知的障害）
第14回　③発達障害について（学習障害・注意欠陥多動性障害）
第15回　④発達障害について（広汎性発達障害）⑤現状と課題

【成績評価の方法】
講義時間内で不定期に行われるレポート50%，筆記試験50%

【参考文献】
教科書
なし（当日、印刷物を配布）

参考文献
入門　リハビリテーション概論　第６版　中村隆一編集　医歯薬出版株式会社
地域リハビリテーション原論　Vol.４　大田仁史著　医歯薬出版株式会社
図説　精神障害リハビリテーション　野中猛著　中央法規出版

科目名　クラス　講義区分	
リメディアル科目－コミュニケーションのチカラを鍛える 01＜春＞	
辻　　洋一郎	2単位

【講義概要】
皆さんは、授業を聞いてしっかりメモはとれますか？社会人にも通じるようなキチンとしたメールを書けますか？大学の講義で課せられるレポートの書き方は知っていますか？
本講義は皆さん方が直面するこのような課題の取り組み方を具体的に解説し、実際にトレーニングすることで、大学で必要な「コミュニケーションのチカラ」について再確認し、能力を向上させることを目的にしています。ですから一般的な大学の講義とは異なり、実際に手を動かし取り組んでゆくことが強く求められます。他の講義に比べて多少しんどいかもしれませんが、がんばって講義を受けてゆくうち、どんどん自分の知識の吸収能力や思考力が高まってゆくことを実感するはずです。
大学入学を機に、勉強しなおそう、新たに何か取り組みたいという方にはピッタリです。
反面、本講義は演習的ですので、英語の授業のように出席が前提です。欠席が一定数を越えると自動的に単位はありません。内容もハードです。生半可な気持ちで受けるのであればやめておいたほうが無難です。
尚、秋学期の同名講義は同じ内容の繰り返しです。いずれか都合のよい方を受講してください。

【学習目標】
大学での授業を吸収するために必要なチカラを磨くとともに、社会へ出てから困らないようにコミニュケーションのチカラを磨きます。
尚、授業は受講生の能力と水準を勘案して、適宜内容とレベルを修正しながら行います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　基礎力を確認する
第３回　リテラシー能力を鍛える①
第４回　リテラシー能力を鍛える②
第５回　リテラシー能力を鍛える③
第６回　リテラシー能力を鍛える④
第７回　リテラシー能力を鍛える⑤
第８回　リテラシー能力を鍛える⑥
第９回　コミュニケーション能力を鍛える①
第10回　コミュニケーション能力を鍛える②
第11回　コミュニケーション能力を鍛える③
第12回　コミュニケーション能力を鍛える④
第13回　コミュニケーション能力を鍛える⑤
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　50%
講義中に理解度を見る試験やアンケートを適宜行い評価に加えます。

【参考文献】
適宜指示します。

【備考】
・10生対象

科目名　クラス　講義区分	
リメディアル科目－コミュニケーションのチカラを鍛える 02＜秋＞	
辻　　洋一郎	2単位

【講義概要】
皆さんは、授業を聞いてしっかりメモはとれますか？社会人にも通じるようなキチンとしたメールを書けますか？大学の講義で課せられるレポートの書き方は知っていますか？
本講義は皆さん方が直面するこのような課題の取り組み方を具体的に解説し、実際にトレーニングすることで、大学で必要な「コミュニケーションのチカラ」について再確認し、能力を向上させることを目的にしています。ですから一般的な大学の講義とは異なり、実際に手を動かし取り組んでゆくことが強く求められます。他の講義に比べて多少しんどいかもしれませんが、がんばって講義を受けてゆくうち、どんどん自分の知識の吸収能力や思考力が高まってゆくことを実感するはずです。
大学入学を機に、勉強しなおそう、新たに何か取り組みたいという方にはピッタリです。
反面、本講義は演習的ですので、英語の授業のように出席が前提です。欠席が一定数を越えると自動的に単位はありません。内容もハードです。生半可な気持ちで受けるのであればやめておいたほうが無難です。
春学期にも同名の講義がありますが、同じ内容です。どちらか都合のよい方を受講してください。

【学習目標】
大学での授業を吸収するために必要なチカラを磨くとともに、社会へ出てから困らないようにコミニュケーションのチカラを磨きます。
尚、授業は受講生の能力と水準を勘案して、適宜内容とレベルを修正しながら行います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　基礎力を確認する
第３回　リテラシー能力を鍛える①
第４回　リテラシー能力を鍛える②
第５回　リテラシー能力を鍛える③
第６回　リテラシー能力を鍛える④
第７回　リテラシー能力を鍛える⑤
第８回　リテラシー能力を鍛える⑥
第９回　コミュニケーション能力を鍛える①
第10回　コミュニケーション能力を鍛える②
第11回　コミュニケーション能力を鍛える③
第12回　コミュニケーション能力を鍛える④
第13回　コミュニケーション能力を鍛える⑤
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　50%
講義中に理解度を見る試験やアンケートを適宜行い評価に加えます。

【参考文献】
適宜指示します。

【備考】
・10生対象

科目名　クラス　講義区分	
流通論　＜通期＞	
赤　坂　嘉　宣	4単位

【講義概要】
本講義では、生産と消費とを結びつける流通に関して、基礎的知識から専門的知識まで修得することを目的としている。
春学期には、主に基礎的な知識を、秋学期には、その基礎的な知識の上に専門的な知識を修得することができるように、段階を踏まえて講義を進めていく。

【学習目標】
・流通に関する基礎的および専門的知識を修得する。
・理論のみならず、実社会における流通活動の側面から実態についても把握する。
・必要に応じて、流通と密接に関連する商業やマーケティングについても理解する。

【講義計画】
第１回　ガイダンス～講義の進行および評価の方法など
（なお、講義の進行状況により、授業計画が変更される場合もある。予め、了承を願いたい。）
第２回　流通の社会的意義
第３回　商流・物流・情報流
第４回　商業者の出現
第５回　商業者の機能
第６回　商業者間のパワー関係の変化～卸売商のパワー低下
第７回　商業者間のパワー関係の変化～大規模小売商のパワー上昇
第８回　百貨店の展開過程と現状
第９回　スーパー・マーケットの展開過程と現状①
第10回　スーパー・マーケットの展開過程と現状②
第11回　コンビニエンス・ストアの展開過程と現状
第12回　ショッピング・センターの展開過程と現状
第13回　商店街の展開過程と現状
第14回　中間まとめ
第15回　流通とマーケティング
第16回　マーケティングの基礎概念～定義の変遷
第17回　マーケティング・ミックス
第18回　流通チャネルの構築～生産者によるコントロール
第19回　流通チャネルの強化～流通系列化
第20回　流通チャネルの再編～パワー関係の変化
第21回　流通チャネルの再編～取引制度の崩壊
第22回　延期 - 投機の原理
第23回　製販連携
第24回　サプライ・チェーン・マネジメント
第25回　日本的流通システムの特徴①
第26回　日本的流通システムの特徴②
第27回　ネットワーク・オーガナイザーとしての流通
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　40%　出席　10%
・毎回、出席を取ることはしないが、不定期に、複数回に渡って取る予定である。
・出席状況が芳しくない場合には、試験やレポートによる評価の対象としないことがあるので注意すること。
・なお、履修者の状況を見ながら、試験およびレポートの比率について最終的な決定を行う。

【教科書】
講義において、適宜、紹介する。

【参考文献】
講義において、適宜、紹介する。

【備考】
【準備学習の指示】
経営学部の学生のみならず、各学部の学生をも対象としているので、最初から専門的な内容で講義を行うことは想定していない。しかし、少しでも、「『流通』とは、何か」というような自分なりの興味や関心は示してほしい。そのためにも各自で流通や商業、マーケティングに関する書籍や新聞記事、専門雑誌に目を通したり、企業や学会のホームページをサーチしたりと、「少しは見たことがある、聞いたことがある、触れたことがある」といった準備をしておいてほしい。
なお、全く出席をしないで、試験やレポートだけで単位が取得できるというようなことはないので、予め注意されたい。
・02～07生対象

科目名　クラス　講義区分	
流通論［2］　＜秋＞	
岸　本　喜樹朗	2単位

【講義概要】
流通とは、生産と消費という２つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

【学習目標】
講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、幅広い関心と猛烈な好奇心を持って履修に勤めてほしい。

【講義計画】
第１回　流通論では何を学ぶか―本講義の課題と方法
第２回　今、日本流通シーンでは何が起こっているのか
第３回　世界経済のトレンドと流通
第４回　流通論の範囲と対象
第５回　流通研究の理論研究
第６回　食品産業80兆円の構造
第７回　ブランド作りの実際
第８回　インタネットと流通
第９回　広告による販売促進－テレビCMを中心に―
第10回　SCM（サプライチェーンマネジメント）の展開
第11回　内外価格差と日本食の海外浸透
第12回　ドラッグストアと業態間競争
第13回　地域振興と地域ブランド形成（道の駅など観光も含む）
第14回　総括と試験における諸注意

【成績評価の方法】
試験　100%
期末試験の成績

【教科書】
進行に従い指示する。

【参考文献】
進行に従い指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
世界・日本の流通システムの効率・競争力を向上させるために学ぼうとする意欲の下で、広範な流通経済に関する新聞・雑誌の記事に絶えず目を向けて、場合によっては、それらをスクラップブックにファイルして持参するというような対応が望まれる。
・08～09生対象

ら行

科目名　クラス　講義区分	
臨床心理学　＜通期＞	
岡　井　哲　明	4単位

【講義概要】
「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（疾病を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問である「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。
現代は、複雑な社会であり、私たちを取り巻く環境の変化は変転目まぐるしく、私たちの心がそれに十分ついていけない状態にある。心の病はもはやボーダレスに社会に広がっているという感じさえある。ひとりひとりが心の置き場をどこに求めれば良いのかが分からなくなりつつある。
本講義では、臨床心理学の幅広い体系的な総論から各論までを取り扱うが、特に、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体としてとらえる「精神分析療法」を中心に据えて展開する。
必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介する。

【学習目標】
臨床心理学の概要と各理論を学ぶことを通じて、人間の心に対する一層の理解を深め、悩める人への援助について関心を抱き、受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、自分自身についてもしっかり考えるようになり、対人援助に向かおうとする今後の人生に役立てる契機となること。

【講義計画】
第１回　臨床心理学とは
第２回　臨床心理学の歴史
第３回　アセスメント（心理査定）
第４回　臨床心理学的地域援助
第５回　精神分析療法～フロイド①
第６回　精神分析療法～フロイド②
第７回　精神分析療法～フロイド③
第８回　精神分析療法～フロイド④
第９回　精神分析療法～フロイド⑤
第10回　精神分析療法～フロイド⑥
第11回　精神分析療法～フロイド⑦
第12回　精神分析療法～エリクソン①
第13回　精神分析療法～エリクソン②
第14回　精神分析療法～クライン
第15回　精神分析療法～ウィニコット
第16回　分析心理学～ユング①
第17回　分析心理学～ユング②
第18回　分析心理学～ユング③
第19回　分析心理学～ユング④
第20回　分析心理学～ユング⑤
第21回　分析心理学～ユング⑥
第22回　分析心理学～ユング⑦
第23回　来談者中心療法～ロジャース①
第24回　来談者中心療法～ロジャース②
第25回　来談者中心療法～ロジャース③
第26回　行動療法①
第27回　行動療法②
第28回　行動療法③

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%

科目名　クラス　講義区分	
倫理学　＜通期＞	
木　下　昌　巳	4単位

【講義概要】
「ただ生きることではなく、善く生きることが大切である」――古代ギリシアの哲学者ソクラテスの言葉である。では、「善く生きる」とはどのようなことを意味するのだろうか？倫理学とは、この「善い」とは何か、さらに「幸福」とは何か、「正義」とは何かというような問題を哲学的に探究する学問である。この講義では、古代ギリシアから20世紀に至るまでの西欧の倫理思想の流れを概観し、主な思想家の倫理思想を解説し、現代に生きるわれわれ自身が倫理的な問題を考えるさいの手掛かりとなる考え方を身につけることを目指す。

【学習目標】
古代ギリシア、ヨーロッパ近世の思想家、カント、ヘーゲル、ニーチェ、さらに20世紀の倫理的思想を時代順に取り上げて、できるだけ平易に解説する。ただ思想家の人名や著作の名前を憶えるだけではなく、それぞれの思想の内容と思想家の意図を理解して、各人がその思想を自分の言葉で説明ができるようになることを目指す。

【講義計画】
第１回　倫理学とは何か？
第２回　古代ギリシアの思想の概観
第３回　ソクラテスの生き方①――「善く生きる」ということ
第４回　ソクラテスの生き方②――ソクラテスの裁判
第５回　プラトンの倫理思想①――倫理理想としてのイデア論
第６回　プラトンの倫理思想②――いわゆる「プラトニック・ラブ」について
第７回　プラトンの倫理思想③――理想国家と哲人王の思想
第８回　アリストテレスの倫理思想①――徳（アレテー）の倫理学
第９回　アリストテレスの倫理思想②――「中庸」について
第10回　キュニコス派の禁欲主義
第11回　エピクロスの快楽主義
第12回　ストア派の倫理思想①
第13回　ストア派の倫理思想②
第14回　中世哲学の倫理思想――哲学と神学
第15回　前期テスト
第16回　ルネサンス期の倫理思想
第17回　大陸合理主義とイギリス経験論
第18回　デカルトの暫定的道徳
第19回　パスカルの「賭けの理論」
第20回　イギリス経験論①――ロックの倫理思想
第21回　イギリス経験論②――ヒュームの「共感」の理論
第22回　カントの義務論①
第23回　カントの義務論②
第24回　カントの義務論③
第25回　功利主義①――ベンサム
第26回　功利主義②――ミル
第27回　ヘーゲルの弁証法
第28回　ニーチェの超人思想
第29回　現代の倫理学的問題①
第30回　現代の倫理学的問題②

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　０%　出席　10%
テストは、前期と後期にそれぞれ１回ずつ、計２回実施する。出席は毎回取らないが、不定期に授業の内容に関する小作文を授業中に書いてもらい、それを出席点として成績に加味する。

【教科書】
プリントを授業中に配布する。必要な書籍は授業中に指示する。

【参考文献】
授業中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－海のシルクロード史を読む　＜春集＞	
深　見　純　生	４単位

【講義概要】
海のシルクロードの歴史をあとづける。
地域としては東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場する以前、つまり15世紀までを扱う。この間の、東南アジアを中心とする交易システムの形成とその変化をあとづけることになる。
いわゆるノート講義であるが、テキストに指定した史料集が必携である。
視覚的な理解のためビデオ資料も用いる。

【学習目標】
この講義は、海から歴史を見ると同時に史料を読むという、ちょっと欲張った内容である。海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。

【講義計画】
第１回　第１章 序論
　　１－１.海のシルクロード総説
第２回　１－２.東南アジア海域世界論
第３回　１－３.モンスーンの風土東南アジア
第４回　第２章 モンスーン航海以前
　　２－１.『漢書』地理志――現地商船による転送
第５回　２－２.『エリュトゥラー海案内記』――ヒッパロスの風
第６回　２－３.回転紋土器とビーズ
第７回　２－４.『後漢書』――２世紀の変化
第８回　２－５.３世紀の海洋東南アジア
第９回　第３章 モンスーン航海の確立
　　３－１.法顕『仏国記』――モンスーン航海の確立
第10回　３－２a.５－６世紀の海洋東南アジア(１)
第11回　３－２b.５－６世紀の海洋東南アジア(２)
第12回　３－３.前２世紀～後６世紀の総括
第13回　第４章 マラッカ海峡交易帝国
　　４－１.赤土国――最初のマラッカ海峡交易帝国
第14回　４－２.求法巡礼僧たち
第15回　４－３.交易帝国シュリーヴィジャヤ
第16回　４－４.シャイレーンドラ朝の時代
第17回　４－５.唐代の広州
第18回　４－６.中国船の南海進出
第19回　４－７.８－10世紀の海洋東南アジア
第20回　第５章 宋元代の海のシルクロード
　　５－１.朝貢からみた宋代の南海
第21回　５－２.『嶺外代答』にみる海外世界認識
第22回　５－３.『嶺外代答』にみる航路と航海時季
第23回　５－４.11世紀のマラッカ海峡
第24回　５－５.都会とネットワークの変化
第25回　５－６.長い13世紀のマレー半島とスマトラ
第26回　５－７.中国船・中国人の南インド進出
第27回　５－８.「海賊型中継交易国家」三仏斉の終焉
第28回　第６章 ムラカの時代
　　６－１.鄭和の大航海
第29回　６－２.ムラカの発展
第30回　６－３.東南アジアのイスラム化

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　25%
期末試験と時々の小レポートを総合して評価する。

【教科書】
深見純生 史料集　歴史学　海のシルクロード史を読む
いわゆるノート講義であるが、テキストに指定してある史料集が必携である。生協で購入すること。

【参考文献】
辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000〔桃図A292.09〕
長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃図A209〕
藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃図A209〕
家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.９〕

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－会社の歴史　＜秋集＞	
長谷川　　彰	４単位

【講義概要】
日本における会社の歴史を講義をする。通常日本における会社は、1872年の第一国立銀行等４つの銀行によって始まるとされている。もちろん、それに異論はないわけであるが、それに先立つ近世社会に登場してくる商家経営などは、その成立に関係はないのであろうか。興味のあるところである。近世社会と近代社会との間には、連続性と断絶性という両面があったのではないだろうか。考えて見なければならない問題である。
また、会社の存在は時代とともに変わってくるものである。今日の社会で会社はどのような役割を果たしているのであろうか。そのことも視野に入れて講義をしていきたいと考えている。

【学習目標】
会社の歴史を正確に理解して、併せて、会社が今日の社会でどのような役割を果たしているかを学習できればよいのではないか。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　近世社会と商家経営(１)－三井家の場合－

第３回　近世社会と商家経営(２)－三井家の場合－
第４回　近世社会と商家経営(３)－近江商人の場合－
第５回　明治政府の経済政策(１)－商法司・通商筍政策－
第６回　渋沢栄一と会社制度
第７回　明治政府の経済政策(２)－国立銀行条例の布告－
第８回　明治政府の経済政策(３)－殖産興業政策－
第９回　大阪紡績会社の設立
第10回　日本鉄道会社の設立
第11回　財閥の成立(１)－三井の場合－
第12回　財閥の成立(２)－三井の場合－
第13回　財閥の成立(３)－三井の場合－
第14回　ざいばつ
　　財閥の成立(４)－三菱の場合－
第15回　財閥の成立(５)－三菱の場合－
第16回　会社企業の成立－ビデオ鑑賞－
第17回　会社をめぐる法制
第18回　新興財閥の成立－日産の場合－
第19回　戦時体制下の財閥
第20回　戦後日本－民主化－
第21回　財閥解体
第22回　戦後の会社－ホンダの場合－
第23回　戦後の会社－ソニーの場合－
第24回　企業集団の形成(１)
第25回　企業集団の形成(２)
第26回　「家社会」と会社
第27回　「会社って何だ」
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100%
試験によって行なう。

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
適宜指示する。

ら行

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－近代日本の歴史と戦争　＜春集＞	
梅　本　哲　世	４単位

【講義概要】

この講義では、明治維新以後の近代日本における戦争の歴史について概観する。戦前の日本は、台湾出兵以来、日清戦争、日露戦争、第１次世界大戦、日中戦争、太平洋戦争など、多くの戦争を経験してきた。これらの戦争は、日本人のみならず、アジアの国々の多くの人びとに大きな苦難を与えた。アジア諸国との相互理解・友好の発展のために、私たちは過去のこのような戦争について深く学ぶ必要があるだろう。この講義がそのための一助となれば幸いである。

【学習目標】

戦前日本の戦争について、歴史学の現時点での到達点を踏まえて紹介し、これらの戦争について正確な理解をもつことをめざす。さらに、アジアの近隣各国としばしば問題となる「歴史認識」の違いについても、考える糸口を提供したい。歴史に興味を持つ多くの学生諸君の参加を歓迎する。

【講義計画】

第１回　はじめに－近代日本の「戦争」を学ぶ意味
第２回　「征韓論」と台湾出兵
第３回　日清戦争　その１
第４回　日清戦争　その２
第５回　日露戦争　その１
第６回　日露戦争　その２
第７回　「韓国併合」
第８回　日本の植民地統治　その１（台湾）
第９回　日本の植民地統治　その２（朝鮮）
第10回　第１次世界大戦とシベリア出兵
第11回　ワシントン体制と軍縮、パリ不戦条約
第12回　満州事変と満州国の成立　その１
第13回　満州事変と満州国の成立　その２
第14回　司馬遼太郎『坂の上の雲』について
第15回　まとめ
第16回　日中戦争　その１
第17回　日中戦争　その２
第18回　日中戦争　その３
第19回　ノモンハン事件
第20回　日独伊三国同盟と日本
第21回　太平洋戦争　その１
第22回　太平洋戦争　その２
第23回　太平洋戦争　その３
第24回　太平洋戦争　その４
第25回　ポツダム宣言と敗戦
第26回　極東国際軍事裁判
第27回　日本国憲法
第28回　まとめ－戦争と平和について

【成績評価の方法】

学期末試験の成績を主とするが、小テスト（３回程度）、レポート（２回程度）も判断の材料とする。

【教科書】

五味文彦・鳥海靖編　もういちど読む山川日本史　山川出版社

【参考文献】

藤岡信勝他『日本人の歴史教科書』、自由社、2009年。
日中韓３国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史［第２版］』、高文研、2006年。
加藤陽子『それでも日本人は戦争を選んだ』、朝日出版社、2009年。
その他の関連文献については、講義のなかで紹介する。

【備考】

講義前に、指定した教科書の該当部分を必ず読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－歴史から何を学ぶか　＜秋集＞	
串　田　久　治	４単位

【学習目標】

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光（しばこう）が著した歴史書『資治通鑑（しぢつがん）』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑（かがみ）とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

【講義計画】

第一部　歴史を記録することの意味
　　１　History　と　史
　　２　直　筆経と緯
　　３　春秋・檮杌・乗
第二部　歴史と思想
　　１　陰陽五行思想
　　２　十干十二支
　　３　経（たていと）と緯（よこいと）
　　４　天の思想：革命・天道・災異
第三部　歴史を読み解く
　　１　名と実
　　２　婦人の義
　　３　宋襄の仁
　　４　経と権
　　５　神格化

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味がありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、また、中間レポートも作成・提出することになります。小レポート・中間レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】

串田久治 儒教の知恵―矛盾の中に生きる 中公新書
初回講義時に販売

【参考文献】

入江　昭著『歴史を学ぶということ』（講談社現代新書）
宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書）
串田久治著『王朝滅亡の予言歌－古代中国の童謡』（大修館）
串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）
串田久治著『無用の用－中国古典から今を読み解く』（研文出版）
串田久治著『ゆっくり楽に生きる漢詩の知恵』（学研）
串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
武田泰淳著『司馬遷－史記の世界』（講談社学術文庫）
加地伸行著『史記－司馬遷の世界』（講談社現代新書）
KUSHIDA'S WEB SITE
　　http://www1.odn.ne.jp/kushida

科目名　クラス　講義区分	
レクリエーションワーク　＜春集＞	
時　森　美智子	4単位

【講義概要】
人びとがいきいきと豊かに生活するためには、「楽しさ・心地よさ」「生きがい」「つながり」「健康」などが重要な要素となります。
レクリエーションの「楽しさ」を体験学習し、また演習を通して、対象者の主体性を尊重するレクリエーション支援技術を学びます。

【学習目標】
①レクリエーションについての理解を深める。
②個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を身につける。
③目的や対象にあわせて、レクリエーションの楽しさをより大きくするためのレクリエーション支援技術を身につける。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目的、内容や進め方、評価方法等の説明）
　　アイスブレーキング
第２回　コミュニケーション・ワーク（アイスブレーキングの技法①）
第３回　コミュニケーション・ワーク（アイスブレーキングの技法②）
第４回　コミュニケーション・ワーク（アイスブレーキングの技法③）
第５回　レクリエーションの基本的理解
第６回　レクリエーション運動の歴史とその背景
第７回　ライフスタイルとレクリエーション
第８回　少子高齢社会の課題とレクリエーション
第９回　地域とレクリエーション
第10回　福祉領域におけるレクリエーション
第11回　レクリエーション支援の考え方
第12回　コミュニケーション・ワーク（ホスピタリティ・トレーニング①）
第13回　コミュニケーション・ワーク（ホスピタリティ・トレーニング②）
第14回　目的にあわせたレクリエーション・ワークとは
第15回　素材・アクティビティの選択と提供①
第16回　素材・アクティビティの選択と提供②
第17回　素材・アクティビティの選択と提供③
第18回　対象者にあわせたレクリエーション・ワークとは
第19回　対象者にあわせたアレンジ法の応用①
第20回　対象者にあわせたアレンジ法の応用②
第21回　対象者にあわせたアレンジ法の応用③
第22回　レクリエーション活動の安全管理
第23回　個人に対するレクリエーション支援
第24回　グループを介したレクリエーション支援
第25回　レクリエーション支援の計画
第26回　レクリエーション支援の実際①
第27回　レクリエーション支援の実際②
第28回　レクリエーション支援の実際③
第29回　レクリエーションへの期待
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　40%
平常点（出席、授業への取り組みの姿勢や態度）40%、レポート（授業内の課題等）30%、演習発表（レクリエーション支援の実際）30%を基準として、総合的に評価します。

【教科書】
レクリエーション支援の基礎　　－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－
（財）日本レクリエーション協会　発行

科目名　クラス　講義区分	
連結会計論　＜秋＞	
柴　　理梨亜	2単位

【講義概要】
企業投資に関する意思決定に不可欠な情報を提供するのが連結財務諸表である。その目的や利用、作成方法の基本を学ぶためにスライドを利用し、練習問題を実施しますが、教科書はその内容をしっかり理解するための予習と復習にしっかり利用することが不可欠。

【学習目標】
日本を代表する企業グループの情報は連結財務諸表によって開示される。その連結財務諸表を正しく読み取る力を身につけることが学習目標である。
本講義を受講するにあたって、会計に興味があるとともに簿記、会計と財務諸表の基礎知識が不可欠である。

【講義計画】
第１回　連結会計の概要と連結会計を理解するための前提となる簿記と会計の基礎知識
第２回　連結会計制度の基礎知識
第３回　連結財務諸表の目的と意義
第４回　連結財務諸表の作成プロセスと考え方
第５回　企業結合会計の意義と連結財務諸表
第６回　税効果会計の仕組み
第７回　連結財務諸表概要
第８回　連結財務諸表一般原則
第９回　連結貸借対照表
第10回　連結損益計算書
第11回　連結損益計算書
第12回　連結キャッシュ・フロー計算書
第13回　連結株主資本等変動計算書
第14回　全体の復習
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
出席とともにクラスでの議論や質問に積極的に勉強して答えることで最終の試験の成績につながる。

【教科書】
広瀬義州　/　太田正博 連結会計入門　第５版 中央経済社

ら行

科目名　クラス　講義区分	
労働経済論　＜通期＞	
片　岡　洋　子	4単位

【講義概要】
この講義は人が働くということを労働市場という考え方をもとに経済学の視点から学びます。現在、人の働き方として最もポピュラーなのは、自営業ではなく、企業で雇われて働くという形です。そこで重要な考え方が労働市場です。企業がどの人を雇い、それをもとに利潤を追求するのか。そして働く人からは労働をすることの対価として賃金を受け取り生計を立てる際に、どの企業で働くのか。雇われて働く場合におきる企業と働く人との取引が行われる場を労働市場と呼びます。労働市場のメカニズムを解明し、人の幸福を高める道筋を明らかにすることが労働経済の大きな目的です。
人が働く最大の目的は「生計を維持」することにあります。ただし、それだけではなく余暇を楽しんだり、働くことによって精神的な喜びや満足を得たり、そして、自分のもつ能力を最大に発揮できる仕事に就くことで、自己実現を図りたいという希望をもつ人もいるでしょう。自分が働くことで社会に貢献したい、という望みをもって、大学を卒業後は仕事を探そうとする人も多いことでしょう。
　現実にはそれが簡単にはいかないことはすでに多くの学生さんが在学中に気がついていることだと思います。就職活動の難しさを先輩から聞いたり、マスコミの報道で知っているでしょう。現在の日本では失業や自殺、ホームレスや、ネットカフェ難民といった、働くことにまつわる問題が山積みです。労働経済論を学ぶことで、なぜこれほどの問題が多くおきているのか、考える力を身につけ、知識を身につけていきます。

【学習目標】
　目標とするのは労働市場のメカニズムを理解することです。講義の中では、労働市場、雇用、賃金といったあまり耳慣れない言葉がたくさん出てきます。一つ一つの言葉を理解することが必要です。
　そして、たとえば雇用では、一生懸命仕事を探していて、働きたいのに働けない人がいるのはなぜか、その一方で人手が足りない企業が従業員を雇いたいのに雇えないのはなぜか、という問題を考える力を身につけます。大勢の失業者がいるのに、介護分野は人手不足という問題が現実に起きているのはなぜか、経済学の知識を利用して理解できるようにします。ほかにも賃金はどのように決まるのか、バイト代や初任給がいろいろな金額があって異なるのはなぜか。学歴は働く上で役に立つのか。これらの疑問に労働経済の知識を得て答えられるようになることが学習の目標です。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　賃金と雇用　１
第３回　賃金と雇用　２
第４回　賃金と雇用　３
第５回　日本の労働市場　１
第６回　日本の労働市場　２
第７回　日本の労働市場　３
第８回　賃金格差　１
第９回　賃金格差　２
第10回　賃金格差　３
第11回　教育・訓練　１
第12回　教育・訓練　２
第13回　教育・訓練　３
第14回　会社を辞めること　１
第15回　会社を辞めること　２
第16回　会社を辞めること　３
第17回　失業の経済学　１
第18回　失業の経済学　２
第19回　失業の経済学　３
第20回　女性の労働問題　１
第21回　女性の労働問題　２
第22回　女性の労働問題　３
第23回　若者の雇用問題　１
第24回　若者の雇用問題　２
第25回　若者の雇用問題　３
第26回　高齢者の雇用問題　１
第27回　高齢者の雇用問題　２
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%
ただし、授業内で小テスト、持ち帰りレポートを出す場合があります。これらは試験にプラスして加点します。

【教科書】
太田 聡一，橘木 俊詔 労働経済学入門 有斐閣

【参考文献】
授業内で指示します。

科目名　クラス　講義区分	
労働法　＜通期＞	
山　本　陽　大	4単位

【講義概要】
大学生であるみなさんのなかにはアルバイトをしている人が多いことと思います。自分で働いてお金を稼いだ時の達成感には他に代えがたいものがありますよね。でも、バイト先に対して何かしら不満を持っている人も多いのではないでしょうか？バイト代を支払ってくれない、休憩もなく長時間働かされる、理由もないのにバイト先をクビになった等々、世の中にはまだまだこのような問題で苦しんでいる人がいます。しかし、あなたはこんな場面に出くわした時、ちゃんとバイト先に反論することができますか？そんなときに頼りになるのが「労働法」なのです。

「労働法」は働くこと（労働）に関する法律です。従って、アルバイト学生も当然のことながら労働法のルールにより保護されることになります。もっとも、民法や刑法などとは違って「労働法」という単一の法典が存在するわけではありません。大きく分けると労働法は、①労働者個人と使用者との間の労働契約を規律する雇用関係法、②労働組合と使用者との間を規律する労使関係法、③失業予防や職業紹介など労働者の雇用の安定と保障を目的とする雇用政策法の３つの領域から成り立っています。

日本では、ほとんどの人が企業（会社）に雇われることで生活しているわけですから、みなさんが将来就職して雇用社会に出ていくに当たって労働法は当然知っておくべき法的知識となります。また特に最近、派遣切りや名ばかり管理職といった労働問題が、新聞メディアを騒がせており、労働法の重要性が注目されています。本講義では前期には主に上記①を対象に、後期には主として②および③を対象にして、親しみ易いよう身近な事例問題を用いつつ、労働法について分かりやすく解説します。

【学習目標】
労働法に関する基本的知識を習得するとともに、派遣切りや名ばかり管理職などの現代的な労働問題について、説明できるようになることを学習目標とします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス―労働法（Arbeitsrecht）はなぜ必要なのか？
第２回　労働法における登場人物―労働者・使用者・労働組合
第３回　労働条件の決定システム
第４回　労働契約の成立―内定が採れたらもう安心？
第５回　労働契約における権利と義務
第６回　賃金に関する法規制
第７回　労働時間法制（１）―原則編
第８回　労働時間法制（２）―弾力化編
第９回　ワーク・ライフ・バランス（WLB）
第10回　労働者とキャリア（１）―配転、出向、転籍
第11回　労働者とキャリア（２）―昇進、昇格、降格
第12回　企業秩序と懲戒処分―会社による刑罰？
第13回　労働条件の（不利益）変更―Pacta sunt servanda?
第14回　労働契約の終了―解雇が難しい国、日本
第15回　雇用システムの変容と労働法の新たな課題―前編
第16回　労働契約における期間の意義
第17回　パートで働くということ
第18回　派遣で働くということ
第19回　労働組合の役割（１）―憲法28条、組合の運営と統制権
第20回　労働組合の役割（２）―労働協約、争議行為とロックアウト
第21回　団体交渉権―実は凄い権利だった？
第22回　不当労働行為（１）―使用者性、団交拒否
第23回　不当労働行為（２）―不利益取扱い、支配介入
第24回　労働委員会の役割
第25回　営業秘密と労働法―不正競争防止法、競業避止義務
第26回　企業組織の変動と労働法―合併、事業譲渡、会社分割
第27回　労働災害の補償―労災補償制度、労働安全衛生法
第28回　雇用システムの変容と労働法の新たな課題―後編
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%
全講義終了後の試験により評価します。

【参考文献】
土田道夫『労働法概説』（弘文堂、2008年）

土田道夫・豊川義明・和田肇『ウォッチング労働法[第３版]』（有斐閣、2009年）
菅野和夫『労働法[第８版]』（弘文堂、2008年）

【備考】
六法（有斐閣の「ポケット六法（平成22年度版）」が望ましい）を必ず携帯して講義に臨むこと。

【準備学習の指示】
受講にあたり、民法（特に総則、債権総論、契約法）についての基本的知識を習得していることが望ましい。少なくとも、以下のキーワードについては事前に民法の基本書等を読んで予習しておいてほしい。
[キーワード]
私法、権利・義務、信義則、権利濫用、公序良俗、契約（自由の原則）、債務不履行、解除、不法行為、損害賠償

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ｉａ　＜春＞	
国　松　夏　紀	１単位

【講義概要】
　これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？
おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。
　英語より７文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習しいて覚えることから始めます。

【学習目標】
　そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ、特に春学期は、感覚的にロシア語になれることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習をしましょう。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション／ロシア語の辞書案内
　　春学期Ｉａと秋学期ⅡaはⅡ同一の教科書を使用します。春学期はその前半を以下の予定で学習します。
　　第１課：文字と発音Ⅰ
第２回　第２課：文字と発音Ⅱ
第３回　第３課：文字と発音Ⅲ（まとめ）挨拶の表現
第４回　第４課：名詞の性と形容詞の変化
第５回　第４課：練習問題
第６回　第５課：名詞の複数形、所有代名詞
第７回　第５課：練習問題　第６課：人称代名詞と動詞の現在変化
第８回　第６課：練習問題
第９回　第７課：名詞の対格（目的語）と動詞「愛する」の変化
第10回　第７課：練習問題
第11回　第４課　名詞の単数・対格、疑問文
　　第８課：動詞「～したい」の変化と動詞の命令形
第12回　第８課：練習問題
第13回　第９課：時間、年齢の表現
　　第９課：時間、年齢の表現
第14回　弟９課：練習問題　（まとめ）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
　出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくとも、メゲずに教室に出てきてロシア語に触れること。その平常の努力点と春学期末試験とで総合的に評価します。

【教科書】
中島由美、黒田龍之助、柳町裕子　ロシア語へのパスポート（改訂版）CD付　白水社

【参考文献】
　辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

ら行

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅰb　＜春＞	
杉　野　ゆ　り	1単位

【講義概要】
ロシア語はロシア連邦に暮らす約1億4千万人の言葉であり、CISの国々でも民族間のコミュニケーションの手段として使用されています。国連の公用語の一つで、宇宙飛行士たちの必修言語でもあります。大阪からロシア極東部のウラジオストクまで飛行機で約2時間の近さでありながら、日本にとってまだまだ未知で、それゆえ可能性に満ちた大国です。ロシア語の勉強を始めてロシアの豊かな文化を学びましょう。チャレンジ精神のある人を求めます。

【学習目標】
初級文法の基本の「き」を,練習問題でためしながら習得します。

【講義計画】
第1回　ロシア語ことはじめ。アルファベットを楽しもう。
第2回　ロシア文字とその読み方(1)
第3回　ロシア文字とその読み方(2)
第4回　第1課　名詞の性、複数形
第5回　第1課　形容詞の性・数変化
第6回　第2課　人称代名詞
第7回　第2課　動詞の過去形
第8回　第3課　名詞の格、所有代名詞(1)
第9回　第3課　所有代名詞(2)
第10回　第4課　名詞の単数・体格
第11回　第4課　名詞の単数・生格
第12回　第5課　動詞「ある、いる」の構文
第13回　第5課　接続詞の使い方、否定文
第14回　文法のまとめと応用
第15回　春学期試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
毎回授業に出席し、聞くこと話すこと、読み書きとあらゆる面からロシア語の吸収に努めること。授業中に行う小テストと春学期試験、出席回数で判断します。

【教科書】
諫早勇一、服部文昭、大平陽一 セメスターのロシア語 白水社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅱa　＜秋＞	
杉　野　ゆ　り	1単位

【講義概要】
春学期と同じ教科書を使用しながら、引き続き初級文法を学びます。

【学習目標】
初級文法の後半に入って、学ぶ内容は複雑になってきますが、最後までがんばりましょう。さまざまなテーマの会話が楽しめるよう力をつけます。

【講義計画】
第1回　第10課「行く・来る」を表す動詞。行き先の表現。
第2回　第10課　復習と練習問題
第3回　第11課　名詞の生格。所有の表現
第4回　第11課　復習と練習問題
第5回　第12課　曜日の表現。不完了体未来の表現。
第6回　第12課　形容詞の変化いろいろ。練習問題。
第7回　第13課　名詞の前置格と場所の表現。不規則変化動詞。練習問題。
第8回　第14課　動詞の過去形。名詞の対格（直接目的語）。練習問題。
第9回　第15課　名詞の与格（間接目的語）と造格。不規則変化動詞。
第10回　第15課　復習と練習問題。
第11回　第16課　不完了体と完了体動詞の用法。
第12回　第17課　完了体未来の表現。無人称文。
第13回　第17課　復習と練習問題。
第14回　第18課　テキスト購読。
第15回　秋学期試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
万難を排して、授業に出席してください。授業ではロシア語を聞くこと話すこと、読むこと書くことを積極的に行い、家では復習に努めてください。

【教科書】
中島由美、黒田龍之介、柳町裕子　ロシア語へのパスポート（改訂版）白水社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅱｂ　＜秋＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
春学期と同じ教科書を使用しながら、引き続き初級文法を学びます。

【学習目標】
初級文法の後半に入ります。増えてきた単語を着実に身につけながら、ロシア語文法をマスターします。

【講義計画】
第１回　春学期試験の返却と復習
第２回　第６課　名詞の単数・前置格
第３回　第６課　「行った、来た」の表現
第４回　第７課　名詞の単数・与格
第５回　第７課　名詞の単数・造格
第６回　第８課　所有の表現
第７回　第８課　存在の否定。人称代名詞と疑問詞の対格
第８回　第８課　人称代名詞と疑問詞の前置格
第９回　第９課　過去・現在・未来の時制について。現在形第１変化
第10回　第９課　現在形第２変化
第11回　第10課　動詞の未来形（１）
第12回　第10課　動詞の未来形（２）
第13回　第10課　運動の動詞
第14回　まとめと応用
第15回　秋学期試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
万難を排して授業に出席し、聞き話すこと、読み書きのあらゆる面からロシア語の習得に努めてください。

【教科書】
諫早勇一、服部文昭、大平陽一 セメスターのロシア語 白水社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅲａ　＜春＞	
国　松　夏　紀	１単位

【講義概要】
「ロシア語Ⅰ・Ⅱ」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の平易な文章を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習や書く練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、未だ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し補いながら、こまめに辞書も引きながら読んでいきましょう。それと同時に、教科書添付のCDなどで、ネイティヴの発音をシッカリ聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように・話せるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けるでしょう。

【学習目標】
基礎文法の習熟と、上記の通り、滑らかな読みと「リスニング」の習熟

【講義計画】
第１回　オリエンテーション／ロシア語はどんなことばか？
春学期（Ⅲａ）と秋学期（Ⅳａ）は同一教科書を続けて使用します。それは、全部で13課です。それに「文字とその読み方」がつきます。
目標としては春学期に７課、秋学期に６課仕上げる予定です。以下の予定は、各課ごとに出てくる「主な文法事項」を示します。
第２回　文字とその読み方（復習１）
第３回　文字とその読み方（復習２）
第４回　第１課：名詞の性、形容詞の主格、疑問視のある疑問文
第５回　第１課の復習　第２課：名詞を修飾する語、感嘆文、「どんな～？」
第６回　第２課の復習、簡単な挨拶　第３課：名詞の単数・複数、疑問視のない疑問文
第７回　第３課（続き）名前の言い方、正書法の規則（１）
第８回　第３課の復習　第４課：名詞の対格（目的語）、動詞の第１変化
第９回　第４課（続き）「～語を話す／知っている」の表現、簡単な挨拶
第10回　第４課の復習　第５課：動詞・第２変化（現在形と命令形）
第11回　第５課の復習　弟６課：名詞の前置格、ｃｙ動詞、正書法の規則（２）
第12回　第６課の復習　第７課：男性名詞、中性名詞の変化、述語としての造格
第13回　第７課（続き）動詞の過去形、前置詞ｂとｎａ、「行く・来る」の表現（ｂｙｔｂ）
第14回　第７課の復習及び総復習

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、教室に出てくること。その「平常点」と春学期末の試験により、総合的に評価します。

【教科書】
諫早勇一、服部文昭、大平陽一、ｲﾘｰﾅ･ﾒｰﾘﾆﾜ セメスターのロシア語読本 白水社

【参考文献】
授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

ら行

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅲｂ　＜春＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
ロシア語Ⅰ、Ⅱで基本文法を学んだ皆さん、このクラスではさらに詳しい文法を学んでロシア語の力を確かなものにしましょう。教科書のテキストは、具体的な状況における会話形式で書かれています。これらの会話テキストを文法的に理解して暗誦し、作文に応用できる力も身に付けましょう。

【学習目標】
ロシア語圏における旅行や滞在に際して、必要かつ基本的な日常会話と自己表現の力を習得することが目的です。各課のCDを繰り返し聞いてすらすら言えるようになるまで暗誦し、実際の会話や作文に応用できる力を付けること。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション「ロシア語ってどんな言葉？」。文字と発音（１）。
第２回　文字と発音（２）
第３回　第１課「これはナターシャです」。
第４回　第２課「私はナターシャではありません」。否定文、人称代名詞。
第５回　第３課「これは私のスーツケースです」。所有代名詞。
第６回　第４課「あそこに古い写真があります」。形容詞の使い方。
第７回　第５課「雑誌を読んでいます」。動詞の現在第１変化。
第８回　第６課「日本語を話します」。動詞の現在第２変化。
第９回　第７課「彼女はどこに住んでいるのですか」。場所の表現。不規則変化動詞。
第10回　第８課「電話を持っていますか」。所有の表現。
第11回　第９課「音楽を聴いているのですか」。名詞の対格、形容詞の対格。
第12回　第10課「小包を送りたい」。「～したい」の表現。行き先の表現。
第13回　様々な場面におけるあいさつ。
第14回　まとめと復習
第15回　春学期試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
万難を排して授業に出席すること。予習復習に努めてください。

【教科書】
黒田龍之介 ニューエクスプレス　ロシア語 白水社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅳａ　＜秋＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
春学期と同じ教科書を使用しながら、ロシア語の文法を学び、テキスト購読を行います。

【学習目標】
辞書を引いて簡単なロシア語の文章を読む力を養います。練習問題（聞き取りも含む）をこなして文法力、会話力を確実に定着させます。

【講義計画】
第１回　第８課　不完了体未来。名詞の硬変化, 軟変化。テキスト購読。
第２回　第８課　復習と練習問題
第３回　第９課　名詞の複数形。テキスト購読。
第４回　第９課　復習と練習問題。
第５回　第10課　否定生格。形容詞、所有代名詞の格変化。所有や存在の表現。
第６回　第10課　テキスト購読。
第７回　第10課　復習と練習問題。
第８回　第11課　形容詞の短語尾形。運動の動詞。無人称文。テキスト購読。
第９回　第11課　テキスト購読と練習問題。
第10回　第12課　数詞とそれと結びつく名詞の関係。不定人称文。
第11回　第12課　テキスト購読と練習問題。
第12回　第13課　比較級と最上級。時間の表現。
第13回　第13課　テキスト購読と練習問題。
第14回　第13課　練習問題。
第15回　秋学期試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
評価では、学期末試験はもちろんのこと、授業の出席回数と受講態度を重視します。

【教科書】
諫早勇一、服部文昭、大平陽一、イリーナ・メーリニコワ　セメスターのロシア語読本 白水社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅳb　＜秋＞	
杉　野　ゆ　り	1単位

【講義概要】
春学期と同じ教科書を使いながら、確かな文法の知識に基づいた総合的なロシア語の力を身につけるべく学習をすすめます。

【学習目標】
ロシア語圏における旅行や滞在に際して、必要かつ基本的な日常会話の力と自己表現力の習得を目ざします。

【講義計画】
第１回　第11課「日本文学を勉強していました」。動詞の過去形（1）。場所の表現。
第２回　第12課「家にいました」。動詞の過去形（2）。天候の表現。練習問題６。
第３回　第13課「今晩はお客が来ます」。動詞の不完了体未来。
第４回　第14課「カサがありません」（1）。生格の作り方と用法。
第５回　第14課「カサがありません」（2）。否定生格。交通手段の表現。練習問題７。
第６回　時の表現。曜日と月の表し方。
第７回　第15課「夫にプレゼントを買いたいのです」。与格の作り方と用法。
第８回　第16課「紅茶はふつうミルクを入れて飲みます」。造格の作り方と用法。
第９回　必要の表現。練習問題８。
第10回　第17課「日本料理店でアントンを見かけました」。男性名詞の対格。
第11回　第18課「それがアントンでないとどうして…」。動詞の不完了体と完了体。
第12回　練習問題９。数詞のまとめ。
第13回　第19課「捨てるのなら伺います」。完了体未来。
第14回　第20課「もし私が鳥だったら」。仮定法。述語の造格。
第15回　秋学期試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
万難を排して授業に出席すること。予習復習に努めて、授業についてきてください。

【教科書】
黒田龍之介 ニューエクスプレス　ロシア語 白水社

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　01＜通期＞	
岩　男　久仁子	4単位

【講義概要】
＜春学期＞
自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回800～1000字程度の文章を書く。

＜秋学期＞
一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。

【学習目標】
文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。
また、人前での「発表」をする練習も取り入れる。

時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。

用意するもの：
「論文指導」添削用原稿用紙　生協にて購入すること
国語辞典(電子辞書可、辞書代わりに携帯電話は使わないこと)
フロッピーディスクなど提出可能な記録媒体

【講義計画】
第１回　オリエンテーション　文を書くときの注意事項など。
第２回　自己紹介文①
第３回　自己紹介文②
第４回　与えられたテーマにそって書く
第５回　読書感想文①
第６回　読書感想文②
第７回　批評文①
第８回　批評文②
第９回　発表原稿作成①
第10回　発表原稿作成②
第11回　レジュメ作成
第12回　発表①
第13回　発表②
第14回　手紙の書き方
第15回　論文テーマの確認
第16回　文献検索オリエンテーション
第17回　文献リスト・序文作成①
第18回　文献リスト・序文作成②
第19回　文献リスト・序文作成③　チェック
第20回　本論作成①
第21回　本論作成②
第22回　本論作成③　前半部チェック
第23回　本論作成④
第24回　本論作成⑤　後半部チェック
第25回　注・参考文献リスト作成
第26回　完成内容チェック
第27回　発表①
第28回　発表②

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　50%　出席　50%
試験は行いません。毎回の出席とその時に書き上げた文章を提出、添削採点評価します。

【参考文献】
随時、紹介します。

ら行

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　02＜通期＞	
大　野　順　子	4単位

【講義概要】
本講義は、簡単な文章（ミニエッセイ、書評、要約、小論文等）を作成することを通して、文章を書くという行為に慣れることを第一の講義目標とします。文章を書くという行為は、将来、社会のいかなる場面においても避けることのできない行為であり、また、自分自身（自分自身の考え方も含め）を表現するツールとしても有効に機能します。本講義を通して、文章を書くことが不得意な人はその苦手意識を克服し、文章を書くことが得意な人は、より効果的な文章を書く力・スキルを身につけます。特に、大学ゼミ等での発表や就職活動時における自己アピール文の作成、その後の職場・社会でのプレゼンテーションの機会などに有効なスキルを身につけていくことを視野に入れ、講義を進めていきます。
後半はそれぞれ関心のあるテーマを一つ決めて、それについての本格的な論文を仕上げます。本講義を通して、学生は論文を書くという技術はもちろん、論文を仕上げる際に必要なスキル、例えば、資料検索や参考文献の探し方、注釈のつけ方などについて身につけることが可能です。特に、卒業論文や調査研究論文、懸賞論文等にチャレンジしようとする学生にとって、論文を書く上での基本的な手法を学ぶことができます。

【学習目標】
講義の前半は、毎時間、与えられたテーマに対し、短い文章（次数600字～800字程度：400字詰原稿用紙２枚程度）を書き、提出します。提出された文章については、教員のほうで修正、チェックし、可能な場合はその講義中に、あるいは、翌週の講義開始時に返却し、修正・チェック内容をもとに、書き直します。その作業が完了したものから、随時、新しいテーマで文章を書く作業を進めていきます。また、内容によっては書いた文章をクラス内で発表し、他履修学生からのコメントを受けるなど、相互的に文章を評価・吟味しあうような講義も計画しています。
後半は個人による、論文完成へ向けた作業が中心となります。論文はパソコン（Word）で作成してもらうことになりますので、本講義は基本的にパソコン教室にて行います。学生証等を必ず携帯すること。

【講義計画】
第１回　春学期オリエンテーション（必ず出席すること）
　　＜重要＞欠席者には「特別課題」を与える。
第２回　日本語表現の基礎知識
第３回　自己紹介の文章を書く
第４回　メールの書き方
第５回　履歴書の書き方
第６回　テーマに基づいた文章作成（～第８回まで）
第７回　テーマに基づいた文章作成
第８回　テーマに基づいた文章作成
第９回　帰納法と演繹法についての論文の書き方
第10回　データを読み解く（～第11回まで）
第11回　データを読み解く
第12回　新聞記事の社説を読んで要約する（～第14回まで）
第13回　新聞記事の社説を読んで要約する
第14回　新聞記事の社説を読んで要約する
第15回　まとめ
第16回　「論文の書き方」について
第17回　資料・書籍検索方法（大学図書館、インターネット、雑誌、CiNii等における検索方法、）
第18回　論文のテーマ設定と仮アウトラインの作成
第19回　文献リストの作成
第20回　論文アウトラインの作成
第21回　論文の執筆（作業報告書の提出）
第22回　論文の執筆（作業報告書の提出）
第23回　論文の執筆（作業報告書の提出）
第24回　論文の執筆（作業報告書の提出）
第25回　論文の執筆（作業報告書の提出）
第26回　論文の執筆（作業報告書の提出、論文の要約作成）
第27回　論文の執筆（作業報告書の提出、論文の要約作成）
第28回　発表（要約をもとに）
第29回　発表（要約をもとに）
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
①出席＝重視（遅刻は欠席）
②課題・レポート＝重視（毎時間、テーマに沿った課題を仕上げ、講義終了時に提出する）
③夏季、冬季休暇中の課題（課題：図書の要約）
その他
※出席と課題・レポート提出頻度に合わせ、講義への参加度・授業態度（平常点）を加え、総合的に判断します。
※試験は行いません。

【教科書】
特になし。
テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】
適時紹介する。

【備考】
準備物：
国語辞典（電子辞書可　※携帯電話は不可）
原稿用紙
その他、特にありません。
※必要時にはその都度指示します。
【準備学習の指示】
文章を書くという作業は、一見すると地味な作業にも見えますが、自分の意見を発信するという点では、非常にアクティブな作業とも解釈可能です。そのためには多くの文献に触れておくことが重要です。履修される方は、自分の関心あるテーマについて書かれた本を１冊（学術的なテーマのもの）講義（授業）が始まる前までに読んでおくこと（内容については各自第一回目の講義で発表してもらう予定）。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　03＜通期＞	
木　下　昌　巳	4単位

【講義概要】
この授業では、広くさまざまな分野からテーマを選び（テーマは毎回、授業で提示する）、1テーマごとに1回ないし2回の授業を使って、600字から800字程度の文章を授業内で書く練習をする。文章を書くことが苦手だと思っている人の積極的な参加を希望する。

【学習目標】
自分の考えていること、思っていることを言葉にして、それを他者に伝えることができるようになるためには訓練が必要である。ふだんから文章を書き慣れていない人を受講者と想定して、いわば「大学生らしい」文章が書けるようになることを目標とする。授業ではパソコンを使用し、プリントアウトしたものを提出してもらう。パソコンに慣れていない人でも、使用法を説明するので積極的に受講してほしい。

【講義計画】
第1回　授業の説明
第2回　作文1
第3回　作文2
第4回　作文3
第5回　作文4
第6回　作文5
第7回　作文6
第8回　作文7
第9回　作文8
第10回　作文9
第11回　作文
　　作文10
第12回　作文11
第13回　作文12
第14回　作文13
第15回　作文14
第16回　春学期の講評と秋学期の課題の説明
第17回　作文15
第18回　作文16
第19回　作文17
第20回　作文18
第21回　作文19
第22回　作文20
第23回　作文21
第24回　作文22
第25回　作文23
第26回　作文24
第27回　作文25
第28回　作文26
第29回　作文27
第30回　秋学期の講評

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　0％　出席　100％
課題の作文を提出したことによって、授業に出席したと見なす。単位取得には、8割以上の作文の提出が必須である。提出回数と作文の内容によって成績の評価をおこなう。

【教科書】
授業中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　04＜通期＞	
森　田　登代子	4単位

【講義概要】
文章（論文）を書くことは苦手という学生が多い。書く機会が多くないのが一番大きな理由だろう。第二に自分の言いたいことを的確に、率直に相手に伝えるコミュニケーション力が訓練づけられていないこともあげられよう。とくに現代の教育システムではその力は大きく欠如していることは否めない。文章力を高めるにはその最も基本になるコミュニケーション力を養うこと―自分が今考えていること、意図することを文字に忠実に移すこと、次にそれらを訓練し書く能力を高めることしかないだろう。それらを踏まえた基礎訓練に重きをおきたい。

【学習目標】
時事問題など現代をとりまくテーマを中心に、随筆から専門の論文分野までを含むテーマをあたえる。その課題にたいして、意図は何か、キーワードを考慮し、要旨を把握する。続いて自分の言いたいこと、書きたいことをまとめ、それを決められた字数で書く練習をおこなう。

【講義計画】
第1回　①自己紹介
　　②4年間で学ぶ内容の説明。それについての文章化へのスキルを説明
　　③一年間でどのような文章を書くか、文章のスキルアップについての概要説明。
第2回　文脈について
第3回　文の仕組み・構成について
第4回　文章の鑑識眼を養う
第5回　〈好奇心〉を文章にする
第6回　文体とは？
第7回　語彙を増やす
第8回　語彙力の訓練
第9回　文の薫りについて
第10回　文の勢いについて
第11回　簡略化と敷衍について
第12回　現代用語に慣れる
第13回　文からキーワードを探す
第14回　演習
第15回　演習
第16回　難易度の高い文章にあたる
第17回　演習
第18回　新聞記事にあたる
第19回　演習
第20回　演習
第21回　気分を変えて随筆演習
第22回　再度文脈にあたる
第23回　言葉・語彙・言語の概念性の説明
第24回　演習
第25回　演習
第26回　演習
第27回　論述作文とは？その演習
第28回　論文とは？その演習
第29回　演習
第30回　演習

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　80％　出席　20％
1．正しく漢字が書けること。2．漢字が読めないことは恥ずかしいと思うこと。3．文章のスキルアップに努める態度が認める。以上の3点が評価基準

【教科書】
森田登代子 はじけてダンス！ 小学館

【参考文献】
新聞記事など、拙著以外はすべて当方で用意する。

ら行

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　05＜通期＞	
松　永　俊　男	4単位

【講義概要】
的確な日本語で自分の考えを表現できるようにするのが、この授業の基本的な目的である。小論文のほかに、レポートの書き方、書評の書き方、手紙の書き方なども取り上げる。
毎回、授業時になんらかの文章を書く。毎回出席して課題をこなしていけば着実に成果が上がるが、欠席が続くと授業の意味がなくなる。したがって、最初の授業から欠席するもの、無断欠席の続くものは除籍する。

【学習目標】
原稿用紙の使い方から初めて、正しい文章の書き方、論理的内容構成法へと進む。初めに、指定の原稿用紙を用いた手書きによる文章作成を練習する。その後、ワープロによって作成した作品に基づく発表を交代で行う。
春学期は書評の作成練習を中心とし、図書館書評賞の入賞を目指す。秋学期は各自の研究発表を中心にし、レポート（研究報告）のきちんとした作成法を練習する。
下記の授業計画は固定したものではなく、受講生の状況や要望によって適宜、変更する。

【講義計画】
第１回　授業の方針の確認
第２回　原稿用紙の使い方
第３回　小論文練習
第４回　小論文練習
第５回　書評の書き方
第６回　書評作品の検討（１）
第７回　書評作品の検討（２）
第８回　書評作品の検討（３）
第９回　ワープロソフトの使い方
第10回　書評作品の検討・第二次（１）
第11回　書評作品の検討・第二次（２）
第12回　書評作品の検討・第二次（３）
第13回　手紙文の練習（１）
第14回　手紙文の練習（２）
第15回　書評作品（全員）の講評
第16回　手紙文（全員）の講評
第17回　レポートの書き方
第18回　要旨のまとめ方
第19回　第一次研究発表（１）
第20回　第一次研究発表（２）
第21回　第一次研究発表（３）
第22回　第一次研究発表（４）
第23回　自己アピール文の練習（１）
第24回　自己アピール文の練習（２）
第25回　第二次研究発表（１）
第26回　第二次研究発表（２）
第27回　第二次研究発表（３）
第28回　第二次研究発表（４）
第29回　論文集の作製
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　100％
毎回の授業の成果を総合して評価する。授業の性質上、原則として、欠席は許されない。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　06＜通期＞	
村　田　佳　隆	4単位

【講義概要】
論理的で明快な文章を書くための訓練をするが授業の目標である。実際に文章を書いてみて、その過程を振り返り、自分の思考や表現を鍛え直す。さらにそれを次に生かしていく。訓練はこのプロセスの繰り返しである。たくさんの文章、たくさんの言葉をインプットすること、自分の頭の中でもう一度考え直してみること、他人にわかるような形に作り直すこと、以上のことを心がけて欲しい。

【学習目標】
・さまざまな種類の文章に実際に当たってみる。
・自分自身の意見を短文で表現できるようにする。
・長い文章を書く訓練をする。
・論を構成する訓練をする。
・最終的な「作品」を仕上げる。
・長期休暇には作文を課す。

【講義計画】
第１回　導入
第２回　正しい日本語の使い方について　その１
第３回　正しい日本語の使い方について　その２　／　添削と講評
第４回　正しい日本語の使い方について　その３　／　添削と講評
第５回　正しい日本語の使い方について　その４　／　添削と講評
第６回　正しい日本語の使い方について　その５　／　添削と講評
第７回　論文とは何か　その１　／　添削と講評
第８回　論文とは何か　その２　／　添削と講評
第９回　論文とは何か　その３　／　添削と講評
第10回　発想の出発点　／　添削と講評
第11回　テーマ　／　添削と講評
第12回　「問題」について　その１　／　添削と講評
第13回　「述語」について　／　添削と講評
第14回　添削と講評
第15回　悪例
第16回　論文とは何か　その４　／　添削と講評
第17回　「問題」について　その２　／　添削と講評
第18回　アウトラインを書く　その１　／　添削と講評
第19回　アウトラインを書く　その２　／　添削と講評
第20回　アウトラインを書く　その３　／　添削と講評
第21回　アウトラインを書く　その４　／　添削と講評
第22回　アウトラインを書く　その５　／　添削と講評
第23回　論証について　／　添削と講評
第24回　パラグラフについて　／　添削と講評
第25回　わかりやすい文章とは　／　添削と講評
第26回　仕上げ　／　添削と講評
第27回　添削と講評、反省会
第28回　添削と講評、反省会

【成績評価の方法】
出席と提出された課題および最終「作品」による総合評価。

【教科書】
特になし。

【参考文献】
授業中に指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
特になし。

科目名　クラス　講義区分	
論理学　＜秋集＞	
早　川　のぞみ	４単位

【講義概要】

裁判官が判決を導き出すときには，「法的思考」という独特の思考方法をとる。そこでは，法（ルール）を大前提，裁判官によって認定された具体的事実を小前提として，後者（事実）を前者（法／ルール）の構成要件にあてはめることによって結論を導き出すという論理的推論の形式がとられている。これは，一般に「法的三段論法」と呼ばれており，論理学の演繹推論と結びつけて分析されている。尤も，法律の条文は一般的抽象的な文言によって書かれており，その具体的意味内容が曖昧な場合がある。また，そもそも判決の拠り所とする法そのものがない場合（法の欠缺）もありうる。そこで，さまざまな法の解釈の問題，および，法欠缺の補充の問題が生じてくる。裁判官はどのような仕方で正しい法的判断を下すのか。法的思考の仕組みと構造について検討する。

この講義では，まず第一に，裁判官が法的判断を下す法的三段論法の基礎にある論理学の基本について学ぶ。さらに，第二に，個別具体的な裁判判決を手がかりとして，それぞれの判決において，どのような仕方で各種法解釈の技法（拡張解釈，縮小解釈，反対解釈など）がとられているのかを詳しく分析・検討する。

【学習目標】

論理学のの基礎を学ぶ。さらに，法的実践における法律家（特に裁判官）の法的思考の方法と構造について理解することを目的とする。

【講義計画】

第１回　ガイダンス―講義の目的・概要・評価等について
第２回　序論
第３回　命題論理（１）
第４回　命題論理（２）
第５回　命題論理（３）
第６回　命題論理（４）
第７回　命題論理（５）
第８回　命題論理（６）
第９回　述語論理（１）
第10回　述語論理（２）
第11回　述語論理（３）
第12回　述語論理（４）
第13回　述語論理（５）
第14回　述語論理（６）
第15回　法命題の基本構造（１）
第16回　法命題の基本構造（２）
第17回　法の解釈・適用の基本構造（１）
第18回　法の解釈・適用の基本構造（２）
第19回　具体的ケースへの法の適用例（１）
第20回　具体的ケースへの法の適用例（２）
第21回　拡張解釈
第22回　縮小解釈
第23回　反対解釈
第24回　勿論解釈
第25回　欠缺の補充（１）―類推
第26回　欠缺の補充（２）―条理
第27回　制定法の誤謬訂正（１）
第28回　制定法の誤謬訂正（２）

【成績評価の方法】

期末試験（70%）および小テスト（30%）により評価する。

【教科書】

野矢茂樹『入門！論理学』中央公論新社
授業進度に合わせてレジュメ・資料を配布する。

【参考文献】

野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会, 1994年）
戸田山和久『論理学をつくる』（名古屋大学出版会, 2000年）
青井秀夫『法理学概説』（有斐閣，2007年）第３部以下
陶久利彦『法的思考のすすめ』（法律文化社, 2003年）
笹倉秀夫『法解釈講義』（東京大学出版会, 2009年）

【備考】

【予備学習の指示】授業進度にあわせて教科書の指定箇所を予習・復習すること。

ら行